

重要

再生できるディスクの種類・・・ 126ページ

ディスクの操作について・・・ 126ページ

7.0型ワイドシステムTV/DVD-V/VCD/
CD/チューナー・WMA/MP3対応・
メインユニット

AVH-P7DV

取扱説明書

必ずお読みください

目次

はじめに

共通の基本操作

間く

ラジオ

CD

WMA/MP3

マルチCD

見る

TV

DVD

ビデオCD

DVDプレーヤー

調節

音の調節

別売DSP

設定

各種の設定

DVDの機能設定

その他の機能

付録

目次 6ページ

carrozzeria

必ずお読みください

安全のために必ずお守りください

必ずお読みください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意（別冊の「安全上のご注意」もお読みください。）

！ 警告

[使用方法]

運転中に操作をしない



画面を長く見る必要がある複雑な機能は、自動車の運転中に操作をしないでください。前方不注意となり交通事故の原因となります。操作は、必ず安全な場所に車を停車させて行ってください。また運転中、画面を注視する時間は必要最低限としてください。

走行中にテレビやDVDなどを見ない



運転者がテレビやDVDなどを見るときは、必ず安全な場所に車を停車させてください。走行中にテレビやDVDなどを見ると前方不注意となり、交通事故の原因となります。

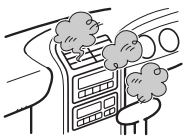
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なにおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときには、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

！ 注意

[使用方法]

モニター部にヒーターの熱などを当てない



モニター部にエアコンのクーラーの冷気やヒーターの熱を当てないでください。そのままご使用になると故障や火傷の原因となることがあります。

安全走行のために

本機はパーキングブレーキのオン/オフを検知しており、走行中にテレビやDVDの映像を見ることができないようになっています。(走行中は次のようなメッセージが表示されます。)



例：テレビを見ようとしたとき

このようなメッセージは、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけると解除されます。

リアモニターについて

リア映像出力に、後部座席専用のモニターを接続すれば、本機の映像を後部座席でも楽しむことができます。リア映像出力は、パーキングブレーキのオン/オフに関係なく映像が出力されます。リア映像出力に接続したリアモニターは、運転者が走行中に映像を見ることができる位置には、絶対に設置しないでください。

携帯電話をお使いになる際のご注意

携帯電話をお使いになるときは、携帯電話のアンテナをTVモニターに近づけないでください。画面に、はん点や色模様などのノイズが出たり、映像が乱れたりすることがあります。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。エンジンがかかっていないときに本機を使用すると、バッテリーが消耗します。

本書の見かた

表記 意味

 **ご注意**

注意マーク

操作を行う状況においての注意していただきたいことや、本製品の性能を維持するうえで注意していただきたいことについて説明しています。



メモマーク

操作するうえで注意すべきことやヒント、便利な使いかたなどについて説明しています。

「○○○」

画面に表示されるタッチキーを表します。

例：「ESC」にタッチする

【○○○】

本体のボタンを表します。

例：【V.ADJ】ボタンを押す



リモコンのボタンを表します。

例：BD/ESC ボタンを押す

→斜体

参照していただきたいページ、または他の説明書を導きます。

▶▶▶ ○○○ ▶▶▶

項目が複数ページにわたって説明されていることを表します。



- 本書で使っている画面例は、実際の画面と異なることがあります。
- 実際の製品の画面は、性能・機能改善のため、予告なく変更することがあります。
- 本書に記載している製品名等の固有名詞は各社の商標又は登録商標です。
- 本機の操作は、本体のボタン、画面のタッチキー、リモコンで行うことができますが、本書では主にタッチキーでの操作を中心に説明しています。

目次

必ずお読みください 2

安全のために必ずお守りください 2
安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」 もお読みください。) 3
安全走行のために 4
バッテリー上がりを防ぐために 4
本書の見かた 5

はじめに 10

ドルビーデジタル/DTS対応 10
CD TEXT対応 10
WMA/MP3再生対応 11
WMAについて 11
MP3について 11
ナビゲーションユニットと 組み合わせた場合 12
OSDスイッチの切り換えについて 13
50枚型マルチCDプレーヤーを ご使用になる場合のご注意 13
本体・モニター 14
リモコン 16

共通の基本操作 20

電源のON/OFF 20
電源ON 20
電源OFF 20
情報プレートの見かた 21
ソースのON/OFF 22
ソースON 22
ソースOFF 24
モニターの操作 25
モニターの収納 25
モニターの角度調節 25
モニターを一時的に手前に倒す 26
ディスクの出し入れ 27
ディスクの入れかた 27
ディスクの取り出しかた 27
タッチキーの基本操作 28
タッチキーを表示する 28
メニュー操作の基本 29

音量を調節する 31
本体での操作 31
リモコンでの操作 31

DVDを見る 32

基本的なDVDビデオ画面の見かた 32
基本的なリモコンの操作方法 32
内蔵プレーヤー (DVD) に切り換える 33
タッチキーを表示する 33
再生を停止する 33
一時停止する 33
コマ送り/スロー再生する 34
早戻し/早送りする 34
チャプターを選択する 34
ブックマークを設定する 34
DVDディスクの持つ ディスクメニューを操作する 35
タイトルを切り換える 36
再生中に音声や言語を切り換える 36
再生中に字幕言語を切り換える 36
再生中にアングルを切り換える 36
ディスクの指定された位置まで 戻って再生する(リターン再生) 37
見たい場面を指定して 再生する(サーチ)..... 37
タイトルを数字ボタンで選んで 再生する(ダイレクトサーチ) 38
オートプレイの設定をする 38
いろいろな操作をする 39
FUNCTIONメニューを表示する 39
リピート範囲を選ぶ(REPEAT) 39
音声の出力方法を 切り換える(L/R SELECT) 39

ビデオCDを見る 40

基本的なビデオCD画面の見かた 40
基本的なリモコンの操作方法 40
内蔵プレーヤー (V-CD) に 切り換える 41
タッチキーを表示する 41
再生を停止する 41
一時停止する 41
コマ送り/スロー再生する 41
早戻し/早送りする 42
トラックを選択する 42

PBCメニューを操作する	42	いろいろな再生をする	56
見たい場面を指定して		FUNCTIONメニューを表示する	56
再生する(サーチ)	43	リピート範囲を選ぶ(REPEAT)	56
いろいろな操作をする	44	ランダム再生する(RANDOM)	57
FUNCTIONメニューを表示する	44	スキャン再生する(SCAN)	57
リピート範囲を選ぶ(REPEAT)	44		
音声の出力方法を		ラジオ、交通情報を聞く	58
切り換える(L/R SELECT)	45		
CDを聞く	46	基本的なラジオ画面の見かた	58
		基本的なリモコンの操作方法	58
基本的なCD画面の見かた	46	ラジオ(TUNER)に切り換える	59
基本的なリモコンの操作方法	46	タッチキーを表示する	59
内蔵プレーヤー(CD)に切り換える	47	バンドを切り換える	59
タッチキーを表示する	47	放送局を選んで、ラジオを聞く	60
再生を停止する	47	プリセットチャンネルリストへ	
一時停止する	47	登録する	61
早戻し/早送りする	47	いろいろな操作をする	61
トラックを選択する	47	FUNCTIONメニューを表示する	61
聞きたい曲をさがす	48	受信状態の良い放送局を	
いろいろな再生をする	48	自動的に記憶させる(BSM)	62
FUNCTIONメニューを表示する	48	放送局の名前を登録する	
リピート範囲を選ぶ(REPEAT)	48	(ST NAME)	62
ランダム再生する(RANDOM)	49	交通情報を聞く	63
スキャン再生する(SCAN)	49	交通情報(TI)に切り換える	63
リストからトラック名で選んで		交通情報の周波数を切り換える	63
再生する(T.LIST)	49		
タイトルを入力する(T.EDIT)	50	テレビを見る	64
CD TEXTの情報表示	51		
WMA/MP3を聞く	52	基本的なテレビ画面の見かた	64
		基本的なリモコンの操作方法	64
基本的なWMA/MP3ディスク		テレビ(TV)に切り換える	65
画面の見かた	52	タッチキーを表示する	65
基本的なリモコンの操作方法	52	バンドを切り換える	65
内蔵プレーヤー(WMA/MP3)に		チャンネルを選んで、	
切り換える	53	テレビを見る	65
タッチキーを表示する	53	プリセットチャンネルリストへ	
WMA/MP3のタイトルを表示する	53	登録する	66
再生を停止する	54	いろいろな操作をする	66
一時停止する	54	FUNCTIONメニューを表示する	66
早戻し/早送りする	54	受信状態の良いチャンネルを	
トラックを選択する	54	自動的に記憶させる(BSSM)	67
フォルダーを切り換える	55	音声多重放送(2か国語放送)の	
リストからファイル名で選んで		音声を切り換える(MPX)	67
再生する	55		
ファイルの表示を一覧表示する	55		

マルチCDを操作する 68

基本的なマルチCD画面の見かた 68
基本的なリモコンの操作方法 68
マルチCDに切り換える 69
タッチキーを表示する 69
再生を停止する 69
一時停止する 69
ディスクを選ぶ 69
ディスクを切り換える 70
早戻し/早送りする 70
トラックを選択する 70
いろいろな再生をする 70
FUNCTIONメニューを表示する 70
リピート範囲を選ぶ(REPEAT) 70
ランダム再生する(RANDOM) 71
スキャン再生する(SCAN) 71
CDの音質を調整する(COMP) 72
リストからトラック名で選んで再生する(T.LIST) 72
タイトルを入力する 72
CD TEXTの情報表示 73
ITSを使う 74
ITSリストを作る(ITS MEMORY) 74
ITSリストから再生する(ITS PLAY) 74
ITSリストから1曲ずつ	
曲の指定を解除する 75
ITSリストからディスクごとに	
曲の指定を解除する 75

DVDプレーヤーを操作する 76

DVDプレーヤーに切り換える 76
タッチキーを表示する 76
再生を停止する 76
一時停止する 77
早戻し/早送りする 77
トラック(チャプター)を選択する 77
いろいろな再生をする 77
FUNCTIONメニューを表示する 77
リピート範囲を選ぶ(REPEAT) 78
ランダム再生する(RANDOM) 78
スキャン再生する(SCAN) 79
ITS再生について 79
CDのタイトルを入力する 79

音を調節する 80

AUDIOメニューを表示する 80
前後左右の音量バランスを調節する 80
イコライザーを使う 81
低音と高音を調節する 82
小音量時の音にメリハリをつける 83
サブウーファーを使う 83
外部アンプなどでサブウーファーを調節する 84
低い音をスピーカーから出力させないようにする 85
各ソースの音量の違いをそろえる 85
お好みの音の空間に設定する 86
イコライザーカーブを補正する 87

別売DSPで音を調節する ... 88

DSPメニューを表示する 88
SFCで音場を再現する 88
リスニングポジションを選ぶ 89
前後左右の音量バランスを調節する 90
各ソースの音量の違いをそろえる 90
ダイナミックレンジコントロールを使う 91
ダウンミックス機能を使う 91
オリジナルの音質で聞く 92
ドルビープロロジックIIを使う 92
接続したスピーカーの設定をする 93
クロスオーバー周波数を設定する 94
スピーカーレベルを調節する 95
テストトーンでスピーカーレベルを調節する 96
タイムアライメントを使う 96
オートタイムアライメントの設定値を使う 97
タイムアライメントを調節する 97
イコライザーを使う 98
イコライザーカーブを調節する 98
オートイコライザーの設定値を使う 99
オートイコライジング&タイムアライメントを行う 100
オートイコライジング&タイムアライメントを行う前に 100
オートイコライジング&タイムアライメント(Auto EQ&TA)を行う 102

各種の設定をする 104

初期設定 104
 初期設定メニューを表示する 104
 外部機器の音声を聞く (AUX) 104
 イルミネーションを設定する 105
 リアスピーカーの出力方法を
 設定する 105
 音の歪みを補正する
 (DIGITAL ATT) 106
 ミュート/アッテネートを
 設定する (TEL/GUIDE) 106
 ナビゲーションの音声出力を
 設定する 107
 オーディオの設定をリセットする
 (AUDIO RESET) 107

基本設定 108
 基本設定メニューを表示する 108
 AV入力を設定する 109
 バックカメラを設定する 109
 モニターの自動開閉と
 セットバックを設定する 110
 時計を設定する 110
 リアモニターの表示を設定する 111

DVDの機能設定 112

**DVDセットアップメニューを
 表示する 112**
 字幕言語を設定する 112
 音声言語を設定する 113
 メニュー言語を設定する 113
 アシスト字幕を設定する 114
 マルチアングルマークの
 表示/非表示を設定する 114
 TVアスペクトを設定する 115
 視聴制限を設定する
 (パレンタルロック) 116

その他の機能 118

瞬時に音量を小さくする (ATT) 118
 画面背景を設定する 118
 よく使う機能を直接操作する 119
 外部機器の名称を入力する 119
 iPodを使うとき 120
 ワイド画面の拡大方法を切り換える 120
 ワイドモードの種類 121
画質の調整 122
 モニターのまぶしさを抑える 122
リアモニターを使うとき 123
 リアモニターでDVDや
 ビデオCDを見る 123
リモコンコードの設定 123
本機のリセット 124

付録 126

再生できるディスクの種類 126
 WMA/MP3について 129
 使用上の注意 131
 モニターの正しい使いかた 132
**地上デジタルテレビジョン
 放送について 134**
言語コード表 136
用語解説 137
故障かな?と思ったら 140
こんなメッセージが表示されたら 145
保証書とアフターサービス 147
仕様 148
索引 150

はじめに

ドルビーデジタル/DTS対応

当社の5.1 ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」と組み合わせると、5.1チャンネルで収録された映画／音楽のDVDを臨場感豊かに再現することができます。



- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。



- DTSは米国Digital Theater Systems, Inc.の登録商標です。

CD TEXT対応

CD TEXTの再生に対応しています。

CD TEXTとは

CDのタイトルや歌手名などの文字情報が収録されているCDです。ディスクタイトル面に下記のマークの付いているCDはCD TEXTディスクです。下記マークの付いていないCD TEXTディスクもあります。

本機のCD TEXT文字表示は、英数字のみに対応しています。



WMA/MP3再生対応

WMA/MP3ファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ディスクは、ISO9660のレベル1、レベル2、および拡張フォーマット (Joliet、Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(→P138)

WMAについて



外装箱に印刷された、Windows Media™のロゴは、本機がWMAデータの再生に対応していることを示しています。

WMAとは、「Windows Media Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

- WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。

MP3について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送（地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア）、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配信システムなど。

ナビゲーションユニットと組み合わせた場合

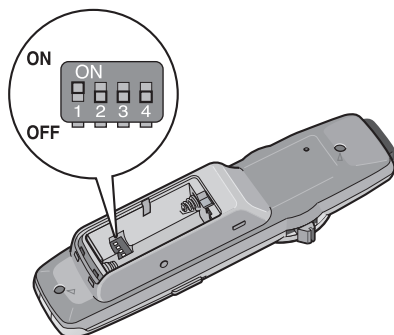
組み合わせ可能なナビゲーションについて

本機は、ナビゲーションユニットと組み合わせることができます。ただし、以下の制限事項があります。

- 本機からナビゲーションユニットのミュージックサーバーへは録音できません。
- 本機には、ピクチャーサイドピクチャー(P side P)、ピクチャーインピクチャー(P in P)機能はありません。
- 本機は、ナビゲーションユニットの音声認識による「AV操作」には対応していません。
- 本機とナビゲーションユニットを組み合わせている場合、エンジンスイッチをACCまたはONにしたときに、本機の画面が黒くチラつくことがあります。故障ではありません。

■ リモコンスイッチの設定

ナビゲーションユニット（「AVIC-H990」など）のリモコンのスイッチ1～4を正しく切り換えてください。スイッチはリモコンの裏タブをはずしたリモコン本体内にあります。ボールペンの先などで切り換えてください。



スイッチ1	スイッチ2	スイッチ3	スイッチ4
ON	OFF	OFF	OFF

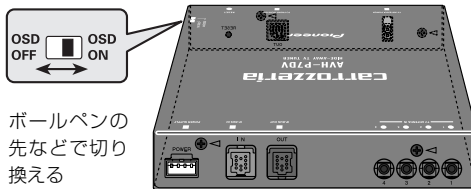


• 本機をナビゲーションユニットのリモコンで操作する場合、操作モード切り換えスイッチを「AUDIO」に設定してお使いください。

OSDスイッチの切り換えについて

OSDスイッチをONに設定しておく、テレビ映像にチャンネル番号を表示することができます。リアモニター接続時は、リアモニターでもチャンネル番号を表示することができます。組み合わせたシステムによっては、OSDのON設定がシステムの操作に影響する場合があります。その場合はOFFに設定してください。システムによるON/OFFの設定は、組み合わせたシステムの取扱説明書をご覧ください。

- OSDスイッチを切り換えたときは、リセットボタンを押してください。(→P124)



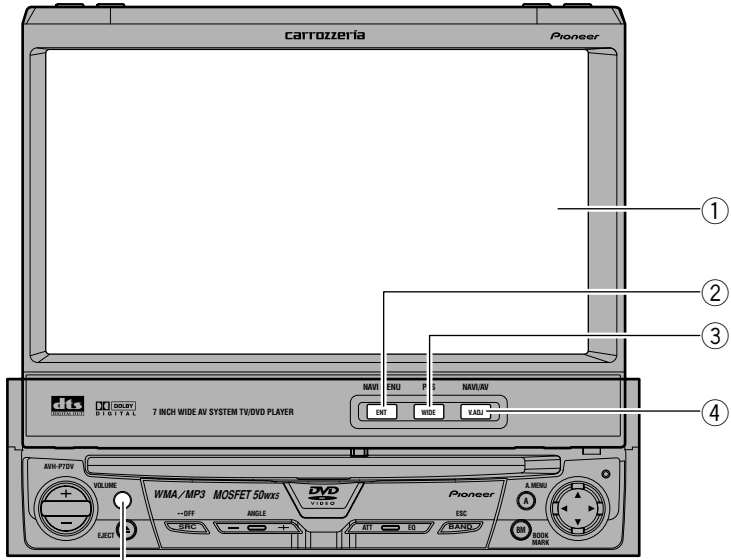
ボールペンの
先などで切り
換える

50枚型マルチCDプレーヤーをご使用になる場合のご注意

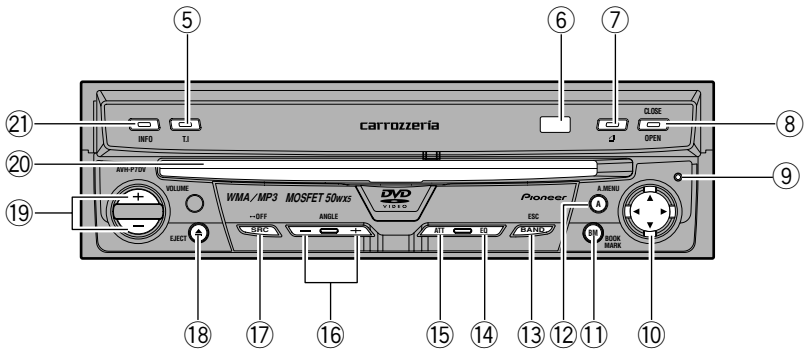
本機では、50枚型マルチCDプレーヤーの取扱説明書に記載されている50枚型マルチCDプレーヤー特有の機能を操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。また、タイトルリストモードには切り換わりません。

本体・モニター

■各部の名称



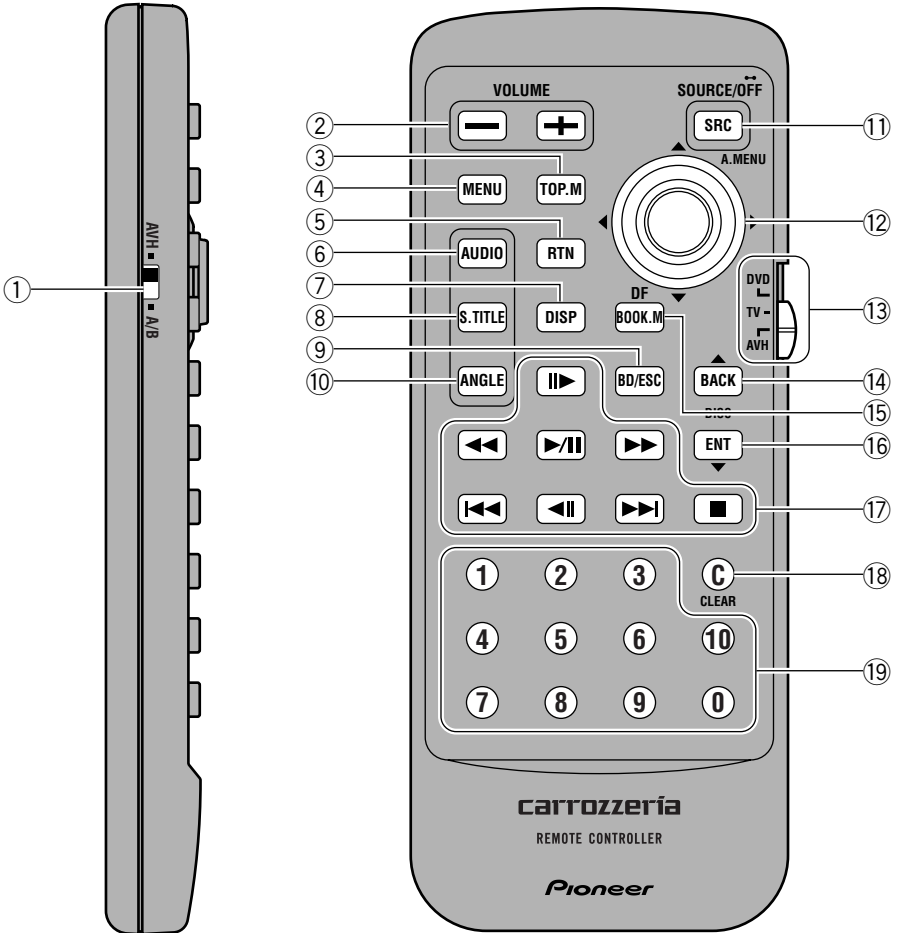
リモコン受光部








- ① **画面**
7インチのワイド液晶画面です。
- ② **ENTボタン (→P118)**
画面表示 (エンタテインメント) を切り換えます。
- ③ **WIDEボタン (→P120)**
ワイド画面の拡大方法を切り換えます。
- ④ **V.ADJボタン (→P122)**
長く押すと、画質調整メニューに変わります。
ナビゲーションシステムを接続している場合、ナビゲーション画面とソース画面を切り換えます。
ナビゲーションシステムの操作については、ナビゲーションシステムの説明書をご覧ください。
- ⑤ **T.Iボタン (→P63)**
交通情報を受信します。
- ⑥ **外光センサー (→P122)**
周囲の明るさに合わせて画面の明るさを自動調整するためのセンサーです。
- ⑦ **一時可倒ボタン (→P26)**
モニターを一時的に水平にします。
- ⑧ **OPEN/CLOSEボタン (→P25)**
モニターを収納したり、立ち上げたりします。
- ⑨ **リセットボタン (→P124)**
出荷時の設定に戻します。
- ⑩ **▲/▼/◀/▶ボタン**
上下左右に操作することでさまざまな機能を実行できます。
- ⑪ **BOOKMARKボタン (→P34)**
DVDを次に再生するとき、再生を始める場面(つづきで見たい場面)を記憶します。
- ⑫ **A.MENUボタン (→P29)**
メインメニューを表示します。
- ⑬ **BANDボタン**
ラジオやテレビのバンドを切り換えます。
- ⑭ **EQボタン (→P81, P89)**
イコライザーカーブやSFCのプログラムをお好みに切り換えます。
- ⑮ **ATTボタン (→P118)**
音量を一時的に下げます。
- ⑯ **ANGLEボタン (→P25)**
モニターの角度を調整します。
- ⑰ **ソース (SRC) ボタン (→P23)**
ソースを切り換えます。
- ⑱ **イジェクトボタン (→P27)**
ディスクを取り出します。
- ⑲ **VOLUMEボタン (→P31)**
音量 (ボリューム) を調節します。
- ⑳ **ディスク挿入口 (→P27)**
ディスクを挿入します。
- ㉑ **INFOボタン (→P21)**
映像系ソース再生時に、情報プレートをON/OFFします。

リモコン

■各部の名称



- ① **リモコンコード切り換えスイッチ (→P123)**
リモコンコードを切り換えます。
- ② **VOLUME ( / ) ボタン (→P31)**
本機の音量 (ボリューム) を調節します。
- ③ **TOP.M ボタン**
DVDの最上位メニューを表示します。
- ④ **MENU ボタン**
DVDのディスクメニューを表示します。
- ⑤ **RTN ボタン**
ビデオCDのPBCメニューを表示します。
- ⑥ **AUDIO ボタン**
DVDの音声言語を切り換えます。
- ⑦ **DISP ボタン**
画面表示を切り換えます。
- ⑧ **S.TITLE ボタン**
DVDの字幕言語を切り換えます。
- ⑨ **BD/ESC ボタン**
TVモードでは、テレビのバンドを切り換えます。
AVHモードでは、テレビやラジオのバンドを切り換えます。
またメニュー表示中は、メニュー画面を閉じ、ソース画面に戻ることができます。
- ⑩ **ANGLE ボタン**
DVDのアングルを切り換えます。
- ⑪ **ソース () ボタン**
ソースを切り換えます。
- ⑫ **ジョイスティック ()**
上下左右に押ししたり、中心を押すことでさまざまな機能を実行できます。
- ⑬ **操作モード切り換えスイッチ (→P19)**
リモコンの操作モードを切り換えます
- ⑭ **BACK ボタン**
一つ前の画面に戻ります。
- ⑮ **BOOK.M ボタン/DFボタン**
DVDモードでは、DVDを次に再生するときに、再生を始める場面 (つづきで見たい場面) を記憶します。(→P34)
AVHモードでは、DF (ダイレクトファンクション) ボタンの機能を使うことができます。(→P119)
- ⑯ **ENT ボタン**
画面表示 (エンタテインメント) を切り換えます。
- ⑰ **ディスク操作ボタン**
各種ディスクの再生、停止、早送りなどの操作をします。
- ⑱ **クリア () ボタン**
入力した数字を取り消します。
- ⑲ **数字ボタン**
ラジオ、テレビのプリセットチャンネルや、ディスクのトラック番号などを直接指定します。

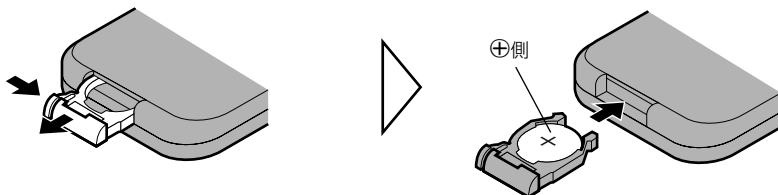
■ リモコンに電池を入れる

電池ホルダーを取り出し、リチウム電池（CR2025）を図のようにしてセットします。

はじめてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただくことができます。



・リモコンの操作可能範囲が狭くなってきたときは、新しい電池と交換してください。

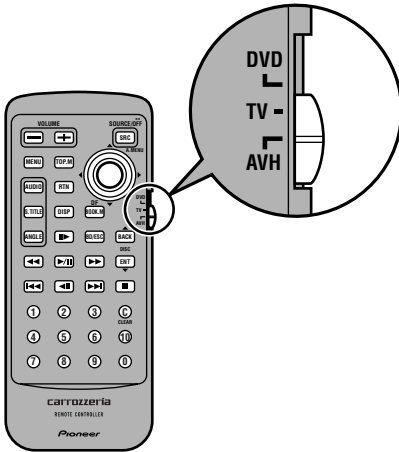


リモコン取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障する恐れがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンの操作ができないときがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起こったときは、内部についた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。

■ リモコンの操作モードについて

本機のリモコンには、DVDモード、TVモード、AVHモード（通常操作位置）の3つの操作モードがあります。



DVDモード：

以下の操作をするときに使います。

- DVDのディスクメニューをジョイスティックで操作するとき
- ビデオCDのPBCメニューを数字ボタンで操作するとき
- DVDのタイトルを数字ボタンで指定するとき

TVモード：

チャンネル操作をジョイスティックで行うときに使います。

AVHモード：

リモコンで、各ソースを操作するときに使います。通常は、このモードでお使いください。



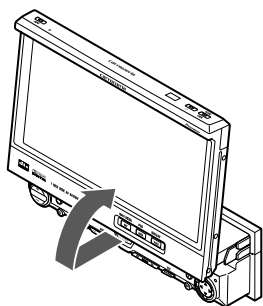
- DVDモードのときは、**ENT** **BACK** ボタンは使えません。
- TVモードのときは、ジョイスティック、ソース (**SRC**)、VOLUMEボタンだけ使えます。

共通の基本操作

電源のON/OFF

電源ON

エンジンスイッチをACCまたはONにすると、本機の電源がONになり、モニターが自動的に立ち上がります。また、情報プレートが表示されます。



- メモ • 基本設定の「FLP ST」(→P110) で「MANUAL」を設定していると、モニターは自動で立ち上がりません。【OPEN/CLOSE】ボタンを押して、立ち上げてください。
- 本機とナビゲーションユニットを組み合わせている場合、エンジンスイッチをACCまたはONにしたときに、画面が黒くチラつくことがあります。故障ではありません。

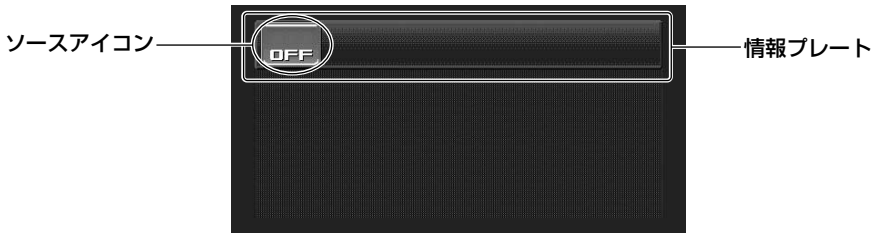
電源OFF

エンジンスイッチをOFFにすると、本機の電源がOFFになります。モニターは、自動的に収納されます。

- メモ • 基本設定の「FLP ST」(→P110) で「MANUAL」を設定していると、モニターは自動で収納されません。【OPEN/CLOSE】ボタンを押して、収納してください。

情報プレートの見かた

電源を入れたときや、ソースを切り換えたとき（→P22）には、画面の上部に情報プレートが表示されます。



情報プレートの左端には現在選択しているソースのアイコンが表示されます。また、ソースアイコンの右側には、選択したソースに応じて、再生時間やチャンネルなどのさまざまな情報が表示されます。表示される内容のうち、タイトル切り換えができるものや、一度に表示しきれずスクロールして表示させることができるものは、**[DISP]** ボタンを押して操作します。（詳しくは、各ソースの説明をご覧ください。）

テレビやDVD、ビデオCDなどの映像ソースでは、情報プレートは、約8秒後に自動的に消えます。情報プレートを表示したいときは、**[INFO]** ボタン、**[DISP]** ボタンを押してください。

ソースのON/OFF

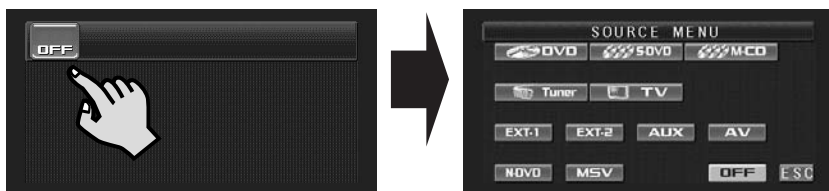
ソースON

エンジンスイッチをONにすると、前回使用していたソースがONになります。前回ソースOFFで、エンジンスイッチをOFFにした場合は、再びエンジンスイッチをONにしたとき、ソースはOFFのままとなります。ソースをONにするには、以下の方法があります。

■ ソースメニューで、ソースをONにする／ソースを選ぶ

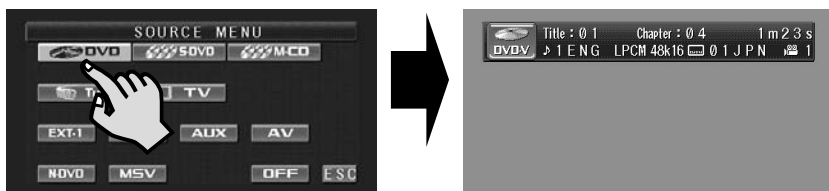
1 ソースアイコンにタッチする

ソースメニューが表示されます。



2 ソースを選んでタッチする

選んだソースがONになります。

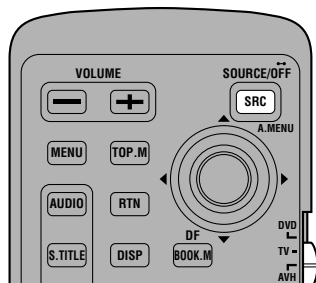
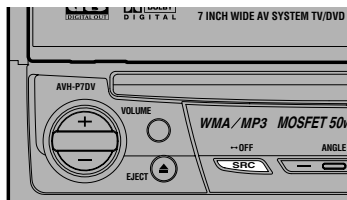


- ディスクを挿入すると、挿入されたディスクを自動判別して、ディスクに対応したソースになります。
- 「DVD」は内蔵のディスクプレーヤーのアイコンで、DVD、CD、WMA/MP3、ビデオCDのディスクを再生できます。

例えばCDを再生中に、TVのソースに切り換えた場合、CDのソースに戻すには、ディスクの種類に関わらず、「DVD」を選ぶことで、CDのソースがONになります。

■【ソース(SRC)】ボタン、**SRC** ボタンで、ソースをONにする／ソースを選ぶ

1 【ソース (SRC)】 ボタン、**SRC** ボタンを押す



ボタンを押すごとに、ソースが以下のように切り換わります。

ラジオ (FM/AM) → テレビ → AV (VTR) → 内蔵プレーヤー → マルチDVD/1枚型DVD (別売) → マルチCD (別売) → External 1*1 (エクスターナルユニット1) → External 2*1 (エクスターナルユニット2) → AUX (外部機器) → N-DVD*2 (ナビゲーションユニット内蔵プレーヤー) → MSV*2 (ナビゲーションユニット内蔵ミュージックサーバー)

*1 エクスターナルユニット接続時のみ切り換えることができます。

*2 ナビゲーションユニット接続時のみ切り換えることができます。



- DVDやCDなどのディスクがセットされていない場合は、内蔵プレーヤーには切り換わりません。
- 接続していないソースには切り換わりません。
- AVの設定を「VIDEO」にししないと、AVには切り換わりません。(『AV入力を設定する』(→P109))
- AUX (外部機器) の設定をONにししないと、AUXには切り換わりません。(『外部機器の音声を聞くAUX』(→P104))
- 本機の青リード線 (オートアンテナ) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- VTR機器を本機に接続している場合に、AVソースに切り換えることができます。
- External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2台のExternal (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External 1、External 2のどちらに切り換えても“External”が表示されます。2台のExternal (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External 1、External 2が自動的に設定されます。
- “N-DVD” とは、ナビゲーションユニットのDVDソースのことで、“MSV” とは、ナビゲーションユニットのミュージックサーバーソースのことで、接続したナビゲーションユニットにそれぞれのソースがある場合に、切り換えることができます。

ナビゲーションユニットのソース切り換えについて

本機では、ナビゲーションユニットを接続すると、ナビゲーションユニットのソース (ミュージックサーバーなど) に切り換えることができます。

ソースOFF

ソースをOFFにするには、以下の方法があります。

■ソースメニューで、ソースをOFFにする

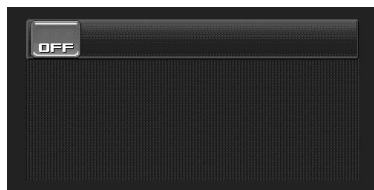
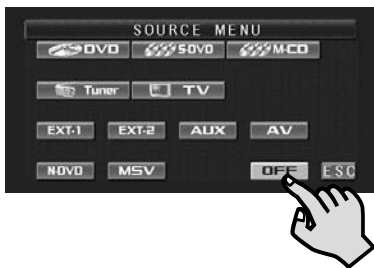
1 ソースアイコンにタッチする

ソースメニューが表示されます。



2 「OFF」にタッチする

ソースがOFFになります。



■【ソース (SRC)】ボタン、**[SRC]**ボタンで、ソースをOFFにする

1 【ソース (SRC)】ボタン、**[SRC]**ボタンを長く (約1秒以上) 押す

ソースがOFFになります。

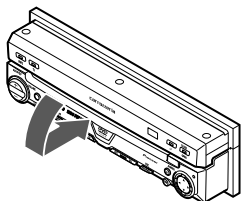


- モニターは立ち上がったまま、情報プレートに「OFF」が表示されます。
- ソースOFFにしても本機の電源はOFFにはなりません。
- モニターを【OPEN/CLOSE】ボタンで収納しても、本機の電源はOFFにはなりませんので、バッテリー上がり等にご注意ください。

モニターの操作

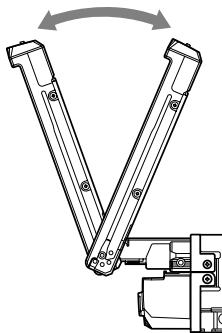
モニターの収納

【OPEN/CLOSE】ボタンを押すと、モニターを収納できます。



モニターの角度調節

車外からの光が画面に反射しているときなどは、【ANGLE】ボタンの（+）側、（-）側を押して、見やすくなるようにモニターの角度を調節できます。

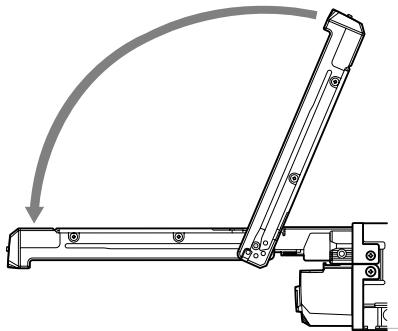


ご注意

- 角度調節は、手で行わないでください。モニターに強い力が加わると、故障することがあります。

モニターを一時的に手前に倒す

モニターの背後にあるスイッチを操作したいときなどは、【一時可倒】ボタンを押すと、モニターを一時的に手前に倒すことができます。

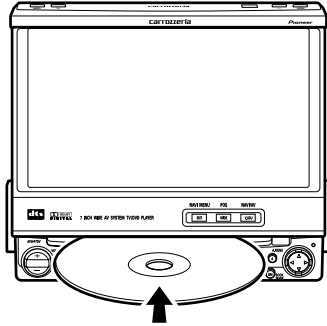


ボタンを押すとモニターが一時的に手前に倒れ、約10秒後（約3秒前になると、「ピッピッピッ」と鳴り、カウントダウンがはじまります。）に自動的に元に戻ります。

- メモ
 - モニターが完全に収納されたことを確認してください。モニターが途中で止まってしまった場合、【OPEN/CLOSE】ボタンを押して必ず収納してください。（そのまま放置しないでください。故障することがあります。）
 - モニターは、自動開閉機能により次のように動作します。
 - エンジンスイッチをON（またはACC）にすると、自動的にモニターが立ち上がります。車のエンジンスイッチをOFFにすると、OFFにしてから約6秒後にモニターが本体に収納されます。
 - 自動開閉機能を、OFFにすることもできます。（→P110）
 - OFFにした場合、【OPEN/CLOSE】ボタンを押してモニターを収納してから、車のエンジンスイッチをOFFにしたときは、再びエンジンスイッチをON（またはACC）にしても、モニターは立ち上がりません。【OPEN/CLOSE】ボタンを押して立ち上げてください。
 - モニターが車のコンソールやダッシュボードに当たる場合は、【ANGLE】ボタンの（-）側を押して、モニターを手前に調節してください。
 - 立ち上がったモニターを後ろに下げることができます。（→P110）
 - 角度調節したモニターを立ち上げたときは、自動的に調節した角度になります。

ディスクの出し入れ

ディスクの入れかた

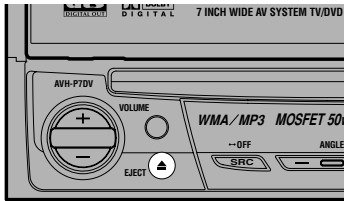


タイトル面を上にして、ディスクをディスク挿入口に差し込みます。
挿入されたディスクの種類を自動判別して、再生が始まります。



- 8cmディスクもアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。
- ディスク挿入口には、本機に対応したディスク以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。

ディスクの取り出しかた



【イジェクト】ボタンを押すと、ディスクが出てきます。



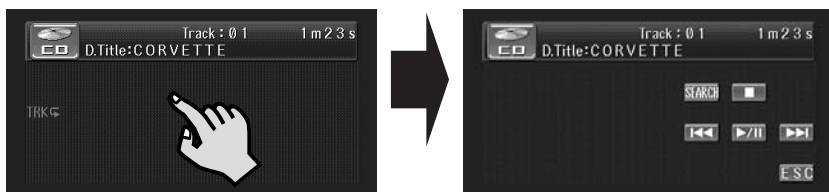
- 取り出したディスクは、ケース等に入れて保管してください。

タッチキーの基本操作

タッチキーを表示する


1 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。
表示されるタッチキーは、選んでいるソースやモードによって異なります。
(例：CDを再生している場合)



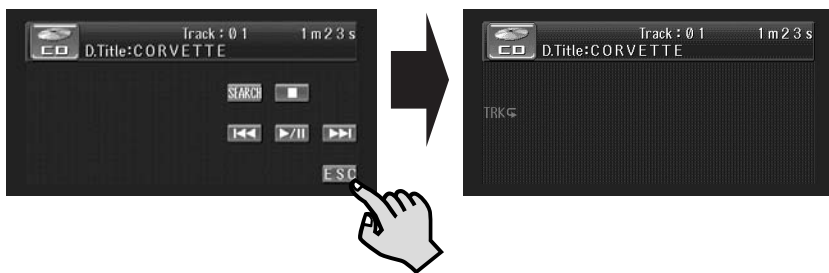
2 操作したい機能のタッチキーにタッチする

例：「▶/||」にタッチすると、ディスクを再生（または一時停止）します。

 ・選んだソースによっては「→」が表示され、タッチすると、次のページのタッチキー表示に切り換えることができます。

3 操作が終わったら、「ESC」にタッチする

タッチキーが画面から消えます。



 ・約30秒間操作をしなかった場合、タッチキーは自動的に消えます。

メニュー操作の基本

本機では、メインメニューから各ソースのさまざまな操作や設定を行います。

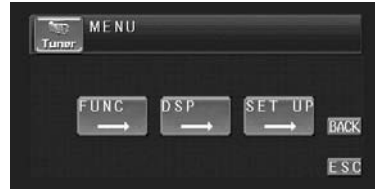
1 [A.MENU] ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

[ソースONで別売DSPユニット非接続時]



[ソースONで別売DSPユニット接続時]



[ソースOFF時]



• ソース画面のときに、ジョイスティックの中心を押すことでも、メインメニューを表示することができます。

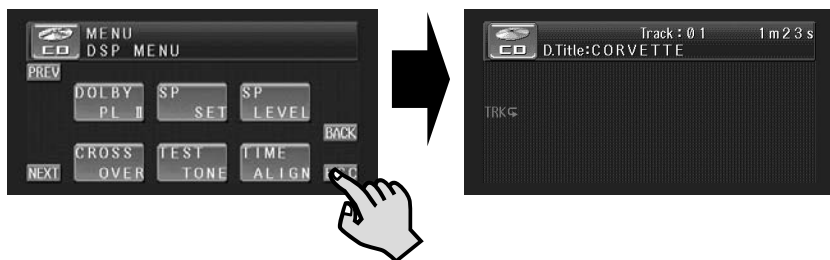
2 操作したいメニューのタッチキーにタッチする

タッチしたメニューが表示されます。

[FUNC]	: ソースごとに割り当てられたFUNCTIONメニューが表示されます。
[AUDIO]	: 音色や音場のきめ細かな設定を行うAUDIOメニューが表示されます。
[DSP]	: 別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続している場合に、音色や音場のきめ細かな設定を行うDSPメニューが表示されます。
[SET UP]	: 基本設定メニューが表示されます。
[INIT]	: 初期設定メニューが表示されます。

3 操作が終わったら、「ESC」にタッチする

ソース画面に戻ります。



- 【BAND】ボタン、【BD/ESC】ボタンを押しても、ソース画面に戻ります。
- 「BACK」にタッチすると、前の画面（1つ上の階層）に戻ります。
- 「NEXT」は、次ページにメニュー項目がある場合に表示され、タッチすると次ページに切り換わります。
- 「PREV」は、タッチすると前のページに戻ります。
- 約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

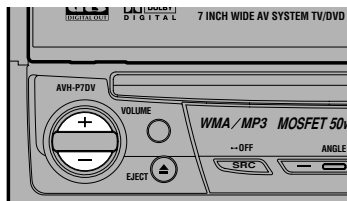
音量を調節する

本体での操作

1 [VOLUME] ボタンの (+) または (-) を押す

0～30の範囲で調節することができます。

約4秒間、音量が表示されます。



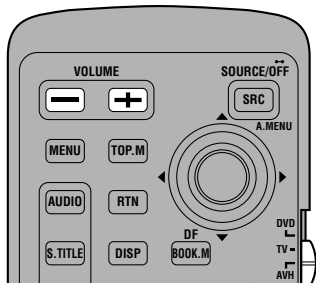
・別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続しているときは、音量は0～40の範囲で調節できます。

リモコンでの操作

1 VOLUMEの (+) または (-) を押す

0～30の範囲で調節することができます。

約4秒間、音量が表示されます。



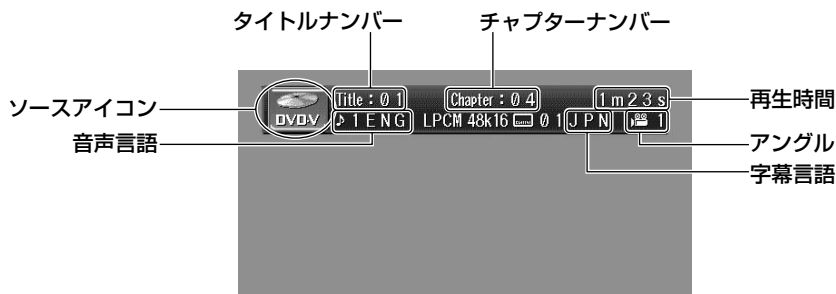
・別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続しているときは、音量は0～40の範囲で調節できます。

DVDを見る

停車中で、パーキングブレーキがかかっているときに、DVDの映像を見ることができます。走行中は安全のためDVDの映像は表示されません。(音声は聞くことができます。)

基本的なDVDビデオ画面の見かた

DVDビデオを見るときには、以下のような情報が表示されます。



基本的なリモコンの操作方法

DVDの操作は、タッチキーとリモコン (AVHモード) で行います。

AUDIO ボタン：音声言語の切り換え

S.TITLE ボタン：字幕言語の切り換え

ANGLE ボタン：アングルの切り換え

操作ボタン類

▶/⏸ : 再生の一時停止や、一時停止の解除(再生の再開) (→P33)

◀/▶ : 押している間、早戻し/早送り (→P34)

◀◀/▶▶ : チャプターの選択(現在のチャプター/次のチャプター) (→P34)

ボタンを押した回数分、チャプターを飛ばすこともできます。

⏮ : コマ送り再生 (→P34)

ジョイスティック

- 左または右に長く押す (◀▶) : 早戻し、早送り (→P34)
- 左または右に押す (◀▶) : チャプターの選択(現在のチャプター、次のチャプター)など(→P34)
- 上または下に押す (◀▶) : タイトル番号の切り換え (→P36)
- 中心を押す : メインメニューの表示 (→P39)

ブックマークボタン (BOOK.M)

再生を始める場面の記憶 (→P34)

停止ボタン (■)

再生の停止 (→P33)

数字ボタン (0~10)

タイトル、チャプター番号の指定 (→P38)



- DVDのディスクメニューをリモコンで操作するときやタイトルをリモコンの数字ボタンで操作したいとき、**BOOK.M** ボタンでブックマークを記憶するときは、リモコンの操作モードをDVDモードにします。

内蔵プレーヤー(DVD)に切り換える

1 ソースを内蔵プレーヤー (DVD) に切り換える (→P22)

ディスク挿入口にディスクを挿入するか、他のソースから内蔵プレーヤーに切り換えた場合に、自動的に再生が始まります。

ソースを切り換えると、情報プレートが約8秒間表示されます。



- ディスク情報の読み込みなど、準備動作中には“FORMAT READ”が表示され、操作はできません。準備動作が終了するまでお待ちください。
- ディスクによっては操作を受け付けられない部分があります。そのような場合は、⊘ (禁止マーク) が表示されます。(ディスクによっては、表示されないこともあります。)
- ディスクによっては、最初にディスクメニューが表示されるものがあります。その場合は、ディスクメニューから操作を行います。
- オートブレイの設定 (→P38) がONの場合は、ディスクメニューを約5秒間表示後、はじめのタイトルから自動的に再生を始めます。
- ディスク特有のメニューの操作方法は、ディスクの説明書をご覧ください。
- 本機で使用できるディスクに関しては、付録『再生できるディスクの種類』(→P126) をご覧ください。
- 前回「■」ボタンで再生を停止し他のソースに切り換えていた場合は、ディスクのその場所から再生が再開されます。ディスクを抜き差しした場合は、ディスクの最初から再生されます。
- ブックマーク(→P34)が記憶されている場合は、ブックマークから再生されます。

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

情報プレートとタッチキーが表示されます。



- 「→」にタッチすると、次のページのタッチキー表示に切り換わります。
- 約30秒間操作をしなかった場合、情報プレートとタッチキーは自動的に消えます。

再生を停止する

1 「■」にタッチする

一時停止する

1 「▶/||」にタッチする

一時停止を解除する場合は、もう一度「▶/||」にタッチします。



- **BOOKM** ボタンを押して一時停止することもできます。リモコンの操作モードをAVHモードにしてください。(→P119)

コマ送り／スロー再生する

■コマ送り再生

1 「II▶」にタッチする

タッチするごとに、映像がコマ送りされます。

「▶/II」にタッチすると、通常再生に戻ります。

■スロー再生

1 再生中に“III”が表示されるまで「II▶」にタッチし続ける

映像がスロー再生されます。

スロー再生中にさらに「◀III」／「II▶」にタッチすると、スロー再生の速度を4段階（1/16↔1/8↔1/4↔1/2）で切り換えることができます。

「▶/II」にタッチすると、通常再生に戻ります。



- ・コマ送り／スロー再生中は、音声を聞くことはできません。
- ・ディスクまたは再生位置によっては、⊙（禁止マーク）が表示され、コマ送り／スロー再生ができない場合があります。
- ・ディスクによっては、コマ送り／スロー再生中の映像が乱れる場合があります。
- ・コマ戻しと戻り方向のスロー再生はできません。

早戻し／早送りする

1 「◀◀」／「▶▶」にタッチし続ける

タッチしている間、早戻し「◀◀」／早送り「▶▶」ができます。

「◀◀」／「▶▶」にタッチし続ける（約5秒）と、早戻し／早送りのままになります。

「▶/II」にタッチすると、通常再生に戻ります。



- ・ジョイスティックを左または右に長く押すことでも早戻し／早送りすることができます。

チャプターを選択する

1 「◀◀」／「▶▶」にタッチする

「◀◀」にタッチすると、現在再生中のチャプターのはじめから再生されます。

「▶▶」にタッチすると、次のチャプターのはじめから再生されます。

またタッチキーに数回タッチすると、タッチした回数分のチャプターを飛ばすことができます。



- ・ジョイスティックを左または右に押すことでもチャプターを選択することができます。押した回数分のチャプターを飛ばすこともできます。

ブックマークを設定する

ブックマークとは、ディスク再生中に場面を選んで登録する機能です。次にディスクを挿入したときに、登録した場面から再生されます。またディスク取り出しの際に登録することもでき、次にディスクを挿入したときに、その続きから再生されます。

■再生中に記憶する

1 再生中に【BOOKMARK】ボタンを押す

📖が表示され、【BOOKMARK】ボタンを押した場面を記憶します。次にそのDVDを再生すると、記憶させた場面から再生が始まります。



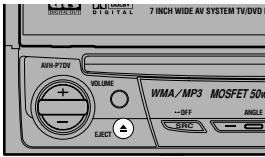
- ・記憶させたDVDの再生中に、【BOOKMARK】ボタンを長く（約2秒）押すと、📖が表示され、記憶が消去されます。
- ・この方法（【BOOKMARK】ボタン使用）でのブックマークの記憶は、ディスク1枚につき1場面記憶でき、ディスク5枚分のブックマークを記憶します。同じディスクで再度記憶操作した場合は、上書きされます。
- ・5枚を超えて新しいディスクのブックマークが記憶されると、一番使用時期の古いディスクのブックマーク情報に上書きされます。

- 1枚のディスクには、この方法（【BOOK-MARK】ボタン使用）と次項の方法（ディスク取り出し）による2つのブックマークを記憶することができます。その場合、次項の方法（ディスク取り出し）で記憶したブックマークが優先されます。
- 【BOOK-M】ボタンで記憶させるときは、リモコンの操作モードをDVDモードにしてください。（→P19）

■ディスク取り出しの際に記憶する

1 再生中に【イジェクト】ボタンを押し続け、ディスクを取り出す

📄が表示され、再生を中断したときの場面を記憶すると同時にDVDが出てきます。次にそのDVDを再生すると、記憶させた場面から再生が始まります。



- 記憶させたDVDの再生中に、【イジェクト】ボタンを押してDVDを取り出すと、📄が表示され、記憶が消去されます。
- この方法（ディスク取り出し）でのブックマークの記憶は、ディスク1枚までです。
- 1枚のディスクには、この方法（ディスク取り出し）と前項の方法（【BOOK-MARK】ボタン使用）による2つのブックマークを記憶することができます。その場合、この方法（ディスク取り出し）で記憶したブックマークが優先されます。

DVDディスクの持つディスクメニューを操作する

それぞれのDVDディスクが持つディスクメニューを操作します。

リモコンでディスクメニューの操作を行うときは、リモコンの操作モードをDVDモードにします。（→P19）

1 「MENU」または「TOP.M」にタッチする

ディスクのメニューが表示されます。



もう一度「MENU」または「TOP.M」にタッチすると、再生を再開できます。

2 「◀▶」にタッチする

ディスクのメニュー用タッチキーが表示されます。



3 「▲」/「▼」/「◀」/「▶」にタッチして、メニューを操作する



- ジョイスティックを上下左右に押して、メニュー操作することもできます。

4 「ENTER」にタッチする

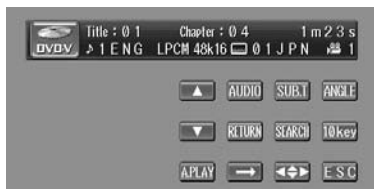


- ジョイスティックの中心を押して、選択したメニューから再生することもできます。
- ディスクによっては、ディスクメニューの無いものや、表示されない場合もあります。
- メニュー表示や操作方法は、ディスクによって異なります。

タイトルを切り換える


1 「→」にタッチする

操作タッチキーの2ページ目が表示されます。



2 「▲」/「▼」にタッチする

再生するタイトルを切り換えることができます。

 ・ジョイスティックを上または下に押してタイトルを切り換えることもできます。

再生中に音声や言語を切り換える


再生中に言語や音声タイプ（ドルビーデジタルやDTS）を切り換えることができます。

1 「→」にタッチする

操作タッチキーの2ページ目が表示されます。

2 再生中に「AUDIO」にタッチする

タッチするごとに、音声切り換わります。

 ・この機能は、音声複数収録されている場合だけ有効です。

- ・ディスクのパッケージにある④マークの数字が音声の収録数です。
- ・ディスクによっては、収録されているディスクメニューでしか切り換えることができない場合があります。
- ・“Dolby D”や“5.1ch”などの表示は、DVDに収録されている音声を表示しています。実際に再生される音声は設定により表示とは異なる場合があります。

- ・DTS音声はデジタル出力のみ対応していません。本機のデジタル出力を接続していない場合、DTS音声は出力されませんので、DTS以外の音声を選んでください。
- ・音声言語の設定は、DVDセットアップメニューでも行うことができます。(→P113)

再生中に字幕言語を切り換える


字幕言語が複数収録されているディスクの場合、再生中に字幕を切り換えることができます。

1 「→」にタッチする

操作タッチキーの2ページ目が表示されます。

2 再生中に「SUB.T」にタッチする

タッチするごとに、字幕言語が切り換わります。

 ・この機能は、字幕が複数収録されている場合だけ有効です。

- ・ディスクのパッケージにある⑤マークの数字が字幕の収録数です。
- ・ディスクによっては、収録されているディスクメニューでしか切り換えることができない場合があります。
- ・字幕言語の設定は、DVDセットアップメニューでも行うことができます。(→P112)

再生中にアングルを切り換える

アングルが複数収録されているディスクの場合、再生中にアングルを切り換えることができます。

アングル切り換えができる場面について

本機では、複数のアングルが収録されている場面を再生すると、画面左下にマルチアングルマーク(📐)を表示して知らせます。マルチアングルマーク表示のON/OFFは、DVDセットアップメニューで行います。詳しくは『マルチアングルマークの表示／非表示を設定する』(→P114)をご覧ください。

1 「→」にタッチする

操作タッチキーの2ページ目が表示されます。

2 再生中に「ANGLE」にタッチする

タッチすることにより、アングルが切り換わりします。



- この機能は、アングルが複数収録されている場合だけ有効です。
- ディスクのパッケージにある マークの数字がアングルの収録数です。

ディスクの指定された位置まで戻って再生する（リターン再生）

戻る位置の指定が収録されているディスクの場合、指定された位置まで戻って再生することができます。

1 「→」にタッチする

操作タッチキーの2ページ目が表示されます。

2 「RETURN」にタッチする

ディスクの指定された位置まで戻り、再生を始めます。

見たい場面を指定して再生する（サーチ）

タイトル、チャプターまたは時間を指定して、見たい場面を選んで再生することができます。

1 「→」にタッチする

操作タッチキーの2ページ目が表示されます。

2 「SEARCH」にタッチする

3 サーチの方法を選んでタッチする

「TITLE」	: タイトルサーチ
「CHAP」	: チャプターサーチ
「TIME」	: 再生時間によるサーチ (タイムサーチ)



4 「0」～「9」にタッチして、ナンバーまたは時間を入力する

数字キーの使いかた

3を選ぶとき : 「3」にタッチする

10を選ぶとき : 「1」と「0」にタッチする

23を選ぶとき : 「2」と「3」にタッチする

入力を取り消すとき : 「C」にタッチする

時間の入力のしかた（例）

21分43秒を入力するとき : 「2」・「1」・「4」・「3」の順にタッチする

1時間11分(71分00秒)を入力するとき : 「7」・「1」・「0」・「0」の順にタッチする



- リモコンの数字ボタンで入力することもできます。

5 「ENTER」にタッチする

指定した場所から再生されます。



- 無効の数字が入力された場合や再生位置によっては、 (禁止マーク) が表示され、入力を取り消される場合があります。
- 停止中は、チャプターサーチやタイムサーチは行えません。

タイトルを数字ボタンで選んで再生する（ダイレクトサーチ）

ディスク再生停止中に10キー画面から、見たい場面を指定して再生することができます。

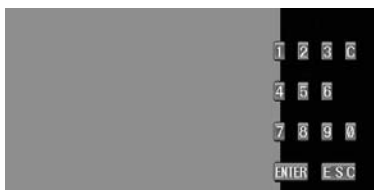
リモコンでダイレクトサーチを行うときは、リモコンの操作モードをDVDモードにします。

1 「→」にタッチする

操作タッチキーの2ページ目が表示されます。

2 「10key」にタッチする

10キーが表示されます。



3 「0」～「9」にタッチして、場面を選択する

数字キーの使いかた

3を選ぶとき : 「3」にタッチする

10を選ぶとき : 「1」と「0」にタッチする

23を選ぶとき : 「2」と「3」にタッチする

入力を取り消すとき : 「C」にタッチする

4 「ENTER」にタッチする

指定した場所から再生されます。

メモ ・再生停止中は、手順3の操作をリモコンの数字ボタンで行うことができます。この場合、「ENTER」のタッチは不要です。

数字ボタンの使いかた

3を選ぶとき : ③を押す

10を選ぶとき : ⑩と①を押す

23を選ぶとき : ⑩と⑩と③の順に押す

入力を取り消すとき : ④を押す

オートプレイの設定をする

DVDディスク挿入と同時に、はじめのタイトルから自動的に再生させることができます。

1 「→」にタッチする

操作タッチキーの2ページ目が表示されます。

2 「A.PLAY」にタッチしてONに設定する

タッチするごとに「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。

切り換えた設定は約4秒間画面に表示されます。

OFFに設定すると、オートプレイを行いません。

メモ ・オートプレイの設定がONのときは、DVDのリピート再生はできません。
 ・ご使用になるディスクによっては、期待通りの動作ができない場合があります。このような場合には、オートプレイをOFFにして再生してください。

いろいろな操作をする

リピート範囲の選択や出力音声の切り換えは、FUNCTIONメニューを表示して行います。

FUNCTIONメニューを表示する

1 「A.MENU」ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「FUNC」にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。



- メモ**
- 「ESC」にタッチするか【BAND】ボタンまたは【BD/ESC】ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
 - 「BACK」にタッチすると、前の画面に戻ります。
 - 約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

リピート範囲を選ぶ (REPEAT)

リピート範囲には、以下の選択項目があります。

「TITLE」	: 現在再生中のタイトルを繰り返す
「CHPTR」	: 現在再生中のチャプターを繰り返す
「DISC」	: 再生中のディスク全体を繰り返す

1 FUNCTIONメニューを表示する (→前項)

2 「REPEAT」にタッチする

タッチすることにより、リピートの範囲が以下のように切り換わります。

→「DISC」→「CHPTR」→「TITLE」



選んだリピート範囲で、リピート再生します。

- メモ**
- リピート再生中に、リピート範囲を超えて早戻し/早送りの操作を行った場合、リピート再生は解除されます。

音声の出力方法を切り換える (L/R SELECT)

音声の出力方法には、以下の選択項目があります。

「L+R」	: 左+右
「LEFT」	: 左
「RIGHT」	: 右

- メモ**
- LPCM音声時のみ操作することができます。

1 FUNCTIONメニューを表示する (→前々項)

2 「L/R SELECT」にタッチする

タッチすることにより以下のように切り換わります。

→「L+R」→「LEFT」→「RIGHT」

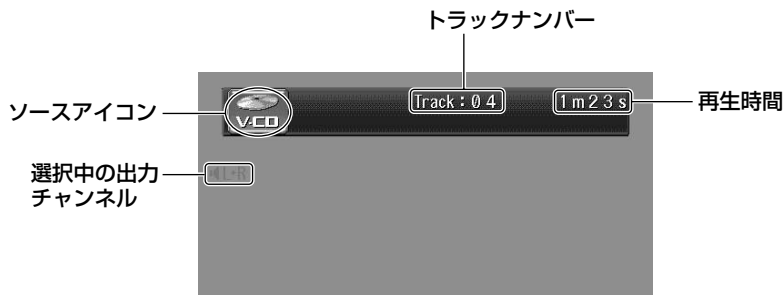


ビデオCDを見る

停車中で、パーキングブレーキがかかっているときに、ビデオCDの映像を見ることができます。走行中は安全のためビデオCDの映像は表示されません。(音声は聞くことができます。)

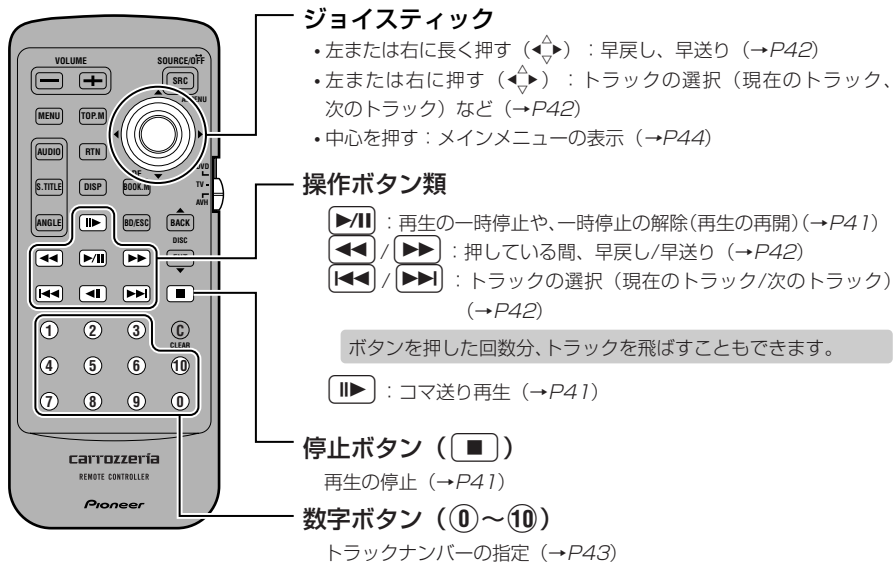
基本的なビデオCD画面の見かた

ビデオCDを見るとき画面には、以下のような情報が表示されます。



基本的なリモコンの操作方法

ビデオCDの操作は、タッチキーとリモコン (AVHモード) で行います。



メモ • PBC (プレイバックコントロール) メニュー付きのディスクで、PBCメニューをリモコンで操作するときは、リモコンの操作モードをDVDモードにしてください。

内蔵プレーヤー(V-CD)に切り換える

1 ソースを内蔵プレーヤー (V-CD) に切り換える (→P22)

ディスク挿入口にディスクを挿入するか、他のソースから内蔵プレーヤーに切り換えた場合に、自動的に再生が始まります。

ソースを切り換えると、情報プレートが約8秒間表示されます。



- ディスク情報の読み込みなど、準備動作中には“FORMAT READ”が表示され、操作はできません。準備動作が終了するまでお待ちください。
- ディスクによっては操作を受け付けられない部分があります。そのような場合は、⊘ (禁止マーク) が表示されます。(ディスクによっては、表示されないこともあります。)
- PBCメニュー付きディスクでは、最初にPBCメニューが表示されるものがあります。その場合は、PBCメニューから操作を行います。
- PBC機能は解除できません。
- 本機で使用できるディスクに関しては、付録『再生できるディスクの種類』(→P126)をご覧ください。
- 前回「■」で再生を停止し他のソースに切り換えていた場合は、ディスクのその場所から再生が再開されます。ディスクを抜き差しした場合は、ディスクの最初から再生されます。

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

情報プレートとタッチキーが表示されます。



- 「→」にタッチすると、次のページのタッチキー表示に切り換わります。
- 約30秒間操作をしなかった場合、情報プレートとタッチキーは自動的に消えます。

再生を停止する

1 「■」にタッチする

一時停止する

1 「▶/||」にタッチする

一時停止を解除する場合は、もう一度「▶/||」にタッチします。



- 「BOOK.M」ボタンを押して一時停止することもできます。リモコンの操作モードをAVHモードにしてください。(→P119)

コマ送り/スロー再生する

■コマ送り再生

1 「||▶」にタッチする

タッチすることにより、映像がコマ送りされます。

「▶/||」にタッチすると、通常再生に戻ります。

■スロー再生

1 再生中に“”が表示されるまで「II」にタッチし続ける

映像がスロー再生されます。

スロー再生中にさらに「◀II」/「II▶」にタッチすると、スロー再生の速度を4段階（1/16↔1/8↔1/4↔1/2）で切り換えることができます。

「▶II」にタッチすると、通常再生に戻ります。



- コマ送り/スロー再生中は、音声を聞くことはできません。
- ディスクまたは再生位置によっては、⊘（禁止マーク）が表示され、コマ送り/スロー再生ができない場合があります。
- ディスクによっては、コマ送り/スロー再生中の映像が乱れる場合があります。
- コマ戻しと戻り方向のスロー再生はできません。

早戻し/早送りする

1 「◀◀」/「▶▶」にタッチし続ける

タッチしている間、早戻し「◀◀」/早送り「▶▶」ができます。

「◀◀」/「▶▶」にタッチし続ける（約5秒）と、早戻し/早送りのままになります。

「▶II」にタッチすると、通常再生に戻ります。



- ジョイスティックを左または右に長く押すことでも早戻し/早送りすることができます。

トラックを選択する

1 「◀◀」/「▶▶」にタッチする

「◀◀」にタッチすると、現在再生中のトラックのはじめから再生されます。

「▶▶」にタッチすると、次のトラックのはじめから再生されます。

またタッチキーに数回タッチすると、タッチした回数分のトラックを飛ばすことができます。



- ジョイスティックを左または右に押すことでもトラックを選択することができます。押した回数分のトラックを飛ばすこともできます。

PBCメニューを操作する

PBCメニュー付きディスクが持つPBCメニューを操作します。

リモコンでPBCメニューの操作を行うときは、リモコンの操作モードをDVDモードにします。

1 「→」にタッチする

タッチキーの2ページ目が表示されます。



2 「RETURN」にタッチする

PBCメニューが表示されます。

2 数字ボタンを押して、メニューを選ぶ

3 「ENTER」にタッチする

選択したメニューから再生されます。

メモ ・メニュー表示や操作方法は、ディスクによって異なります。詳しくはディスクの説明書をご覧ください。

見たい場面を指定して再生する (サーチ)

トラックまたは時間を指定して、見たい場面を選んで再生することができます。(PBCメニュー付きディスクを再生中は、「SEARCH」は表示されません。)

1 「→」にタッチする

タッチキーの2ページ目が表示されます。



2 「SEARCH」にタッチする

3 サーチの方法を選んでタッチする

「TRACK」 : トラックサーチ

「TIME」 : 再生時間によるサーチ (タイムサーチ)



4 「0」～「9」にタッチして、ナンバーまたは時間を入力する

数字キーの使いかた

3を選ぶとき : 「3」にタッチする

10を選ぶとき : 「1」と「0」にタッチする

23を選ぶとき : 「2」と「3」にタッチする

入力を取り消すとき : 「C」にタッチする

時間の入力のしかた (例)

21分43秒を入力するとき : 「2」・「1」・「4」・「3」の順にタッチする

1時間11分(71分00秒)を入力するとき : 「7」・「1」・「0」・「0」の順にタッチする

メモ ・リモコンの数字ボタンで入力することもできます。

5 「ENTER」にタッチする

指定した場所から再生されます。

メモ ・無効の数字が入力された場合や再生位置によっては、⊘ (禁止マーク) が表示され、入力を取り消される場合があります。
・停止中は、タイムサーチは行えません。

いろいろな操作をする

リピート範囲の選択や出力音声の切り換えは、FUNCTIONメニューを表示して行います。

FUNCTIONメニューを表示する

1 「A.MENU」 ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「FUNC」 にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。



- メモ • 「ESC」 にタッチするか【BAND】 ボタン、(BD/ESC) ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- 「BACK」 にタッチすると、前の画面に戻ります。
- 約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

リピート範囲を選ぶ (REPEAT)

リピート範囲には、以下の選択項目があります。

「TRACK」	: 現在再生中のトラックを繰り返す
「DISC」	: 再生中のディスク全体を繰り返す

- メモ • PBCメニュー付きディスクでは、リピート範囲の切り換えはできません。

1 FUNCTIONメニューを表示する (→前項)

2 「REPEAT」 にタッチする

タッチするごとに、リピートの範囲が以下のように切り換わります。

「TRACK」 ↔ 「DISC」



選んだリピート範囲で、リピート再生します。

- メモ • リピート再生中に、リピート範囲を超えて早戻し/早送りの操作を行った場合、リピート再生は解除されます。

音声の出力方法を切り換える (L/R SELECT)

音声の出力方法には、以下の選択項目があります。

「L+R」 : 左+右

「LEFT」 : 左

「RIGHT」 : 右

1 FUNCTIONメニューを表示する (→P44)

2 「L/R SELECT」 にタッチする

タッチすることにより以下のように切り換わります。

「L+R」→「LEFT」→「RIGHT」



CDを聞く

基本的なCD画面の見かた

内蔵プレーヤーでCDを聞くときの画面には、以下のような情報が表示されます。



- CD TEXTについて、詳しくは『CD TEXTの情報表示』(→P51)をご覧ください。
- CD TEXTのタイトル情報を取得できなかった場合は、“NO XXXXX (例: NO T.ARTIST NAME)”と表示されます。
- **[DISP]** ボタンを押すごとに、ディスクに収録されているディスクタイトル、ディスクアーティスト、トラックタイトル、トラックアーティストを順番にソースプレートに表示することができます。

基本的なリモコンの操作方法

CDの操作は、タッチキーとリモコン (AVHモード) で行います。



ジョイスティック

- 左または右に長く押し(◀▶) : 早戻し、早送り (→P47)
- 左または右に押し(◀▶) : トラックの選択(現在の曲、次の曲)など (→P47)
- 中心を押し : メインメニューの表示 (→P48)

再生ボタン (▶/||)

再生 (→P47)

操作ボタン類

- ▶/|| : 再生の一時停止や、一時停止の解除 (再生の再開) (→P47)
- ◀▶ / ▶▶ : 押し続けている間、早戻し/早送り (→P47)
- ◀▶ / ▶▶ : トラックの選択 (現在の曲/次の曲) (→P47)

ボタンを押した回数分、曲を飛ばすこともできます。

停止ボタン (■)

再生の停止 (→P47)

内蔵プレーヤー (CD) に切り換える

1 ソースを内蔵プレーヤー (CD) に切り換える (→P22)

ディスク挿入口にディスクを挿入するか、他のソースから内蔵プレーヤーに切り換えた場合に、自動的に再生が始まります。

- ディスク情報の読み込みなど、準備動作中には“FORMAT READ”が表示され、操作はできません。準備動作が終了するまでお待ちください。
- 本機で使用できるディスクに関しては、付録『再生できるディスクの種類』(→P126)をご覧ください。

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。



- 約30秒間操作をしなかった場合、タッチキーは自動的に消えます。

再生を停止する

1 「■」にタッチする

- 再生を中止し、再度同じディスクを再生した場合、前回停止した位置より再生が開始されます。

一時停止する

1 「▶/||」にタッチする

一時停止を解除する場合は、もう一度「▶/||」にタッチします。

- **BOOKM** ボタンを押して一時停止することもできます。リモコンの操作モードをAVHモードにしてください (→P119)

早戻し/早送りする

1 「◀◀」/「▶▶」にタッチし続ける

タッチしている間、早戻し「◀◀」/早送り「▶▶」ができます。

- ジョイスティックを左または右に長く押すことでも早戻し/早送りができます。

トラックを選択する

1 「◀◀」/「▶▶」にタッチする

「◀◀」にタッチすると、現在再生中の曲のはじめから再生されます。「▶▶」にタッチすると、次の曲のはじめから再生されます。

またタッチキーに数回タッチすると、タッチした回数分の曲を飛ばすことができます。

- ジョイスティックを左または右に押すことでもトラックを選択することができます。押した回数分の曲を飛ばすこともできます。

聞きたい曲をさがす

聞きたい曲の番号を指定して、その曲を再生します。

1 「SEARCH」にタッチする



2 「0」～「9」にタッチして、ナンバーを入力する


数字キーの使いかた

3を選ぶとき : 「3」にタッチする

10を選ぶとき : 「1」と「0」にタッチする


23を選ぶとき : 「2」と「3」にタッチする

入力を取り消す : 「C」にタッチする

 ・リモコンの数字ボタンで入力することもできます。

3 「ENTER」にタッチする

指定した場所から再生されます。

 ・無効の数字が入力された場合や再生位置によっては、⊘（禁止マーク）が表示され、入力を取り消される場合があります。

いろいろな再生をする

リピートやランダムなど、いろいろな再生の操作は、FUNCTIONメニューを表示して行います。

FUNCTIONメニューを表示する



1 【A.MENU】ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「FUNC」にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。



 ・「ESC」にタッチするか【BAND】ボタン、 ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
 ・「BACK」にタッチすると、前の画面に戻ります。
 ・約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

リピート範囲を選ぶ (REPEAT)

リピート範囲には、以下の選択項目があります。

「DISC」 : 再生中のディスク全体を繰り返す（通常はこのモードにしておきます。）

「TRACK」 : 現在再生中の曲を繰り返す

1 FUNCTIONメニューを表示する (→前項)

2 「REPEAT」にタッチする

タッチすることにより、リピートの範囲が以下のように切り換わります。
「TRACK」 ↔ 「DISC」



選んだリピート範囲で、リピート再生します。



- ・リピート再生中に、早戻し／早送りの操作を行った場合、リピート再生は解除されます。

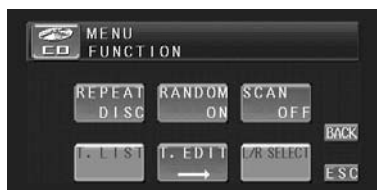
ランダム再生する (RANDOM)

曲を順不同 (ランダム) に再生します。

1 FUNCTIONメニューを表示する (→P48)

2 「RANDOM」にタッチする

タッチすることにより、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると、ランダム再生が始まります。ランダム再生をやめるときは、OFFにします。



- ・リピート範囲で「TRACK」を選択しているときにランダム再生をONにすると、リピート範囲が自動的に「DISC」に切り換わり、ランダム再生します。

スキャン再生する (SCAN)

曲の始めの部分 (約10秒間) だけを次々に再生します。

1 FUNCTIONメニューを表示する (→P48)

2 「SCAN」にタッチする

タッチすることにより、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると、スキャン再生が始まります。スキャン再生をやめるときは、OFFにします。



- ・スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- ・リピート範囲で「TRACK」を選択しているときにスキャン再生をONにすると、リピート範囲が自動的に「DISC」に切り換わり、スキャン再生します。

リストからトラック名で選んで再生する (T.LIST)

CD TEXT再生中に、トラック名 (曲名) のリストを表示して、聞きたい曲を選択することができます。

1 FUNCTIONメニューを表示する (→P48)


2 「T.LIST」にタッチする

トラック名のリストが表示されます。




3 聞きたいトラック名にタッチする

選んだトラックの再生が始まります。リストは一度に6トラックを表示します。

-  ・再生中のディスクに収録されているトラック数が6トラックより多い場合は、「▼」が「▲」が表示されます。
- ・「▼」にタッチすると、次の6トラックに表示が切り換わり、「▲」にタッチすると、前の6トラックに表示が切り換わります。

タイトルを入力する(T.EDIT)

CDにタイトルをアルファベットと数字で入力することができます。入力したタイトルは本機に記憶され、ディスクを挿入するごとに表示されます。

-  ・タイトルは10文字まで入力できます。
- ・CDタイトルは、48枚分の記憶ができます。
- ・48枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。


1 FUNCTIONメニューを表示する (→P48)

2 「T.EDIT」にタッチする

タイトル入力画面が表示されます。



3 「A B C」または「1 2 3」にタッチして、入力する文字種を切り換える

-  ・「A B C」は、タッチすることにより、アルファベットの大文字(A~Z)と、アルファベットの小文字(a~z)が切り換わります。
- ・「1 2 3」は、タッチすることにより、数字と、記号(0~9、! " #など)が切り換わります。

4 「▲」/「▼」にタッチして、入力する文字や記号を選択する

5 「◀」/「▶」にタッチして、入力する位置を移動する

6 入力が終わったら、「OK」にタッチする

入力したタイトルが記憶されます。

CD TEXTの情報表示

CD TEXTとは

CDのタイトルや歌手名などの文字情報が収録されているCDです。ディスクタイトル面に下記のマークの付いているCDはCD TEXTディスクです。下記マークの付いていないCD TEXTディスクもあります。

本機のCD TEXT文字表示は、英数字のみに対応しています。



■タイトル表示を切り換える

ディスクタイトルやトラックタイトルなどの文字情報を表示させることができます。一度に19文字まで表示させることができます。また、隠れている文字も順に表示させることができます。

1 CD TEXT再生中に、「DISP」にタッチする

タッチすることにより、以下のように切り換わります。

→ディスクタイトル(D.Title)→
 ディスクアーティスト名(D.Artist)→
 トラックタイトル(T.Title)→
 トラックアーティスト名(T.Artist) →

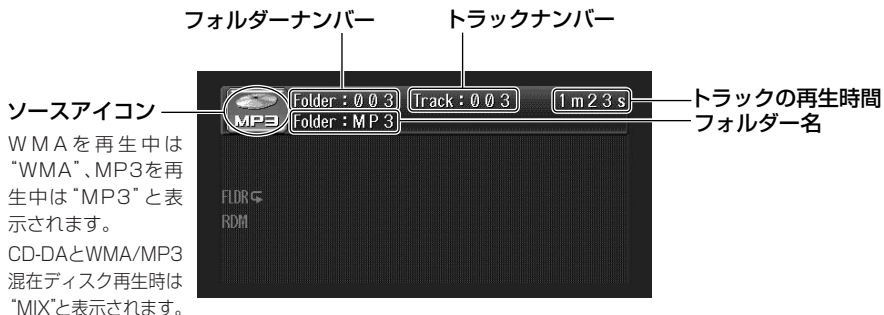


- 「DISP」ボタンを押して、文字情報を切り換えることもできます。
- CD TEXTに収録された文字によっては、本機では表示できないことがあります。
- トラックアーティスト名（歌手名）などが収録されていないCDで表示を切り換えると、「NO T.ARTIST NAME」などが表示されます。
- 「DISP」に長く（約2秒）タッチするか、「DISP」ボタンを長く（約2秒）押し続けると、隠れているタイトルをスクロール表示できます。

WMA/MP3を聞く

基本的なWMA/MP3ディスク画面の見かた

内蔵プレーヤーでWMA/MP3ディスクを聞くときの画面には、以下のような情報が表示されます。



基本的なリモコンの操作方法

WMA/MP3の操作は、タッチキーとリモコン（AVHモード）で行います。

再生ボタン (▶/⏮)

再生 (→P54)

操作ボタン類

▶/⏮ : 再生の一時停止や、一時停止の解除 (再生の再開) (→P54)

⏪ / ⏩ : 押している間、早戻し/早送り (→P54)

⏮ / ⏭ : トラックの選択 (現在の曲/次の曲) (→P54)

ボタンを押した回数分、曲を飛ばすこともできます。

ジョイスティック

- 左または右に長く押す (◀▶) : 早戻し、早送り (→P54)
- 左または右に押す (◀▶) : トラックの選択 (現在の曲、次の曲) など (→P54)
- 上または下に押す (◀▶) : フォルダーの選択 (→P55)
- 中心を押す : メインメニューの表示 (→P56)

バンドボタン (BD/ESC)

再生パートの切り換え (CD-DAとWMA/MP3混在ディスク再生時)

停止ボタン (■)

再生の停止 (→P54)

内蔵プレーヤー (WMA/MP3) に切り換える

1 ソースを内蔵プレーヤー (WMA/MP3) に切り換える (→P22)

ディスク挿入口にディスクを挿入するか、他のソースから内蔵プレーヤーに切り換えた場合に、自動的に再生が始まります。



- ディスク情報の読み込みなど、準備動作中には“FORMAT READ”が表示され、操作はできません。準備動作が終了するまでお待ちください。
- 本機で使用できるディスクに関しては、付録『再生できるディスクの種類』(→P126)をご覧ください。
- VBR (可変ビットレート) で記録されたWMAファイルは、本機では再生できません。
- デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたファイルを再生したときは、“SKIPPED”と画面に表示され、そのファイル再生がスキップされます。
- ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている場合は、“PROTECT”と表示され、そのディスクは再生されません。
- WMA/MP3ファイルと音楽データが混在したディスクを再生する場合は、「MEDIA」にタッチするか、「BAND」ボタン、「DISC」ボタンを押すと、WMA/MP3ファイルと音楽データを切り換えて再生できます。WMA/MP3ファイルと、音楽データを切り換えた場合、再生は最初の曲から始まります。
- 挿入したディスクに再生可能なWMA/MP3ファイルがない場合は、“NON-PLAYABLE DISC”と表示されます。

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。



- 約30秒間操作をしなかった場合、タッチキーは自動的に消えます。

WMA/MP3のタイトルを表示する

WMA/MP3ファイルに記録させた曲名やフォルダー名、アルバム名などの文字情報を表示させることができます。一度に19文字まで表示することができます。また、隠れている文字も順に表示させることができます。

本機の文字表示は、英数字のみに対応しています。

1 ディスク再生中に、「DISP」にタッチする

タッチすることにより、以下のように切り換わります。

- フォルダー名(Folder)→
- ファイル名(File)→
- トラックタイトル(T.Title)→
- アーティスト名(Artist)→
- アルバム名(Album)→
- ビットレート(BitRate) _____



- [DISP] ボタンを押して、文字情報を切り換えることもできます。
- WMAを再生中は、アルバムタイトルには切り換わりません。
- LISTを表示中は、“Folder”ではなく“Current”と表示されます。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたファイルを再生している場合、“VBR”と表示されます。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたMP3ファイルを再生中に、ビットレート表示に切り替えた場合は、“VBR”と表示されます。
- WMAファイルをエンコードしたWindows Media™ Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- MP3をエンコードしたiTunes®のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
 - iTunes®は、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Incの商標です。
- WMAまたはMP3ファイルに記録された文字によっては、本機では表示できないことがあります。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたファイルを早送り／早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- アーティスト名（歌手名）などが収録されていないディスクで表示を切り換えると、“NO ARTIST NAME”などが表示されます。
- [DISP] に長く（約2秒）タッチするか、[DISP] ボタンを長く（約2秒）押すと、隠れているタイトルをスクロール表示できます。

再生を停止する

1 「■」にタッチする



- 再生を中止し、再度同じディスクを再生した場合、前回停止した位置から再生が開始されます。

一時停止する

1 「▶/||」にタッチする

一時停止を解除する場合は、もう一度「▶/||」にタッチします。



- [BOOK.M] ボタンを押して一時停止することもできます。リモコンの操作モードをAVHモードにしてください。（→P119）

早戻し／早送りする

1 「◀◀」／「▶▶」にタッチし続ける

タッチしている間、早戻し「◀◀」／早送り「▶▶」ができます。



- ジョイスティックを左または右に長く押すことでも早戻し／早送りすることができます。

トラックを選択する

1 「◀◀」／「▶▶」にタッチする

「◀◀」にタッチすると、現在再生中の曲のはじめから再生されます。「▶▶」にタッチすると、次の曲のはじめから再生されます。

またタッチキーに数回タッチすると、タッチした回数分の曲を飛ばすことができます。



- ジョイスティックを左または右に押すことでもトラックを選択することができます。押した回数分の曲を飛ばすこともできます。

フォルダーを切り換える

1 「LIST」にタッチする

リストが表示されます。
すでにリストが表示されている場合は、この操作は必要ありません。

2 「」にタッチする


一つ上の階層のフォルダのリストが表示されます。



3 聞きたいフォルダにタッチする

選んだフォルダのリストが表示されます。



- ジョイスティックを上または下に押すか、【▲】/【▼】ボタンを押してフォルダーを切り換えることもできます。
- 【BAND】ボタン、【】ボタンを長く(約2秒)押すと、フォルダー001 (ROOT)に戻ります。ただし、フォルダー001 (ROOT)にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

リストからファイル名で選んで再生する

トラック名(曲名)のリストを表示して、聞きたい曲を選択することができます。





1 「LIST」にタッチする

リストが表示されます。
すでにリストが表示されている場合は、この操作は必要ありません。

2 聞きたいファイル名にタッチする

選んだファイルの再生が始まります。
リストは一度に6ファイルを表示します。



- 再生中のディスク(フォルダー)に収録されているファイル数が6ファイルより多い場合は、「」/「」が表示されます。
- 「」にタッチすると、次の6ファイルが表示が切り換わり、「」にタッチすると、前の6ファイルが表示が切り換わります。

ファイルの表示を一覧表示する

現在再生中のWMA/MP3ファイルの詳細情報を見ることができます。

1 再生中に「」にタッチする

ファイルに記録されている情報が一覧表示されます。



- WMAファイルを再生中は、“ALBUM”、“GENRE”、“YEAR”は表示されません。

いろいろな再生をする

リピートやランダムなど、いろいろな再生の操作は、FUNCTIONメニューを表示して行います。

FUNCTIONメニューを表示する

1 [A.MENU] ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 [FUNC] にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。



- メモ • 「ESC」にタッチするか【BAND】ボタン、**[BD/ESC]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- 「BACK」にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
- 約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

リピート範囲を選ぶ (REPEAT)

リピート範囲には、以下の選択項目があります。

「DISC」 : 再生中のディスク全体を繰り返す（通常はこのモードにしておきます。）

「TRACK」 : 現在再生中の曲を繰り返す

「FOLDER」 : 現在再生中のフォルダー内を繰り返す

1 FUNCTIONメニューを表示する (→前項)

2 「REPEAT」 にタッチする

タッチするごとに、リピートの範囲が以下のように切り換わります。

→「DISC」→「TRACK」→「FOLDER」→



選んだリピート範囲で、リピート再生します。

- メモ • 「FOLDER」を選択した場合、サブフォルダー内のファイルは再生されません。
- 「TRACK」を選択している場合に早戻し/早送りの操作を行うと、リピート範囲が自動的に「FOLDER」に切り換わります。
- WMA/MP3ファイルと音楽データが混在したディスクでは、「DISC」を選択しても、WMA/MP3ファイルまたは音楽データのどちらかだけを再生します。

ランダム再生する (RANDOM)

選択したリピートの範囲内で、曲を順不同 (ランダム) に再生します。

1 リピート範囲を選択しておく (→P56)

2 「RANDOM」 にタッチする

タッチすることにより、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると、選択したリピートの範囲内でランダム再生が始まります。ランダム再生をやめるときは、OFFにします。



- 「FOLDER」を選択した場合、サブフォルダー内のファイルはランダム再生されません。
- リピート範囲で「TRACK」を選択しているときにランダム再生をONにすると、リピート範囲が自動的に「FOLDER」に切り換わり、ランダム再生します。

スキャン再生する (SCAN)

現在再生中のフォルダーの曲の始めの部分 (約10秒間) だけを次々に再生します (トラックスキャン)。また、すべてのフォルダーの1曲目の始めの部分だけを次々に再生することもできます (フォルダースキャン)。

1 リピート範囲を選択しておく (→P56)

聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

リピート範囲で「FOLDER」を選択します。再生中のフォルダーの全曲を約10秒ずつ再生することができます。(サブフォルダー内の曲はスキャン再生されません。)

聞きたいフォルダーをさがすとき (フォルダースキャン再生)

リピート範囲で「DISC」を選択します。ディスク内のすべてのフォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 「SCAN」 にタッチする

タッチすることにより、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると、選択したリピートの範囲内でスキャン再生が始まります。スキャン再生をやめるときは、OFFにします。



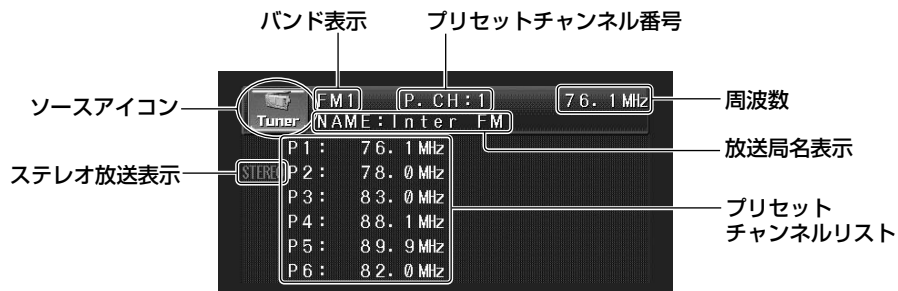
- スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- リピート範囲で「TRACK」を選択しているときにスキャン再生をONにすると、リピート範囲が自動的に「FOLDER」に切り換わり、スキャン再生します。

3 聞きたい曲やフォルダーが再生されたら、FUNCTIONメニュー (→P56) の「SCAN」にタッチし「OFF」にする

ラジオ、交通情報を聞く

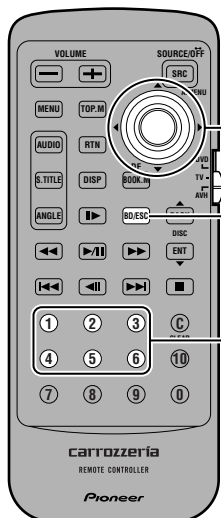
基本的なラジオ画面の見かた

ラジオを聞くときの画面には、以下のような情報が表示されます。



基本的なリモコンの操作方法

ラジオの操作は、タッチキーとリモコン (AVHモード) で行います。



ジョイスティック

- ・上または下に押す (◀▶) : プリセットチャンネルの選局 (→P60)
- ・左または右に押す (◀▶) : マニュアル選局 (任意の周波数を手で選択) (→P60)
- ・左または右に長く押し続けて離す (◀▶) : SEEK選局 (受信状態の良い放送局を自動で選局)
- ・左または右に長く押し続ける (◀▶) : NON STOP SEEK (途中の放送局を飛ばして選局)
- ・中心を押す : メインメニューの表示 (→P61)

バンドボタン (BD/ESC)

バンドの切り換え : FM1→FM2→AM1→AM2

数字ボタン (①~⑥)

- ・プリセットチャンネルのダイレクト選局 (→P60)
- ・プリセットチャンネルリストへの登録 (→P61)

ラジオ(TUNER)に切り換える

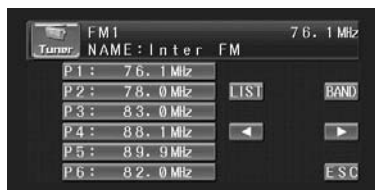
1 ソースをラジオ (TUNER) に切り換える (→P22)

プリセットチャンネルリストは、前回表示していた場合に表示されます。

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。



- 約30秒間操作をしなかった場合、タッチキーは自動的に消えます。
- プリセットチャンネルリストは、「LIST」にタッチすることに表示／非表示が切り換わります。出荷時は、「表示」されるよう設定されています。

バンドを切り換える

FMとAMのバンドを切り換えます。本機は、FM1、FM2、AM1、AM2と各バンド2つのリストを持っています。

1 「BAND」にタッチする

タッチすることにより、以下のように切り換わります。

□FM1→FM2→AM1→AM2□

バンド1とバンド2を切り換えて使うことでより多くの放送局を記憶できます。例えば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を記憶させておきます。旅行先など、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSM (→P62) を使うと、便利です。

放送局を選んで、ラジオを聞く

放送局の選局は、プリセットチャンネルリストを表示してリストから選ぶ選局と、タッチキーの操作やジョイスティックの上下（プリセットチャンネル選局）左右（マニュアル選局）操作による選局があります。

■プリセットチャンネルリストからの選局

プリセットチャンネルリストは、あらかじめ登録された放送局のリストで、バンドごとにそれぞれ6局まで登録できます。（→P61）

1 「LIST」にタッチしてプリセットチャンネルリストを表示する

すでにリストが表示されている場合は、この操作は必要ありません。



2 聞きたい放送局にタッチする

選んだ放送局を受信します。

- メモ • ①～⑥ ボタンを押して選局することもできます。

■タッチキーでの選局

タッチキーを操作してプリセットチャンネルから選局したり、マニュアルで選局したりできます。

プリセットチャンネルから選ぶ

リストを表示していない場合でも、プリセットチャンネルの登録順に選局できます。

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、リストから聞きたいチャンネルを選ぶ

- メモ • ジョイスティックを上または下に押して選ぶこともできます。

マニュアル選局で選ぶ

- ① 「◀」/「▶」にタッチする

周波数が切り換わります。

- メモ • ジョイスティックを左または右に押して選ぶこともできます。
- タッチし続けるか、ジョイスティックを左または右に長く押し続けるとSEEKモードになります。選局を止めるときは、もう一度タッチキーにタッチするか、ジョイスティックを反対方向に押します。

プリセットチャンネルリスト へ登録する

FM1、FM2、AM1、AM2に、それぞれ6局まで登録することができます。お好みの放送局をお好みの順番で登録することができます。

1 「BAND」にタッチして、登録させたいバンドを選ぶ

2 「LIST」にタッチしてプリセットチャンネルリストを表示する

すでにリストが表示されている場合は、この操作は必要ありません。

3 マニュアル選局（→P60）で登録したい放送局を受信する



・ジョイスティックを左または右に長く押し離すと、SEEKモードで選局することもできます。

4 登録したいリスト番号に長くタッチする

選んだ番号に周波数が表示され、登録が完了します。



・登録した後も続けて登録することができます。
・①～⑥ ボタンを長く押し続けて登録することもできます。

いろいろな操作をする

受信状態の良い放送局の自動選局やプリセットチャンネルへの登録、放送局名選択の操作は、FUNCTIONメニューを表示して行います。

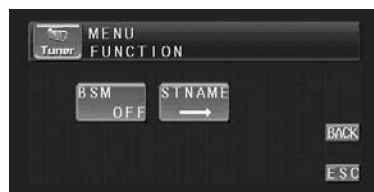
FUNCTIONメニューを表示する

1 [A.MENU] ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「FUNC」にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。



・「ESC」にタッチするか、【BAND】ボタン、**[BD/ESC]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
・「BACK」にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
・約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

受信状態の良い放送局を自動的に記憶させる (BSM)

受信状態の良い放送局を、自動的に6局まで記憶させます。

1 「BAND」にタッチして、記憶させたいバンドを選ぶ

2 FUNCTIONメニューを表示する (→P61)

3 「BSM」にタッチする

BSM (自動選局) が始まります。

BSM中は、画面に“BSM”が点滅します。



BSMが終了すると、「BSM OFF」に戻ります。

- メモ • BSM中にもう一度手順3の操作を行うと、BSMを中止することができます。
- BSMとは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。
- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、以前に記憶した放送局が残ることがあります。
- [BOOK.M] ボタンで操作することもできます。リモコンの操作モードをAVHモードにして操作してください。(→P119)

放送局の名前を登録する (ST NAME)

同じ周波数でも、地域によって受信する放送局は違うことがあります。(例: FM 80.0MHzを使用している放送局は「TOKYO FM」など複数あります。)

受信している放送局名と表示されている放送局名が異なる場合に、放送局名の表示を変更することができます。

1 「BAND」にタッチして、名称を変更したい放送局を受信する

2 FUNCTIONメニューを表示する (→P61)

3 「ST NAME」にタッチする



4 「◀/▶」にタッチして、放送局名を選ぶ

5 「MEMORY ▲」にタッチする

選んだ放送局名が登録されます。

- メモ • 放送局名を表示させたくないときは、"-----" (全て空白) を選んでください。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの場合、モジュレーター周波数に合わせると、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。

交通情報を聞く

ソースのON/OFFに関わらず、交通情報の周波数AM1,620kHz、1,629kHzを簡単に受信することができます。

交通情報 (TI) に切り換える

1 【T.I】 ボタンを押す

ソースが交通情報に切り換わり、前回受信していた周波数の交通情報を受信します。

交通情報の周波数を切り換える

交通情報の周波数AM1,620kHz、1,629kHzを切り換えます。

1 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。



- 【T.I】 ボタンを押すと、交通情報を受信する前の状態に戻ります。
- 約30秒間操作をしなかった場合、タッチキーは自動的に消えます。

2 「1620kHz」/「1629kHz」にタッチする

選んだ周波数を受信します。



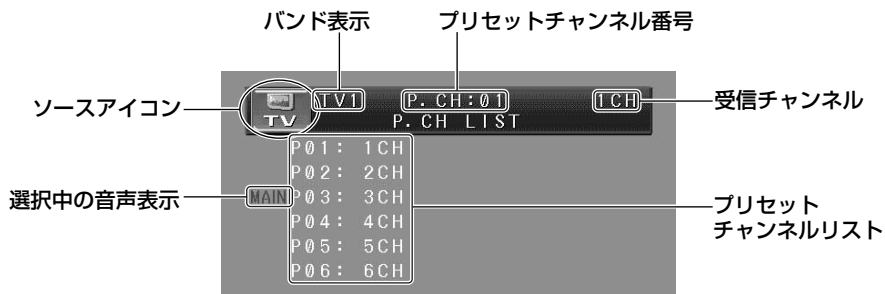
- 交通情報の受信中に音量を調節すると、交通情報の音量として設定することができます。別のソースに切り換えて音量を調節しても、次に交通情報を受信するときは、前回調節した音量で聞くことができます。
- ジョイスティックを左または右に押して周波数を切り換えることもできます。
- 交通情報受信中は、EQの調整はできません。

テレビを見る

停車中で、パーキングブレーキがかかっているときに、テレビの映像を見ることができます。走行中は安全のため、テレビの映像は表示されません。(音声を聞くことはできます。)

基本的なテレビ画面の見かた

テレビを見るときの画面には、以下のような情報が表示されます。



基本的なリモコンの操作方法

テレビの操作は、タッチキーとリモコン (AVHモード) で行います。



ジョイスティック

- ・上または下に押す (◀▶): プリセットチャンネルの選局 (→P65)
- ・左または右に押す (◀▶): マニュアル選局 (任意の周波数を手動で選択) (→P66)
- ・左または右に長く押し続けて離す (◀▶): SEEK選局 (受信状態の良い放送局を自動で選局)
- ・左または右に長く押し続ける (◀▶): NON STOP SEEK (途中の放送局を飛ばして選局)
- ・中心を押す: メインメニューの表示 (→P66)

バンドボタン (BD/ESC)

バンドの切り換え: TV1→TV2

数字ボタン (①~⑥)

- ・プリセットチャンネルのダイレクト選局 (→P65)
- ・プリセットチャンネルリストへの登録 (→P66)

テレビ (TV) に切り換える

1 ソースをテレビ (TV) に切り換える (→P22)

ソースを切り換えると、情報プレートが約8秒間表示されます。

プリセットチャンネルリストは、前回表示していた場合に表示されます。

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

情報プレートとタッチキーが表示されます。



メモ • 約30秒間操作をしなかった場合、情報プレートとタッチキーは自動的に消えます。

バンドを切り換える

本機はTV1、TV2と2つのバンドを持っています。

1 「BAND」にタッチする

タッチすることにより、TV1 ↔ TV2が切り換わります。

チャンネルを選んで、テレビを見る

チャンネルの選局は、プリセットチャンネルリストを表示してリストから選局する方法と、タッチキーの操作やジョイスティックの上下（プリセットチャンネル選局）左右（マニュアル選局）操作による選局方法があります。

■プリセットチャンネルリストからの選局

記憶番号1～12に記憶させたチャンネルの一覧(チャンネルリスト)から、見たいチャンネルを選べます。

プリセットチャンネルリストは、1～6と7～12の6チャンネルずつ表示されます。

1 「LIST」にタッチしてプリセットチャンネルリストを表示する

すでにリストが表示されている場合は、この操作は必要ありません。



2 見たいチャンネルにタッチする

選んだチャンネルを受信します。

- メモ
- 「▼」にタッチすると、リストの次のページ（7～12に登録されたチャンネル）を表示することができます。
 - 前のページ（1～6に登録されたチャンネル）に戻るには「▲」にタッチします。
 - リモコンの①～⑥ボタンを押して選局することもできます。①～⑥ボタンを短く押すと1～6に登録されたチャンネルを選局することができます。①～⑥ボタンを長く押すとプリセットチャンネルリストへの登録ができます。(→P66)

■タッチキーでの選局

タッチキーを操作してプリセットチャンネルから選局したり、マニュアルで選局したりできます。

プリセットチャンネルから選ぶ

リストを表示していない場合でも、プリセットチャンネルの登録順に選局できます。

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、リストから
見たいチャンネルを選ぶ

メモ ・ジョイスティックを上または下に押して
選ぶこともできます。

マニュアル選局で選ぶ

- ① 「◀」/「▶」にタッチする
チャンネルが切り換わります。

メモ ・ジョイスティックを左または右に押して
選ぶこともできます。
・タッチし続けるか、ジョイスティックを左
または右に長く押して離すとSEEKモード
になります。選局を止めるときは、もう
一度タッチキーにタッチするか、ジョイス
ティックを反対方向に押します。

プリセットチャンネルリスト へ登録する

バンドごとに、それぞれ12局まで登録
することができます。お好みのチャン
ネルをお好みの順番で登録することができ
ます。

- 1 「BAND」にタッチして、登録し
たいバンドを選ぶ
- 2 「LIST」にタッチしてプリセット
チャンネルリストを表示する
- 3 マニュアル選局（→前項）で登録
したい放送局を受信する
- 4 登録したいリストの番号に、長く
タッチする

選んだ番号にチャンネルが表示され、
登録が完了します。

メモ ・登録した後も続けて登録することができ
ます。
・①～⑥ ボタンを長く押してプリセット
チャンネルP01～P06に登録することも
できます。

いろいろな操作をする

受信状態の良いチャンネルの自動選局
や2カ国語放送の音声切り換えの操作
は、FUNCTIONメニューを表示して
行います。

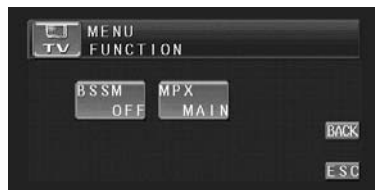
FUNCTIONメニューを表示する

1 「A.MENU」ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「FUNC」にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。



メモ ・「ESC」にタッチするか、【BAND】ボ
タン、【BD/ESC】ボタンを押すと、ソース画面
に戻ります。
・「BACK」にタッチするか、【BACK】ボタ
ンを押すと、前の画面に戻ります。
・約30秒間操作をしなかった場合、自動的
にソース画面に戻ります。

受信状態の良いチャンネルを自動的に記憶させる (BSSM)

受信状態の良いチャンネルを、自動的にチャンネルの小さい順に、1～12の記憶番号に記憶させます。

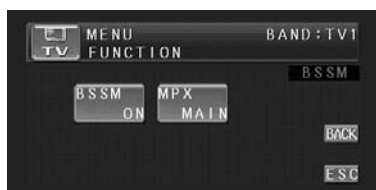
1 「BAND」にタッチして、記憶させたいバンドを選ぶ

2 FUNCTIONメニューを表示する (→P66)

3 「BSSM」にタッチする

BSSM (自動選局) が始まります。

BSSM中は、画面に“BSSM”が点滅します。



BSSMが終了すると、「BSS OFF」に戻ります。



- BSSM中にもう一度手順3の操作を行うと、BSSMを中止することができます。
- 受信状態の良いチャンネルが12局より少ないときは、以前に記憶したチャンネルが残ることがあります。
- BSSMとは、「Best Stations Sequential Memory (ベストステーションズシーケンシャルメモリー)」の略です。
- **[BOOK.M]** ボタンで操作することもできます。リモコンの操作モードをAVHモードにしてください。(→P119)

音声多重放送 (2カ国語放送) の音声を切り換える (MPX)

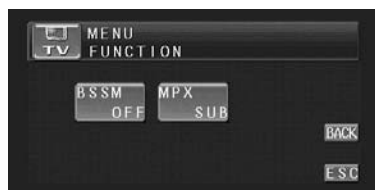
洋画やニュースの2カ国語放送のように、2種類の音声を持った放送のことを音声多重放送といいます。音声多重放送を受信しているときは、音声を切り換えることができます。

1 FUNCTIONメニューを表示する (→P66)

2 「MPX」にタッチする

タッチすることにより、以下のように切り換わります。

→MAIN(主音声)→SUB(副音声)→
M+S (主音声+副音声)



- 2カ国語放送の場合は、一般に主音声を日本語、副音声を外国語(例:英語)で放送しています。(逆の場合もあります。)

マルチCDを操作する

基本的なマルチCD画面の見かた

マルチCDで音楽ディスクを聞くときの画面には、以下のような情報が表示されます。



- CD TEXTに対応しているマルチCD（「CDX-P670」など）では、CD TEXT再生中に **[DISP]** ボタンを押すごとに、ディスクに収録されているディスクタイトル、ディスクアーティスト名、トラックタイトル、トラックアーティスト名を順番に情報プレートに表示することができます。
- CD TEXTについて、詳しくは『CD TEXTの情報表示』（→P73）をご覧ください。
- CD TEXTのタイトル情報を取得できなかった場合は、“NO XXXXX（例：NO T.ARTIST NAME）”と表示されます。

基本的なリモコンの操作方法

マルチCDの操作は、タッチキーとリモコン（AVHモード）で行います。



ジョイスティック

- 左または右に長く押す (◀▶)：早戻し、早送り (→P70)
- 左または右に押す (◀▶)：トラックの選択（現在の曲、次の曲）など (→P70)
- 上または下に押す (◀▶)：ディスクの切り換え (→P70)
- 中心を押す：メインメニューの表示 (→P70)

数字ボタン (①～⑥)

ディスクの指定 (→P69)

マルチCDに切り換える

1 ソースをマルチCD (M-CD) に切り換える (→P22)

他のソースからM-CDソースに切り換えた場合に、自動的に再生が始まります。ディスクタイトルリストは、前回表示していた場合に表示されます。

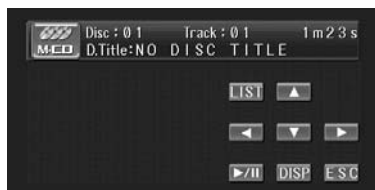


- マルチCDが準備動作 (CDの有無の確認やCDの情報の読み込みなど) をしている場合は、“READY” が表示され、操作はできません。準備動作が終了するまでお待ちください。
- マルチCD再生中にマルチCDからマガジンを取り出すと、“NO MAGAZINE” が表示されます。

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

タッチキーが表示されます。



- 約30秒間操作をしなかった場合、タッチキーは自動的に消えます。

再生を停止する

1 他のソースに切り換えるか、ソースをOFFにする (→P22, P24)

一時停止する

1 「▶/||」にタッチする

一時停止を解除する場合は、もう一度「▶/||」にタッチします。



- [BOOKM] ボタンを押して一時停止することもできます。リモコンの操作モードをAVHモードにしてください。(→P119)

ディスクを選ぶ

1 「LIST」にタッチする

リストが表示されます。すでにリストが表示されている場合は、この操作は必要ありません。



2 再生したいディスクにタッチする

選んだディスクを再生します。




- 「▼」にタッチすると、リストの次のページ (7~12のディスク) を表示することができます。
- リストの表示に関わらず、リモコンの①~⑥ボタンを長く押し、マガジン内の7~12を選ぶことができます。7枚目のディスクを選ぶときは①を長く、12枚目のディスクを選ぶときは⑥を長く押しします。
- 前のページ (1~6のディスク) に戻るには「▲」にタッチします。
- 13枚以上のマガジンを装着していても、リストは12までしか対応していません。

ディスクを切り換える

ディスクタイトルリストを表示していないときでも、ディスクを切り換えることができます。

1 「▲」/「▼」にタッチして、再生したいディスクを選択する


選んだディスクが再生されます。

-  ・ジョイスティックを上または下に押してディスクを切り換えることもできます。

早戻し/早送りする

1 「◀」/「▶」にタッチし続ける

タッチしている間、早戻し「◀」/早送り「▶」ができます。


-  ・ジョイスティックを左または右に長く押すことでも早戻し/早送りができます。

トラックを選択する

1 「◀」/「▶」にタッチする

「◀」にタッチすると、現在再生中の曲のはじめから再生されます。「▶」にタッチすると、次の曲のはじめから再生されます。

またタッチキーに数回タッチすると、タッチした回数分の曲を飛ばすことができます。

-  ・ジョイスティックを左または右に押すことでもトラックを選択することができます。押した回数分の曲を飛ばすこともできます。

いろいろな再生をする

リピートやランダム、ITSの操作など、いろいろな再生の操作は、FUNCTIONメニューを表示して行います。

FUNCTIONメニューを表示する


1 [A.MENU] ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「FUNC」にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。



-  ・「ESC」にタッチするか【BAND】ボタン、【BD/ESC】ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- ・「BACK」にタッチするか、【BACK】ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
 - ・約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

リピート範囲を選ぶ(REPEAT)

リピート範囲には、以下の選択項目があります。

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 「M-CD」 | : マルチCD全体を繰り返す（通常はこのモードにしておきます。） |
| 「TRACK」 | : 現在再生中の曲を繰り返す |
| 「DISC」 | : 再生中のディスク全体を繰り返す |

1 FUNCTIONメニューを表示する (→前項)

2 「REPEAT」にタッチする

タッチすることにより、リピートの範囲が以下のように切り換わります。

└─「M-CD」→「TRACK」→「DISC」─┘



選んだリピート範囲で、リピート再生します。



- ・リピート再生中に、早戻し／早送りの操作を行った場合、リピート再生は解除されます。

ランダム再生する (RANDOM)

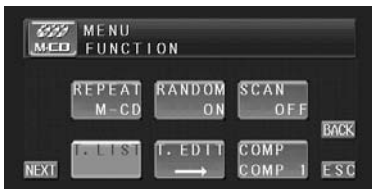
選択したリピートの範囲内で、曲を順不同 (ランダム) に再生します。

1 リピート範囲を選択しておく

(→P70)

2 「RANDOM」にタッチする

タッチすることにより、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると、選択したリピート範囲内でランダム再生が始まります。ランダム再生をやめるときは、OFFにします。



- ・リピート範囲が「TRACK」のときにランダム再生をONにすると、リピート範囲が自動的に「DISC」に切り換わり、ランダム再生します。

スキャン再生する (SCAN)

現在再生中のディスクの、曲の始めの部分 (約10秒間) だけを次々に再生します (トラックスキャン)。またマガジン内すべてのディスクの、1曲目の始めの部分 (約10秒間) だけを次々に再生することもできます (ディスクスキャン)。

1 リピート範囲を選択しておく

(→P70)

聞きたい曲をさがすとき
(トラックスキャン再生)

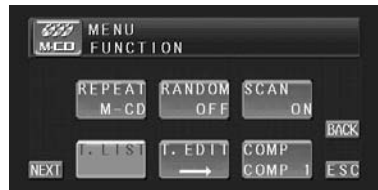
リピート範囲で「DISC」を選択します。再生中のディスクの全曲を約10秒ずつ再生することができます。

聞きたいディスクをさがすとき
(ディスクスキャン再生)

リピート範囲で「M-CD」を選択します。マガジン内のすべてのディスクの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 「SCAN」にタッチする

タッチすることにより、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると、選択したリピートの範囲内でスキャン再生が始まります。スキャン再生をやめるときは、OFFにします。



- ・スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- ・リピート範囲で「TRACK」を選択しているときにスキャン再生をONにすると、リピート範囲が自動的に「DISC」に切り換わり、スキャン再生します。

3 聞きたい曲やディスクが再生されたら、FUNCTIONメニュー（→P70）の「SCAN」にタッチし「OFF」にする

CDの音質を調整する（COMP）

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、低音域を押し上げたりします。COMP/DBE機能付きのマルチCDプレーヤーを接続したときに操作できます。


COMPについて

COMPとは、「Compression」の略で、大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞き取りにくいようなときにお使いになると便利です。

DBEについて

DBEとは、「Dynamic Bass Emphasis」の略で、車内で不足しがちな低音域を押し上げる機能です。

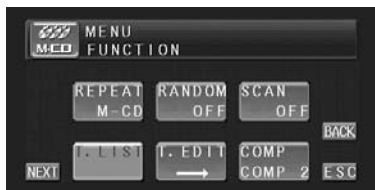
1 FUNCTIONメニューを表示する（→P70）

 ・COMP/DBE機能のないマルチCDを組み合わせたときは、「NOCOMP」が表示されて、操作ができません。

2 「COMP」にタッチする

タッチするごとに以下のように切り換わります。

→ 「OFF」 → 「COMP 1」 →
「COMP 2」 → 「OFF」 →
「DBE 1」 → 「DBE 2」 →



COMP、DBEともに、1より2のほうが、効果が大きくなります。

リストからトラック名で選んで再生する（T.LIST）

CD TEXT再生中に、トラック名（曲名）のリストを表示して、聞きたい曲を選択することができます。


1 FUNCTIONメニューを表示する（→P70）

2 「T.LIST」にタッチする

トラック名のリストが表示されます。


3 聞きたいトラック名にタッチする

選んだトラックの再生が始まります。リストは一度に6トラックを表示します。

 ・再生中のディスクに収録されているトラック数が6トラックより多い場合は、「▼」が「▲」が表示されます。
・「▼」にタッチすると、次の6トラックが表示が切り換わり、「▲」にタッチすると、前の6トラックが表示が切り換わります。

タイトルを入力する（T.EDIT）

CDにタイトルをアルファベットと数字で入力することができます。また、入力したタイトルを表示することができます。

 ・タイトルは10文字まで入力できます。
・タイトルは、ITSと合わせてCD100枚分の記憶ができます。
・100枚を超えたときは、いちばん古いCDの記憶が消されて、新しいCDが記憶されます。

1 FUNCTIONメニューを表示する（→P70）

2 「T.EDIT」にタッチする

タイトル入力画面が表示されます。

3 「A B C」または「1 2 3」にタッチして、入力する文字種を切り換える



- メモ • 「A B C」は、タッチすることにより、アルファベットの大文字(A～Z)と、アルファベットの小文字(a～z)が切り換わります。
- 「1 2 3」は、タッチすることにより、数字と、記号(0～9、! " #など)が切り換わります。

4 「▲」/「▼」にタッチして、入力する文字や記号を選択する

5 「◀」/「▶」にタッチして、入力する位置を移動する

- メモ • 10文字目を入力し「▶」にタッチすると、入力を完了することができます。この場合、手順6の操作は不要です。

6 入力が終わったら、「OK」にタッチする

入力したタイトルが記憶されます。

CD TEXTの情報表示

CD TEXTとは

CDのタイトルや歌手名などの文字情報が収録されているCDです。ディスクタイトル面に下記のマークの付いているCDはCD TEXTディスクです。下記マークの付いていないCD TEXTディスクもあります。

本機のCD TEXT文字表示は、英数字のみに対応しています。



■ タイトル表示を切り換える

ディスクタイトルやトラックタイトルなどの文字情報を表示させることができます。一度に19文字まで表示させることができます。また、隠れている文字も順に表示させることができます。

1 CD TEXT再生中に、「DISP」にタッチする

タッチすることにより以下のように切り換わります。

→ ディスクタイトル(D.Title) →
 → ディスクアーティスト名(D.Artist) →
 → トラックタイトル(T.Title) →
 → トラックアーティスト名(T.Artist) →

- メモ • 「DISP」ボタンを押して、文字情報を切り換えることもできます。
- CD TEXTに収録された文字によっては、本機では表示できないことがあります。
- トラックアーティスト名(歌手名)などが収録されていないCDで表示を切り換えると、「NO ARTIST NAME」などが表示されます。
- 「DISP」に長く(約2秒)タッチするか、「DISP」ボタンを長く(約2秒)押し続けると、隠れているタイトルをスクロール表示できます。

ITSを使う

あらかじめ聞きたい曲をITSで指定すると、指定した曲だけを再生できます。

ITSについて

ITSとは、「Instant Track Selection (インスタントトラックセレクション)」の略です。

ITSは、聞きたい曲だけを指定しておき、それを再生する機能です。(→『ITSリストから再生する』)

曲の指定はCDごとに行われます。CDを入れ替えても、そのCDの曲の指定は消えません。

CD1枚につき99曲まで指定できます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチCDでは、指定できる曲が24曲までになります。)

ITSは、タイトル(『タイトルを入力する(T.EDIT)』(→P72))と合わせてCD100枚分の曲の指定ができます。

100枚を超えたときは、いちばん古いCDの指定が消されて、新しいCDの曲が指定されます。

ITSリストを作る (ITS MEMORY)

- 1 ITSに指定したい曲の入ったディスクを再生する
- 2 FUNCTIONメニューを表示する(→P70)

3 「NEXT」にタッチする

FUNCTIONメニューの2ページ目が表示されます。



4 「ITSMEMO」にタッチする



5 「◀/▶」にタッチして、指定したい曲を選択する

6 「MEMORY ▲」にタッチして、曲を指定する

選択した曲がリストに入ります。

ITSリストから再生する (ITS PLAY)

選択した範囲(リピート範囲)で、ITS指定した曲だけを再生します。

- 1 リピート範囲を選択しておく(→P70)
- 2 「NEXT」にタッチする

FUNCTIONメニューの2ページ目が表示されます。

3 「ITSPLAY」にタッチする

タッチすることにより、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると選択したリピート範囲内でITS指定曲が再生されます。ITS再生を止めるときは、OFFにします。



・手順1で選択した再生範囲内に指定した曲がない場合は、「ITS EMPTY」が約2秒間表示されて、ITS再生は行われません。

ITSリストから1曲ずつ曲の指定を解除する

1 ITS指定を解除したい曲の入ったディスクをITS再生する

2 FUNCTIONメニューを表示する (→P70)

3 「NEXT」にタッチする

FUNCTIONメニューの2ページ目が表示されます。

4 「ITSMEMO」にタッチする

5 「◀」/「▶」にタッチして、指定を解除したい曲を選択する

6 「CLEAR ▼」にタッチして、指定を解除する

選択した曲の指定が解除されます。



・現在の再生範囲内に指定した曲がなくなった場合、「ITS EMPTY」が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

ITSリストからディスクごとに曲の指定を解除する

1 ITS再生をOFFにして、ITSリストから曲の指定を解除したいディスクを再生する

2 FUNCTIONメニューを表示する (→P70)

3 「NEXT」にタッチする

FUNCTIONメニューの2ページ目が表示されます。

4 「ITSMEMO」にタッチする

5 「CLEAR ▼」にタッチして、曲の指定を解除する

選択したディスク内でITS指定した曲が全て解除されます。

DVDプレーヤーを操作する

停車中で、パーキングブレーキがかかっているときに、DVDプレーヤーの映像を見ることができます。走行中は安全のためDVDプレーヤーの映像は表示されません。(音声は聞くことができます。)

DVDプレーヤーについて

本機でのDVDプレーヤーの基本的な操作方法を説明しています。DVDプレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせたDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

DVDプレーヤーの操作について

ここでは、本機のリモコンの「AVH」モードの場合の操作を説明しています。DVDやビデオCD特有の機能は、リモコンの操作モードを「DVD」にして、リモコンコードを正しく設定すると、本機のリモコンでも操作できます。(→P123)

DVDプレーヤーを見るためには、『AV 入力を設定する』(→P109)で「S-DVD」に設定します。

DVDプレーヤーに切り換える

1 ソースをDVDプレーヤー (S-DVD) に切り換える (→P22)

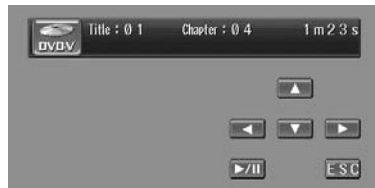
他のソースからS-DVDソースに切り換えた場合に、自動的に再生が始まります。

ソースを切り換えると、情報プレートが約8秒間表示されます。

タッチキーを表示する

1 画面にタッチする

情報プレートとタッチキーが表示されます。



・約30秒間操作をしなかった場合、情報プレートとタッチキーは自動的に消えます。

再生を停止する

1 他のソースに切り換えるか、ソースをOFFにする (→P22, P24)

一時停止する

1 「▶/⏸」にタッチする

一時停止を解除する場合は、もう一度「▶/⏸」にタッチします。

- メモ** • **BOOKM** ボタンを押して一時停止することもできます。リモコンの操作モードをAVHモードにしてください。(→P119)

早戻し／早送りする

1 「◀/▶」にタッチし続ける

タッチしている間、早戻し「◀」／早送り「▶」ができます。

- メモ** • ジョイスティックを左または右に長く押すことでも早戻し／早送りすることができます。

トラック（チャプター）を選択する

1 「◀/▶」にタッチする

「◀」にタッチすると、現在再生中のトラック（チャプター）のはじめから再生されます。「▶」にタッチすると、次のトラック（チャプター）のはじめから再生されます。

またタッチキーに数回タッチすると、タッチした回数分のトラック（チャプター）を飛ばすことができます。

- メモ** • ジョイスティックを左または右に押すことでもトラック（チャプター）を選択することができます。押した回数分のトラック（チャプター）を飛ばすこともできます。

いろいろな再生をする

リピートやランダムなど、いろいろな再生の操作は、FUNCTIONメニューを表示して行います。

接続したプレーヤーおよびディスクの種類によっては、操作できない機能もあります。

FUNCTIONメニューを表示する

1 [A.MENU] ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「FUNC」にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。



- メモ** • 「ESC」にタッチするか【BAND】ボタンまたは **BD/ESC** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
 • 「BACK」にタッチするか、**BACK** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
 • 約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

リピート範囲を選ぶ (REPEAT)

リピート範囲には、以下の選択項目があります。

PBCメニュー付きビデオCDを再生中は、リピート範囲の切り換えはできません。

「DISC」	: 再生中のディスク全体を繰り返す
「CHPTR」 (DVDビデオ)	: 現在再生中のチャプターを繰り返す
「TITLE」 (DVDビデオ)	: 現在再生中のタイトルを繰り返す
「TRACK」	: 現在再生中のトラック(曲)を繰り返す
「FOLDER」 (WMA/MP3)	: 現在再生中のフォルダーを繰り返す

1 FUNCTIONメニューを表示する (→P77)

2 「REPEAT」にタッチする

タッチするごとに、リピートの範囲が以下のように切り換わります。

DVDビデオ	: 「DISC」→「CHPTR」 →「TITLE」
ビデオCD、CD	: 「DISC」→「TRACK」
WMA/MP3	: 「DISC」→「FOLDER」 →「TRACK」



選んだリピート範囲で、リピート再生します。

- メモ • リピート再生中に、早戻し/早送りの操作を行った場合、リピート再生は解除されます。

ランダム再生する (RANDOM)

CD、WMA/MP3を再生しているときだけ、曲を順不同(ランダム)に再生します。

1 FUNCTIONメニューを表示する (→P77)

2 「RANDOM」にタッチする

タッチするごとに、「ON」↔「OFF」が切り換わります。



ONにすると、ランダム再生が始まります。

ランダム再生をやめるときは、OFFにします。

- メモ • リピート範囲が「TRACK」のときにランダム再生をONにすると、リピート範囲が自動的に「DISC」または「FOLDER」に切り換わり、ランダム再生します。

スキャン再生する (SCAN)

曲の始めの部分(約10秒間)だけを次々に再生します。

1 FUNCTIONメニューを表示する (→P77)

2 「SCAN」にタッチする

タッチすることにより、「ON」↔「OFF」が切り換わります。



ONにすると、スキャン再生が始まります。

スキャン再生をやめるときは、OFFにします。



- スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- リピート範囲が「TRACK」のときにスキャン再生をONにすると、リピート範囲が自動的に「DISC」または「FOLDER」に切り換わり、スキャン再生します。

ITS再生について

マルチDVDプレーヤーを接続した場合、ITS再生をすることができます。(マルチDVDプレーヤーのITS再生は、再生しているCD内でのみ行われます。)

操作方法は、マルチCDと同様です。詳しくはマルチCDの『ITSを使う』(→P74)をご覧ください。

CDのタイトルを入力する

CDにタイトルを10文字まで入力することができます。また、入力したタイトルを表示することができます。

操作方法は、マルチCDと同様です。詳しくはマルチCDの『タイトルを入力する(T.EDIT)』(→P72)をご覧ください。

音を調節する

本機に「DEQ-P9」を接続している場合

本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続している場合は、『音を調節する』の機能は使用できません。この場合は、『別売DSPで音を調節する』(→P88)をご覧ください。

AUDIOメニューについて

AUDIOメニューでは、選択しているソースや『リアスピーカーの出力方法を設定する』(→P105)の設定により、表示される設定項目が異なります。

- 交通情報を受信しているときは、イコライザーカーブ切り換えと、イコライザー調節は操作できません。
- 「SLA」(→P85)は、FMソース選択中は操作できません。
- 『リアスピーカーの出力方法を設定する』(→P105)で「REAR SP」に「SUB.W」(サブウーファー)を設定すると、AUDIOメニューに表示される項目が、以下のようになります。

「FAD/BAL」→「BAL」

また、「REAR SP」、「PREOUT」ともに「FULL」(フルレンジ)を設定したときは、以下のようになります。

「SUB WOOFER」→「NON FADING」

AUDIOメニューを表示する

1 【A.MENU】ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「AUDIO」にタッチする

AUDIOメニューが表示されます。



- 「NEXT」にタッチすると、2ページ目の設定項目が表示されます。
- 「ESC」にタッチするか【BAND】ボタン、**BD/ESC**ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- 「BACK」にタッチするか、**BACK**ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
- 約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

前後左右の音量バランスを調節する

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 AUDIOメニューを表示する (→前項)

2 「FAD/BAL」にタッチする

設定画面が表示されます。





・「リアスピーカーの出力方法を設定する」(→P105)で「REAR SP」に「SUB.W」(サブウーファー)を設定している場合は、設定項目が「BAL」になります。手順4に進んでください。

3 「▲」/「▼」にタッチする

前後スピーカーの音量バランスを設定します。

FRONT : 15~REAR : 15の間で設定できます。

▲ : 前を強めるとき

▼ : 後ろを強めるとき



・左右の2つのスピーカーのみ使用している場合は、「FR : 00」に設定します。

4 「◀」/「▶」にタッチする

左右スピーカーの音量バランスを設定します。

LEFT : 09~RIGHT : 09の間で設定できます。

◀ : 左を強めるとき

▶ : 右を強めるとき

イコライザーを使う

あらかじめ用意された5つの設定(ファクトリーカーブ)とお好みで調節した設定(CUSTOM)からイコライザーカーブを選ぶことができます。

1 [EQ] ボタンを押す

ボタンを押すごとに、イコライザーカーブが以下のように切り換わります。

→[POWERFUL]→[NATURAL]→
[VOCAL]→[CUSTOM]→[FLAT]
→[SUPER BASS]



・「CUSTOM」は、お好みで調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。イコライザーカーブを調節すると、「CUSTOM」に記憶されます。

・「FLAT」は、イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

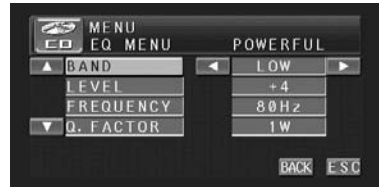
・イコライザーカーブは、低音と高音を補正することができます。詳しくは『イコライザーカーブを補正する』(→P87)をご覧ください。

■イコライザーカーブを調節する

1 AUDIOメニューを表示する (→P80)

2 「EQ MENU」にタッチする

設定画面が表示されます。



バンドを選ぶ

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、「BAND」を選択する
- ② 「◀」/「▶」にタッチして、バンドを設定する

設定できるバンドは、以下のとおりです。
LOW(低音)↔MID(中音)↔HIGH(高音)

レベルを設定する

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、「LEVEL」を選択する
- ② 「◀」/「▶」にタッチして、レベルを設定する

-6~+6の間で設定できます。

中心周波数を設定する

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、「FREQUENCY」を選択する
- ② 「◀」/「▶」にタッチして、中心周波数を設定する

設定できる中心周波数は、選んだバンドごとに以下のとおりです。

LOW : 40Hz ↔ 80Hz ↔ 100Hz ↔ 160Hz

MID : 200Hz ↔ 500Hz ↔ 1 kHz ↔ 2 kHz

HIGH : 3.15 kHz ↔ 8 kHz ↔ 10 kHz ↔ 12.5 kHz

Qファクター（イコライザーカーブの傾き）を設定する

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、「Q.FACTOR」を選択する
- ② 「◀」/「▶」にタッチして、傾きを設定する

設定できるQファクターは、以下のとおりです。

2W ↔ 1W ↔ 1N ↔ 2N



・Qファクター（イコライザーカーブの傾き）は、2Nが最も急な傾きになり、1N、1W、2Wの順で傾きが緩やかになります。

低音と高音を調節する

低音と高音のレベルと周波数を調節することができます。



・「イコライザーカーブを補正する」（→P87）の設定により、以下のような効果があります。

- 「SFE」が「FRONT1」の場合、低音調節はリア出力だけに効果があります。
- 「SFE」が「FRONT1」または「FRONT2」の場合、高音調節はフロント出力だけに効果があります。

・「H.SPICE」（ハーモニクスバイス）が「ON」で、「CUSTOM」カーブを選んでいるときか、「SFE」が「ON」のとき、低音・高音の調節を行うことができます。

■低音を調節する

1 AUDIOメニューを表示する（→P80）

2 「BASS」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「◀」/「▶」にタッチして、調節する周波数を選択する

選択できる周波数は、以下のとおりです。
40Hz ↔ 63Hz ↔ 100Hz ↔ 160Hz

4 「▲」/「▼」にタッチして、レベルを設定する

-6 ~ +6の間で設定できます。

■高音を調節する

1 AUDIOメニューを表示する
(→P80)

2 「TREBLE」にタッチする
設定画面が表示されます。



3 「◀」/「▶」にタッチして、調節する周波数を選択する

選択できる周波数は、以下のとおりです。
2.5 kHz ↔ 4 kHz ↔ 6.3 kHz ↔ 10 kHz

4 「▲」/「▼」にタッチして、レベルを設定する

-6~+6の間で設定できます。

小音量時の音にメリハリをつける

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 AUDIOメニューを表示する
(→P80)

2 「LOUD」にタッチする
設定画面が表示されます。



3 「▲」にタッチして、「ON」を選択する

「▼」にタッチするとOFFになります。

4 「◀」/「▶」にタッチして、効果を設定する

設定できる効果は、以下のとおりです。
LOW(弱) ↔ MID(中) ↔ HIGH(強)

サブウーファーを使う

本機では、リアスピーカー端子または、RCA 出力端子に接続したサブウーファーの調節を行うことができます。

位相切り換えについて

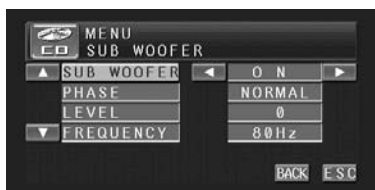
サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。

メモ ・「リアスピーカーの出力方法を設定する」(→P105)で「REAR SP」、 「PRE-OUT」ともに「FULL」が設定されている場合は、「NON FADING」が表示され、サブウーファーの設定は行えません。次の項をご覧ください。

1 AUDIOメニューを表示する
(→P80)

2 「SUB WOOFER」にタッチする

設定画面が表示されます。



ONを設定する

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、「SUB WOOFER」を選択する
- ② 「◀」にタッチして、ONに設定する
「▶」にタッチすると、OFFになります。

位相を設定する

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、「PHASE」を選択する
- ② 「◀」/「▶」にタッチして、位相を設定する
REVERSE(逆相) ↔ NORMAL(正相)を設定します。

レベルを設定する

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、「LEVEL」を選択する
- ② 「◀」/「▶」にタッチして、レベルを設定する
-6~+6の間で設定できます。

周波数を設定する

- ① 「▲」/「▼」にタッチして、「FREQUENCY」を選択する
- ② 「◀」/「▶」にタッチして、周波数を設定する
設定できる周波数は、以下のとおりです。
50Hz ↔ 80Hz ↔ 125Hz

外部アンプなどでサブウーファーを調節する

本機のローパスフィルターを通さずに、原音のままRCA出力から音声信号を出力することができ、さらにその出力レベルを調節することができます。



・「リアスピーカーの出力方法を設定する」(→P105)で「REAR SP」、「PRE-OUT」ともに「FULL」が設定されている場合に、この設定が行えます。

1 AUDIOメニューを表示する (→P80)

2 「NON FADING」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「▲」にタッチして、「ON」を選択する

「▼」にタッチすると、OFFになります。

4 「◀」/「▶」にタッチして、レベルを設定する

-6~+6の間で設定できます。

低い音をスピーカーから出力させないようにする

HPF（ハイパスフィルター）をONにすると、選んだ周波数より低い周波数の音が、各スピーカーから出力されないようになります。

HPF（ハイパスフィルター）について
ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域（低域）をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターをONにすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

1 AUDIOメニューを表示する (→P80)

2 「NEXT」にタッチする

AUDIOメニューの2ページ目が表示されます。



3 「HPF」にタッチする

設定画面が表示されます。



4 「▲」にタッチして、「ON」を選択する

「▼」にタッチすると、OFFになります。

5 「◀」/「▶」にタッチして、周波数を設定する

設定できる周波数は、以下のとおりです。
50Hz↔80Hz↔125Hz

各ソースの音量の違いをそろえる

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

メモ

- SLAとは「Source Level Adjuster（ソース レベル アジャスター）」の略です。
- FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。
- AM、テレビ、DVD、CD、External（エクスターナルユニット）、AUX（外部機器）、AV（AV入力）のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、DVDと別売のDVDプレーヤー、ビデオCD・CDとWMA/MP3、External1とExternal2、およびAMとTI（交通情報）は同じ設定になります。

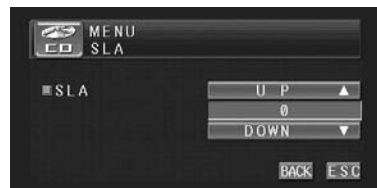
1 AUDIOメニューを表示する (→P80)

2 「NEXT」にタッチする

AUDIOメニューの2ページ目が表示されます。

3 「SLA」にタッチする

設定画面が表示されます。



4 「UP ▲」/「DOWN ▼」にタッチして、レベルを調節する

-4~+4の間で設定できます。

「UP ▲」 : レベルを大きくするとき

「DOWN ▼」 : レベルを低くするとき

お好みの音の空間に設定する

ボーカルや楽器などの音像を明確にし、自然で心地よい音の空間を手軽に演出することができます。さらに乗車位置を選択することで、よりお好みにあった設定にすることができます。

SFE (サウンド フォーカス エンハンサー) について

- FRONT1は、フロント出力の高音域と、リア出力の低音域を押し上げます。
- FRONT2は、フロント出力の高音域・低音域と、リア出力の低音域を押し上げます。(低音域の押し上げは、フロント/リア共通です。)
- FRONT1、FRONT2ともに、“L”より“H”の方が効果が大きくなります。
- “CUSTOM”には、低音、高音(→P82)をお好みに合わせて調節したSFEモードが記憶されます。
- SFEモードを切り換えると、ハイパスフィルターは自動的にOFFになります。SFEモードとハイパスフィルターを組み合わせて設定するときは、SFEモードを切り換えてから、ハイパスフィルターを設定してください。

1 AUDIOメニューを表示する (→P80)

2 「NEXT」にタッチする

AUDIOメニューの2ページ目が表示されます。

3 「SFE/H.SPC」にタッチする



4 「SFE」にタッチする

設定画面が表示されます。



5 「▲」 / 「▼」にタッチしてSFEモードを選択する

選択できるSFEモードは、以下のとおりです。

OFF ↔ CUSTOM ↔ FRONT2-L ↔
FRONT2-H ↔ FRONT1-L ↔
FRONT1-H

6 「◀」/「▶」にタッチして、乗車位置を設定する

設定できる乗車位置は、以下のとおりです。

LEFT ↔ CENTER ↔ RIGHT

イコライザーカーブを補正する

H.SPICE（ハーモニックスパイス）は、イコライザーカーブごとに低音と高音を補正する機能です。また、「CUSTOM」カーブを選んでいる場合、ソースごとに「CUSTOM」カーブの低音と高音を調節することができます。

1 AUDIOメニューを表示する (→P80)

2 「NEXT」にタッチする

AUDIOメニューの2ページ目が表示されます。

3 「SFE/H.SPC」にタッチする

4 「H.SPICE」にタッチする

設定画面が表示されます。



5 「ON ▲」にタッチして、ONに設定する

ハーモニックスパイスがONになります。「OFF ▼」にタッチすると、OFFになります。

別売DSPで音を調節する

本機に「DEQ-P9」を接続している場合

本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続している場合は、『別売DSPで音を調節する』の機能を使用することができます。(『音を調節する(→P80)』の機能は使用できません。)

DSP調節のポイント

次の順に設定や調節をすることで、心地よい音の空間を手軽に演出したり、きめ細かくお好みの音場を作り出すことができます。

- ① 接続したスピーカーの設定をする(→P93)
- ② リスニングポジションを選ぶ(→P89)
- ③ オートイコライジング&タイムアライメントを行う(→P100)

オートイコライジング&タイムアライメントを行った後、さらに詳細な音の設定をする場合は、以下の操作を行ってください。

- ④ タイムアライメントを調節する(→P97)
- ⑤ テストトーンでスピーカーレベルを調節する(→P96)
- ⑥ クロスオーバー周波数を設定する(→P94)
- ⑦ スピーカーレベルを調節する(→P95)
- ⑧ イコライザーカーブを調節する(→P98)

DSPメニューについて

DSPメニューでは、選択しているソースにより、表示される設定項目が異なります。

- ・「SLA」(→P90) は、FMソース選択中は操作できません。
- ・「D.R.C」(→P91) は、DVD再生中にのみ操作できます。
- ・「TIME ALIGN」(→P96) は、『リスニングポジションを選ぶ』(→P89) で「FRONT-L」または「FRONT-R」を選んでいないと操作できません。

DSPメニューを表示する

1 [A.MENU] ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 [DSP] にタッチする

DSPメニューが表示されます。



- ・「NEXT」にタッチすると、2ページ目の設定項目が表示されます。メニューページは全部で3ページあります。「PREV」にタッチすると、前のページが表示されます。
- ・「ESC」にタッチするか【BAND】ボタン、**[BD/ESC]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- ・「BACK」にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
- ・約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

SFCで音場を再現する

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。

SFC (Sound Field Control) について

演奏会場は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音・初期反射音・残響音の長さや質が変化するためです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。

1 [EQ] ボタンを長く (約2秒以上) 押し、SFCモードに切り換える

すでにSFCモードになっている場合は、この操作は必要ありません。



・[EQ] ボタンは、長く押す (約2秒以上) ことで、イコライザーモードと、SFCモードを切り換えます。イコライザーモードになっているときは、[EQ] ボタンを長く押し、SFCモードに切り換えてください。



・2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (MUSICAL、DRAMA、ACTION) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (JAZZ、HALL、CLUB) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをおすすめします。

2 [EQ] ボタンを押す

ボタンを押すごとにSFCが以下のように切り換わります。

→ OFF → MUSICAL → DRAMA → ACTION → JAZZ → HALL → CLUB →

MUSICAL :

音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生を楽しむのに適しています。

DRAMA :

リアスピーカーの音と一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサラウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響き、ストーリー重視の映画を楽しむのに適しています。

ACTION :

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンの迫力を包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむのに適しています。

JAZZ :

ジャズクラブでの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむのに適しています。

HALL :

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きでクラシック音楽などを楽しむのに適しています。

CLUB :

クラブの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに適しています。

リスニングポジションを選ぶ

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション (聞く位置) を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

リスニングポジションについて

リスニングポジションは、座席位置や人数に合わせて、自動的に各スピーカーから出る音の遅延時間とレベルを調節する機能です。SFCと組み合わせることで、全身を包むような豊かな音場を体感することができます。

1 DSPメニューを表示する (→P88)

2 「[POS]」 にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「▲」/「▼」/「◀」/「▶」にタッチして、リスニングポジションを選ぶ

「▲」(FRONT) : 同乗者が助手席にいるとき

「▼」(ALL) : 同乗者が後部座席にいるとき

「▶」(FRONT-R) : 右ハンドル車に運転者のみがいるとき

「◀」(FRONT-L) : 左ハンドル車に運転者のみがいるとき

メモ

- 同じキーにタッチするごとに、ON/OFFが切り換わります。
- 「TIME ALIGN」(→P96)を調節するときは、「FRONT-L」または「FRONT-R」を選んでください。

前後左右の音量バランスを調節する

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「FAD/BAL」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「▲」/「▼」にタッチして、前後スピーカーの音量バランスを設定する

FRONT : 25~REAR : 25の間で設定できます。

▲ : 前を強めるとき

▼ : 後ろを強めるとき

メモ

- 左右の2つのスピーカーのみ使用している場合は、「FR : 00」に設定します。

4 「◀」/「▶」にタッチして、左右スピーカーの音量バランスを設定する

LEFT : 25~RIGHT : 25の間で設定できます。

◀ : 左を強めるとき

▶ : 右を強めるとき

各ソースの音量の違いをそろえる

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FMの音量を基準にして各ソースの音量の違いをそろえることができます。

メモ

- SLAとは「Source Level Adjuster (ソース レベル アジャスター)」の略です。
- FMの音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FMを聞いているときは、SLAモードに切り換えることはできません。
- AM、テレビ、DVD、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器)、AV (AV入力) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、DVDと別売のDVDプレーヤー、ビデオCD・CDとMP3/WMA、External1とExternal2、およびAMとT1 (交通情報) は同じ設定になります。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「SLA」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「UP ▲」/「DOWN ▼」にタッチして、レベルを調節する

−4～+4の間で設定できます。

「UP ▲」 : レベルを大きくするとき

「DOWN ▼」 : レベルを低くするとき

ダイナミックレンジコントロールを使う

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールは、この幅を圧縮することで、音量を下げた楽しむ場合に小さな音も聞きとりやすくすることができます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「D. R. C」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「ON ▲」にタッチして、ONに設定する

「OFF ▼」にタッチすると、OFFになります。



- ダイナミックレンジコントロールの効果が得られるのは、ドルビーデジタル音声だけです。
- ソースが内蔵プレーヤー (DVD) またはマルチDVD/1枚型DVDプレーヤー (S-DVD) のとき以外はダイナミックレンジコントロールモードには切り換わりません。

ダウンミックス機能を使う

ダウンミックスとは、5.1チャンネルの音声を2チャンネルに変換する機能のことです。チャンネル数を落として、音声をDVDフォーマットの中で定められた一定基準にしたがって混合し、再生します。センタースピーカーやサブウーファアを持たないシステムでも、5.1チャンネルの音場感を再現できます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「DOWN MIX」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「◀」/「▶」にタッチして、設定を切り換える

Lo/Ro ↔ Lt/Rtを設定します。

Lo/Ro : オリジナルの音声が、サラウンド成分のような音声チャンネルを含まない場合に選択します。オリジナルの音声を2チャンネル音声に変換して再生します。

Lt/Rt : オリジナルの音声が、サラウンド成分を含んでいるときに選択します。サラウンド成分を復元(デコード)できるように、2チャンネル音声に変換して再生します。



- DVDオーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても実行されません。

オリジナルの音質で聞く

各種オーディオの設定を無効にすることができます。調整したオーディオ設定の効果を確認するのに便利です。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「DIGITL DIRECT」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「ON ▲」にタッチして、ONに設定する

「OFF ▼」にタッチすると、OFFになります。



- デジタルダイレクトがONの間は、音量調節 (VOLUMEと【ATT】ボタン) とドルビープロロジックⅡのみ有効です。その他のオーディオ調節はできません。
- 2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、デジタルダイレクトをONにすると、フロントスピーカー (左右) 以外から音声は出力されません。

ドルビープロロジックⅡを使う

ドルビープロロジックⅡを使うと、2チャンネルの音声を5.1チャンネルに拡張して全体域で再生することができます。オリジナルの録音の空間情報から、より立体的なサラウンド空間を作り出す先進的な機能です。従来のドルビープロロジックに比べ、音の定位がより鮮明になり、音の移動も自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

ドルビープロロジックⅡのON/OFFについて

2チャンネルのリニアPCM、または2チャンネルのドルビーデジタルの音声で、5.1チャンネルに適したSFC (MUSICAL、DRAMA、ACTION) を選んだ場合、ドルビープロロジックⅡをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (JAZZ、HALL、CLUB) を選んだ場合、ドルビープロロジックⅡをOFFにすることをおすすめします。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「NEXT」にタッチする

DSPメニューの2ページ目が表示されます。



3 「DOLBY PL II」にタッチする

設定画面が表示されます。



4 お好みのタッチキーにタッチして、モードを設定する

「MOVIE」(ムービー) :

映画やTVドラマなどのステレオ音声を、5.1チャンネル録音に迫る立体的な音で楽しめます。

「MUSIC」(ミュージック) :

広く深い音場を表現し、音楽などを臨場感豊かに楽しめます。ミュージックモードのパラメーターを調整することで、好みに合わせた空間表現を得ることができます。

「MATRIX」(マトリックス) :

方向性強調回路がオフになるため、シンプルなサラウンド再生になります。FMやTVなどのステレオ放送で受信状態が不安定な場合に向いています。

「OFF」 :

ドルビープロロジックⅡをOFFにします。

「ADJUST」(アジャスト) :

「MUSIC」を選択したときに、ミュージックモードを調節できます。



- ・2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックⅡをONにすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、センタースピーカーだけ音が出力されることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出力されないことがあります。
 - * センタースピーカーとリアスピーカーの設定を両方とも「OFF」にしている場合は、操作ができません。
- ・ドルビープロロジックⅡは、48kHz以下のサンプリング周波数で動作します。その他の値では効果がありません。

■ミュージックモードを切り換える

1 ドルビープロロジックⅡで「MUSIC」を選ぶ (→P92)

2 「ADJUST」にタッチする

ミュージックアジャストの設定画面が表示されます。



3 「▲」/「▼」にタッチして、お好みのモードを設定する

PANORAMA (パノラマ) :

フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して、包み込みの効果を大きくします。

DIMENSION (ディメンション) :

広音場の位置をフロント側、リア側に細かく調整します。+はフロント側に、-はリア(サラウンド)側に音を移動します。

CENTER WDT (センター幅) :

センターの音を、フロントのLRチャンネルとセンターチャンネルの3つのスピーカーにどのように振り分けるかを設定します。推奨は3で、ほとんどの録音に適しています。0は、センタースピーカーだけでセンターの音を再生します。7は、通常のステレオと同様にセンターの音をフロントのLRに振り分けます。

4 「◀」/「▶」にタッチして、各モードを設定する

PANORAMA : ON↔OFF

DIMENSION : -3~+3

CENTER WDT : 0~7

接続したスピーカーの設定をする

■各スピーカーの有無やサイズを設定する

スピーカーの接続の有無や接続したスピーカーのサイズ(低音域再生能力)の設定をすることができます。この設定により、スピーカーを接続していないために再生できないチャンネルの音を他のスピーカーから出力させたり、より再生に適したスピーカーから低音を出力させることができます。



- ・スピーカーサイズ設定は、100Hz以下の周波数帯域を再生可能かどうか目安になります。再生可能な場合は「LARGE」に、再生不可能な場合は「SMALL」に設定してください。
- ・Auto EQ&TA (→P102) を行うときは、スピーカーの設定はON/OFFだけ行ってください。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「NEXT」にタッチする

DSPメニューの2ページ目が表示されます。

3 「SP SET」にタッチする

設定画面が表示されます。



4 「▲」/「▼」にタッチして、設定するスピーカーを選択する

5 「◀」/「▶」にタッチして、選択したスピーカーのサイズを設定する

設定できるサイズは、以下のとおりです。

FRONT	: SMALL ↔ LARGE
CENTER	: OFF → SMALL → LARGE
REAR	: OFF → SMALL → LARGE
SUB WOOFER	: ON ↔ OFF



- SUB WOOFERは、ON(接続)/OFF(非接続)の設定を行います。
- 接続していないスピーカーの設定は、必ず「OFF」にしてください。
- サブウーファーを接続していない場合、フロントまたはリアスピーカーに低音再生能力がある限り、スピーカー設定は「LARGE」を選んでください。フロントとリア両方のスピーカー設定を「SMALL」にすると、低音が著しく不足した感じになることがあります。
- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックⅡをONにすると、次のような現象が起こることがあります。

* センタースピーカーの設定を「SMALL」や「LARGE」にしている場合、センタースピーカーだけ音が出ることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出ることがあります。

■サブウーファーの位相を設定する 位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。

1 「SP SET」で「SUB WOOFER」をONにする

2 「▲」/「▼」にタッチして、「PHASE」を選択する

3 「◀」/「▶」にタッチして、位相を設定する

REVERSE(逆相) ↔ NORMAL(正相)を設定します。



- サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えモードは選択できません。

クロスオーバー周波数を設定する

クロスオーバー周波数は、サブウーファーやスピーカーサイズを「SMALL」に設定したスピーカーの再生音域を設定します。サブウーファーからは、選んだ周波数より低い音域が出力されます。また「SMALL」に設定したスピーカーからは、選んだ周波数より高い音域が出力され、音量が抑えられた低い音域はサブウーファーから出力されるようになります。サブウーファーを接続していない場合、音量が抑えられた低い音域は「LARGE」に設定したスピーカー(フロントまたはリア)から出力されるようになります。

1 DSPメニューを表示する(→P88)**2 「NEXT」にタッチする**

DSPメニューの2ページ目が表示されます。

3 「CROSS OVER」にタッチする

設定画面が表示されます。

**4 「▲」/「▼」にタッチして、設定するスピーカーを選択する**

選択できるスピーカーは、以下のとおりです。

FRONT(フロントスピーカー)↔CENTER(センタースピーカー)↔REAR(リアスピーカー)↔SUB WOOFER(サブウーファー)

5 「◀」/「▶」にタッチして、クロスオーバー周波数を設定する

設定できる周波数は、以下のとおりです。

63Hz ↔ 80Hz ↔ 100Hz ↔ 125Hz ↔ 160Hz ↔ 200Hz



・サブウーファアのLPFと、スピーカーサイズを「SMALL」に設定したスピーカーのHPF両方のカットオフ周波数を設定します。サブウーファアが「OFF」で、他のスピーカーのサイズが「LARGE」や「OFF」に設定されている場合、クロスオーバー周波数の設定は無効になります。

スピーカーレベルを調節する

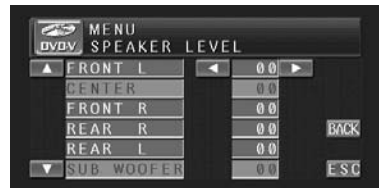
テストトーンで行った各スピーカーからの出力レベルを、実際の音声を聞きながらもう一度調節することができます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)**2 「NEXT」にタッチする**

DSPメニューの2ページ目が表示されます。

3 「SP LEVEL」にタッチする

設定画面が表示されます。

**4 「▲」/「▼」にタッチして、設定するスピーカーを選択する**

選択できるスピーカーは、以下のとおりです。

FRONT L(左フロントスピーカー)↔CENTER(センタースピーカー)↔FRONT R(右フロントスピーカー)↔REAR R(右リアスピーカー)↔REAR L(左リアスピーカー)↔SUB WOOFER(サブウーファー)

5 「◀」/「▶」にタッチして、レベルを設定する

-10~+10の間で設定できます。



・このモードで調節した出力レベルは、テストトーンモード(→次項)で調節したレベルと同じ値になります。
・「接続したスピーカーの設定をする」(→P93)で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

テストトーンでスピーカーレベルを調節する

テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節し、スピーカーシステム全体のバランスを整えます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「NEXT」にタッチする

DSPメニューの2ページ目が表示されます。

3 「TEST TONE」にタッチする

設定画面が表示されます。



4 「START」にタッチする

テストトーン出力が開始され、約2秒間ずつ以下の順に切り換わります。

→FRONT L(左フロントスピーカー)→
 CENTER(センタースピーカー)→
 FRONT R(右フロントスピーカー)→
 REAR R(右リアスピーカー)→REAR L
 (左リアスピーカー)→SUB WOOFER
 (サブウーファー)

5 「◀」/「▶」にタッチして、レベルを設定する

6 「STOP」にタッチする

- メモ • このモードで調節した出力レベルは、「スピーカーレベルを調節する」(→P95)で調節したレベルと同じ値になります。
- 「接続したスピーカーの設定をする」(→P93)で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

タイムアライメントを使う

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節する機能です。出荷時にあらかじめ設定された値「INIT」、お好みで設定した値「CUSTOM」、またはオートイコライジング&タイムアライメント「AUTOTA」で設定された値の3種類の中から選べます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「NEXT」にタッチする

DSPメニューの2ページ目が表示されます。

3 「TIME ALIGN」にタッチする

タイムアライメントの選択画面が表示されます。



4 お好みのタイムアライメントにタッチする

選択できるタイムアライメントは以下のとおりです。

「INIT」 : 出荷時に設定されたタイムアライメントの初期値です。

「AUTOTA」 : オートイコライジング&タイムアライメント機能(→P100)を使って設定をしたタイムアライメントを行います。

「CUSTOM」 : お好みに合わせて調節したタイムアライメントです。

「OFF」 : タイムアライメントをOFFにします。

「ADJUST」 : CUSTOMを作成します。



- AUTO EQ&TA (→P102) を行っていない場合は、「AUTOTA」を選択できません。
- 「リスニングポジション」(→P89) で「FRONT-L」か「FRONT-R」を選んでいると、「ADJUST」は操作できません。

オートタイムアライメントの設定値を使う

Auto EQ&TA (→P102) で作成したオートタイムアライメントの設定を使うことができます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「NEXT」にタッチする

DSPメニューの2ページ目が表示されます。

3 「TIME ALIGN」にタッチする

タイムアライメントの選択画面が表示されます。

4 「AUTOTA」にタッチする

タイムアライメントを調節する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。「リスニングポジション」(→P89)を設定することで自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。



- 「リスニングポジション」(→P89)で「FRONT-L」か「FRONT-R」を選んでいると、タイムアライメント調節モードは選択できません。
- 調節したタイムアライメントは、「CUSTOM」に記憶されます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「NEXT」にタッチする

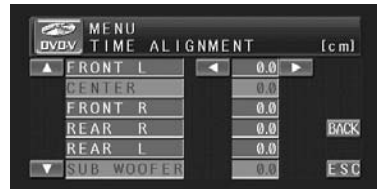
DSPメニューの2ページ目が表示されます。

3 「TIME ALIGN」にタッチする

タイムアライメントの選択画面が表示されます。

4 「ADJUST」にタッチする

設定画面が表示されます。



5 「▲」/「▼」にタッチして、設定するスピーカーを選択する

選択できるスピーカーは、以下のとおりです。
FRONT L(左フロントスピーカー) ↔ CENTER(センタースピーカー) ↔ FRONT R(右フロントスピーカー) ↔ REAR R(右リアスピーカー) ↔ REAR L(左リアスピーカー) ↔ SUB WOOFER(サブウーファー)

6 「◀」/「▶」にタッチして、距離を設定する

0.0cm～500.0cmの範囲で調節できます。



- 『接続したスピーカーの設定をする』(→P93)で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

イコライザーを使う

あらかじめ用意された5つの設定（ファクトリーカーブ）とお好みで調節した設定（CUSTOM）からイコライザーカーブを選ぶことができます。

1 [EQ] ボタンを長く（約2秒以上）押し、イコライザーモードに切り換える

すでにイコライザーモードになっている場合は、この操作は必要ありません。

メモ ・ [EQ] ボタンは、長く押す（約2秒以上）ことで、イコライザーモードと、SFCモードを切り換えます。SFCモードになっているときは、[EQ] ボタンを長く押し（約2秒以上）、イコライザーモードに切り換えてください。

2 [EQ] ボタンを押す

ボタンを押すごとに、イコライザーカーブが以下のように切り換わります。

「POWERFUL」→「NATURAL」→
「VOCAL」→「FLAT」→「CUSTOM1」→
「CUSTOM2」→「SUPER BASS」

メモ ・ “CUSTOM1” は、お好みで調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。
・ “CUSTOM2” はすべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。
・ “FLAT” は、イコライザーによる音の補正はされていません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えることで、設定したイコライザーカーブの効果を確認することができます。

イコライザーカーブを調節する

センタースピーカークの調節について

センタースピーカークは、音像を定位させるのに影響が大きいスピーカークです。このため、他のスピーカークと同時にバランスをとるのは、とても難しい作業です。全体のバランスをとるため、2チャンネルの音声（CD など）を再生し、センターを除く全てのスピーカークのバランスを調節した後、5.1 チャンネルの音声（ドルビーデジタルやDTS）を再生し、センタースピーカークを全体のバランスに合わせるように調節すると、スムーズに行うことができます。

中心周波数について

各バンドの中心周波数は、26種類の周波数の中から選ぶことができます。周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満に設定することはできません。

1 DSPメニューを表示する（→P88）

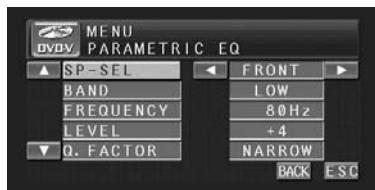
2 「NEXT」 に2回タッチする

DSPメニューの3ページ目が表示されます。



3 「PARA EQ」 にタッチする

設定画面が表示されます。



スピーカーを選ぶ

① 「▲」/「▼」にタッチして、「SP-SEL」を選択する

② 「◀」/「▶」にタッチして、スピーカーを設定する

設定できるスピーカーは、以下のとおりです。

REAR(リアスピーカー) ↔ CENTER(センタースピーカー) ↔ FRONT(フロントスピーカー)

バンドを設定する

① 「▲」/「▼」にタッチして、「BAND」を選択する

② 「◀」/「▶」にタッチして、バンドを設定する

設定できるバンドは、以下のとおりです。
LOW(低音) ↔ MID(中音) ↔ HIGH(高音)

中心周波数を設定する

① 「▲」/「▼」にタッチして、「FREQUENCY」を選択する

② 「◀」/「▶」にタッチして、中心周波数を設定する

設定できる中心周波数は、以下のとおりです。

40Hz ↔ 50Hz ↔ 63Hz ↔ 80Hz ↔ 100Hz ↔ 125Hz ↔ 160Hz ↔ 200Hz ↔ 250Hz ↔ 315Hz ↔ 400Hz ↔ 500Hz ↔ 630Hz ↔ 800Hz ↔ 1kHz ↔ 1.25kHz ↔ 1.6kHz ↔ 2kHz ↔ 2.5kHz ↔ 3.15kHz ↔ 4kHz ↔ 5kHz ↔ 6.3kHz ↔ 8kHz ↔ 10kHz ↔ 12.5kHz

レベルを設定する

① 「▲」/「▼」にタッチして、「LEVEL」を選択する

② 「◀」/「▶」にタッチして、レベルを設定する

-6~+6の間で設定できます。

Qファクター(イコライザーカーブの傾き)を設定する

① 「▲」/「▼」にタッチして、「Q.FACTOR」を選択する

② 「◀」/「▶」にタッチして、傾きを設定する

WIDE(緩やかな傾き) ↔ NARROW(急な傾き)を設定します。

オートイコライザーの設定値を使う

Auto EQ&TA(→P102)で作成したオートイコライザーカーブの設定を使うことができます。

1 DSPメニューを表示する(→P88)

2 「NEXT」に2回タッチする

DSPメニューの3ページ目が表示されます。

3 「AUTO EQ」にタッチする

設定画面が表示されます。



・AUTO EQ&TA(→P102)を行っていない場合、設定画面は表示されません。

4 「ON ▲」にタッチして、ONに設定する

「OFF ▼」にタッチすると、OFFになります。

オートイコライジング&タイムアライメントを行う

車室内の音響特性を自動的に計測して、最適になるように自動補正することができます。

オートイコライジング&タイムアライメントを行う前に


Auto EQ&TA (オートイコライジング&タイムアライメント) を行う前に必ずお読みください。

Auto EQ&TA (オートイコライジング&タイムアライメント) を行う前に、リスニングポジションとスピーカーの設定を終わらせてください。



警告

走行中にAuto EQ&TAを行わない

 自動車が走行中にAuto EQ&TAを行わないでください。Auto EQ&TA機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因になることがあります。

スピーカー破損防止について

次の状態でAuto EQ&TAを行うと、スピーカーが破損する恐れがあります。Auto EQ&TAを行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超える出力のパワーアンプを接続している場合

Auto EQ&TA機能について

車室内空間は、その広さや複雑な形状、材質により、ホームオーディオに比べ、一般的に音響特性が大きく乱れています。このような車室内の音響特性を補正するためにイコライザーを使用しますが、測定器などを使用せずに設定するのはかなり困難な作業になります。

本機のAuto EQ&TA機能は、車室内の音響特性を自動的に測定し、そのデータに基づいて、車室内の音響特性が乱れの少ない滑らかな特性に近づくように自動的に補正します。(イコライザーカーブを呼び出したときは、Auto EQ&TAにより乱れの少ない滑らかな特性になったうえでイコライザーカーブが設定されますので、より効果的になります。) また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を自動的に測定し、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調整します。

Auto EQ&TAを行う前にお読みください

- Auto EQ&TAは、なるべく静かなところで、車のエンジンおよびエアコンやヒーターを止めて行ってください。また、携帯電話や自動車電話などを車載している場合は、電話を車外へ持ち出すか電源を切ってからAuto EQ&TAを行ってください。計測音以外の音（車周辺の騒音、エンジン音、電話の着信音など）によって、車室内の音響特性が正しく測定できないことがあります。
- Auto EQ&TAは、必ず「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを使用して行ってください。「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイク以外のマイクでは、Auto EQ&TAが実行できなかったり、車室内の音響特性が正しく測定できません。
- フロントスピーカーが接続されていない場合は、Auto EQ&TAが実行できません。
- フロントスピーカーをミュートしている場合は、Auto EQ&TAが実行できません。
- 入力レベルコントロール付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプの入力レベルコントロールを下げていると、Auto EQ&TAが実行できない場合があります。パワーアンプの入力レベルコントロールは推奨位置に合わせてください。
- ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合、パワーアンプのローパスフィルターはOFFにして測定してください。また、パワードサブウーファー内蔵のローパスフィルターは、遮断周波数を最も高い値に設定してください。
- Auto EQ&TA測定時に算出したタイムアライメントの値は、次の場合に実際の距離と異なることがあります。計測状況によりコンピューターが算出した正確な遅延時間をもとに設定された距離です。そのままの値でご使用ください。
 - * 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている場合。
 - * パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている場合。
- Auto EQ&TAを行うと、各モードの内容が次のように変更されます。
 - * 前後左右の音量バランス調節（フェーダー/バランス）の設定がリセットされ、初期設定に戻ります。
 - * イコライザーカーブは、フラット（FLAT）になります。
 - * リスニングポジションセレクターは、FRONT-Rに設定されます。（ただし、FRONT-Lに設定していたときだけは、FRONT-Lのままになります。）
 - * サブウーファーを接続している場合、サブウーファー出力とリアハイパスフィルターの設定が調節されます。（サブウーファー出力をOFFにしても、自動的にONになり調節されます。）

Auto EQ&TAの調節内容について

- 一度Auto EQ&TAを行ったあとに、再度Auto EQ&TAを行うと、前のAuto EQ&TAの調節内容は消去されます。

オートイコライジング&タイムアライメント (Auto EQ&TA) を行う

車室内の音響特性を自動的に計測して、車室内の音響特性を最適に自動補正することができます。

1 車の環境を整える

- ・静かな所に車を停車します。
- ・ドア、窓、サンルーフなどを閉めます。
- ・車のエンジンを停止します。
- ・エアコンやヒーターをOFFにします。

2 マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定します。

音響特性測定用
マイク入力端子へ



ご注意

- ・マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がる恐れがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。

3 車のエンジンスイッチをACCまたはONにする

ご注意

- ・車のエアコンやヒーターがONになっている場合は、OFFにしてください。エアコンやヒーターのファンの騒音によってAuto EQ&TAが実行できないことがあります。

4 ソースをONにする (→P22)

5 乗車位置を決定する

リスニングポジション (→P89) を設定して、乗車位置をマイクをセットした座席に設定します。



- ・乗車位置をFRONT-RまたはFRONT-L以外に設定したときは、Auto EQ&TAを始めると、強制的にFRONT-Rに再設定されます。

6 ソースをOFFにする (→P24)

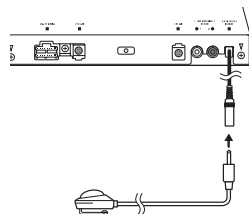
7 [EQ] ボタンを長く (約2秒以上) 押す

オートイコライジング&タイムアライメントモードになります。



8 マイクを「DEQ-P9」に接続する

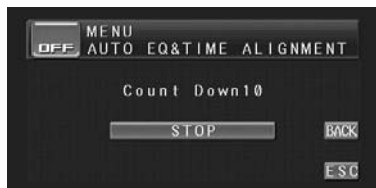
「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクをマイク入力端子に接続します。



- ・Auto EQ&TAをはじめてから測定が終了するまでに、約8分かかります。測定時間は周囲の騒音状態や車両形状、スピーカーの数などにより変わります。

9 「START」にタッチする

10秒のカウントダウンが始まります。



・中止するときは「STOP」にタッチします。

10 車外に出る

10秒以内に車外に出て、ドアを閉めます。計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、Auto EQ&TAがはじまります。

約8分で自動的に終了します。

Auto EQ&TA操作が終わったらセットした音響特性測定用マイクを取り外し、「ESC」にタッチするか、「BAND」ボタン、「BD/ESC」ボタンを押して、Auto EQ&TAモードを解除します。



- ・Auto EQ&TAを途中でやめたいときは、「STOP」または「BACK」、「ESC」にタッチするか、「BAND」ボタン、「BD/ESC」ボタンを押します。
- ・音響特性測定用マイクをセットする位置により、Auto EQ&TAの調節内容が変わります。お好みにより、助手席にセットすることもできます。
- ・音響特性測定用マイクはグローブボックスなどに、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になる恐れがあります。

各種の設定をする

本機には、ソースOFFのときに操作できる初期設定と、ソースのON/OFFに関わらず操作できる基本設定があります。

初期設定

初期設定メニューを表示する

1 ソースをOFFにする (→P24)

2 [A.MENU] ボタンを押す

メインメニューが表示されます。



・ソースOFF時のメインメニューでは、初期設定を行う「INIT」のほかに、本機の基本設定を行う「SET UP」(→P108)があります。(ソースOFF時はAUDIO設定、DSP設定を行うことはできません。)

3 「INIT」にタッチする

初期設定メニューが表示されます。



・「NEXT」にタッチすると、2ページ目の設定項目が表示されます。「PREV」にタッチすると、前のページが表示されます。
・「ESC」にタッチするか【BAND】ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
・「BACK」にタッチするか、【BACK】ボタンを押すと、前の画面に戻ります。

外部機器の音声を聞く (AUX)

本機にポータブル機器やVTRなどの外部機器を接続すると、その音声を聞くことができます。

外部機器との接続について

別売のRCA/IP-BUSインターコネクター「CD-RB20」または「CD-RB10」を使うと、RCA出力のあるポータブル機器やVTRを、外部機器として本機に接続することができます。詳しくは、RCA/IP-BUSインターコネクターの説明書をご覧ください。

1 初期設定メニューを表示する (→前項)

2 「AUX」にタッチする

タッチするごとに、ON↔OFFが切り換わります。



ONにすると、外部機器が「AUX」ソースとして設定されます。

AUXをOFFにするには、「OFF」を選択します。

イルミネーションを設定する

車両のエンジンスイッチがACCの状態
で、本機のイルミネーションがONに
なるように設定できます。ACCの状態
で本機のイルミネーションをOFFにし
ておきたい場合は「OFF」に設定し
ます。

1 初期設定メニューを表示する (→P104)

2 「ILM SW」にタッチする

タッチすることにより、ON↔OFFが切り
換わります。



ONにすると、ACC連動に設定されます。
パワー連動(ソースONに連動)させるには、
OFFにします。

メモ • ACC—ON位置のない車両では、「OFF
(パワー連動)」に設定してください。
バッテリー上がりの原因になります。

リアスピーカーの出力方法を 設定する

リア出力に接続するスピーカーの種類に
合わせて出力方法を設定します。また、
サブウーファースの調節先を選びます。

メモ • 本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニッ
ト (「DEQ-P9」) を接続している場合は、
この設定は操作できません。
• この設定では、リアスピーカー端子にサ
ブウーファーを接続するときは「SUB.W」
に、フルレンジスピーカーを接続する
ときは、「FULL」に設定してください。

1 初期設定メニューを表示する (→P104)

2 「REAR SP」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「▲」/「▼」にタッチして、リアス ピーカーを設定する

「FULL」↔「SUB.W」を設定します。

「FULL」 : フルレンジスピーカーを
接続する場合

「SUB.W」 : サブウーファーを接続
する場合

メモ • フルレンジスピーカーを接続した場合は、
SUBWOOFER OUTPUT or NON-FADING
OUTPUT出力にサブウーファーをつな
ぐことができるようになります。
次の手順に進んでください。

4 「◀」/「▶」にタッチして、出力 方法を設定する

「FULL」↔「SUB.W」を設定します。

「FULL」 : ノンフェーディング出
力 (別売アンプでコン
トロールするとき)

「SUB.W」 : サブウーファー出力
(内蔵アンプでコン
トロールするとき)

音の歪みを補正する (DIGITAL ATT)

イコライザーカーブの調節(→P98)による音の歪みをなくすることができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの調節(→P98)でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの調節で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定を「LOW」に切り換えてください。

通常は「HIGH」に設定してください。



・本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続していない場合は、この設定は操作できません。

1 初期設定メニューを表示する (→P104)

2 「D.ATT」にタッチして、補正範囲を設定する

タッチすることにより「HIGH」 ↔ 「LOW」が切り換わります。



ミュート/アッテネートを設定する (TEL/GUIDE)

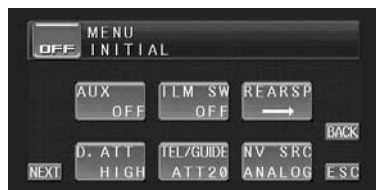
ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っているとだけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。

1 初期設定メニューを表示する (→P104)

2 「TEL/GUIDE」にタッチする

タッチすることにより、以下のように切り換わります。

→「MUTE」→「ATT20」→「ATT10」→「OFF」←



「MUTE」	: 音量0
「ATT20」	: もとの音量の1/3
「ATT10」	: もとの音量の1/10
「OFF」	: 音量変化なし

ナビゲーションの音声出力を設定する

本機に、パイオニア製ナビゲーションシステム「AVIC-H990」を接続したとき、本機へのナビゲーション音声の出力のしかたを設定します。

1 初期設定メニューを表示する (→P104)

2 「INV SRC」にタッチする

タッチするごとに、「ANALOG」 ↔ 「AUTO」が切り換わります。



「ANALOG」：ナビゲーションに内蔵のソース(DVDやミュージックサーバー)をアナログ出力に固定するとき

「AUTO」：ナビゲーションに内蔵のソース(DVDやミュージックサーバー)をANALOG/DIGITALを自動で切り換えるとき



- ナビゲーションユニットを30ピンRGBケーブルでのみ本機と接続した場合は、「ANALOG」に設定してください。ナビゲーションからの音声はアナログでのみ出力されます。
- ナビゲーションユニットを光ケーブルで5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」などに接続し、30ピンRGBケーブルで本機と接続した場合は、「AUTO」に設定してください。ナビゲーションユニットからの音声は、DVDソースはデジタルで、ミュージックサーバーはアナログで出力されます。

オーディオの設定をリセットする (AUDIO RESET)

本機に、別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続している場合のみ、オーディオの設定をリセットして、出荷時の設定に戻します。
音量の設定は出荷時の状態に戻りません。

1 初期設定メニューを表示する (→P104)

2 「NEXT」にタッチする

初期設定メニューの2ページ目が表示されます。



3 「RESET」にタッチする

「RESET」が表示されます。



4 「RESET」にタッチする

リセットの確認画面が表示されます。



5 「RESET」にタッチする

オーディオの設定がリセットされます。
リセットを中止したいときは、「CANCEL」にタッチします。

リセットされる項目

- スピーカーサイズ (SP SET)
- クロスオーバー周波数 (CROSS OVER)
- スピーカーレベル (SP LEVEL)
- オートタイムアライメント (AUTOTA)
- 3バンドパラメトリックイコライザー (PARA EQ)
- ドルビープロロジックⅡ (DOLBY PL Ⅱ)
- ミュージックモード (MUSIC ADJUST)
- SFC
- オートイコライザー (AUTO EQ)
- オートEQ&TA

リセットされない項目

- 音量バランス (FAD/BAL)
- ダイナミックレンジコントロール (D. R. C)
- デジタルダイレクト (DIGITL DIRECT)
- リスニングポジション (POSI)

基本設定

基本設定メニューを表示する

1 「A.MENU」ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

2 「SETUP」にタッチする

基本設定メニューが表示されます。



- 「ESC」にタッチするか【BAND】ボタンまたは **[BD/ESC]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- 「BACK」にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
- 約30秒間（「時計を設定する」(→P110)では約60秒間) 操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

AV入力を設定する

ビデオやDVDプレーヤーなどの外部機器を本機に接続した場合、機器に合った設定に切り換えます。

1 基本設定メニューを表示する (→P108)

2 「AV IN」にタッチする

タッチすることにより、設定が以下のようになり切り換わります。

「OFF」→「VIDEO」→「S-DVD」→
「EXT-V」



「OFF」 : AV入力に何も接続しない場合

「VIDEO」 : ビデオ機器を接続した場合（ソースを「AV」にしたときにビデオ機器の映像を見ることができます。）

「S-DVD」 : DVDプレーヤーを接続した場合（ソースを「S-DVD」にしたときにDVDプレーヤーの映像を見ることができます。）

「EXT-V」 : 映像再生能力のあるエクスターナルユニットを接続した場合（ソースを「EXT-V」にしたときに、エクスターナルユニットの映像を見ることができます。）

メモ • EXT-Vには、映像再生能力のあるエクスターナルユニットを接続したときだけ切り換わります。

バックカメラを設定する

市販のバックカメラを接続し、車のシフトレバーをR（リバース）に入れたとき、バックカメラの映像をモニターに映すことができます。

メモ • 左右反転出力機能のあるバックカメラをお使いになることをおすすめします。

1 基本設定メニューを表示する (→P108)

2 「B-CAM」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「▲」にタッチして、ONを選択する

「▼」にタッチするとOFFになります。

4 「◀」/「▶」にタッチして、極性を設定する

車のシフトレバーをR（リバース）に入れたときのバック信号の極性により、「GND」または「BATTERY」を設定します。

BATTERY : 極性が+（プラス）になる場合

GND : 極性が-（マイナス）になる場合

メモ • バックカメラの映像に正しく切り換わるように、必ずバック信号入力線を接続してください。
• 通常走行時、バックカメラ映像が表示されたり、シフトレバーをR（リバース）に入れても、バックカメラ映像が表示されない場合は、極性設定を確認してください。

モニターの自動開閉とセットバックを設定する

車のエンジンスイッチをACC（またはON）やOFFにしたとき、モニターが自動的に開閉するかどうかを設定します（オートフラップ）。

立ち上がったモニターは、自動的に後ろに下げることができます（セットバック）。

1 基本設定メニューを表示する （→P108）

2 「FLP ST」にタッチする

設定画面が表示されます。



3 「▲」/「▼」にタッチして、セットバックを設定する

タッチするごとに、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。


セットバックをOFFにするには、「OFF」を選択します。

4 「◀」/「▶」にタッチして、オートフラップを設定する

タッチするごとに、「AUTO」 ↔ 「MANUAL」が切り換わります。

「AUTO」 : 自動開閉

「MANUAL」 : 手動開閉

 ・シフトレバーなどにモニターが当たってしまう場合は、「MANUAL」に設定し、【OPEN/CLOSE】ボタンを押して、モニターを開閉します。

時計を設定する

時計表示の有無を設定したり、時計を合わせることができます。

1 基本設定メニューを表示する （→P108）

2 「CLOCK」にタッチする


設定画面が表示されます。



3 「◀」/「▶」/「▲」/「▼」にタッチして、時刻を設定する

「◀」/「▶」 : 時または分を選択する

「▲」/「▼」 : 時刻を調節する

 ・「JUST」にタッチすると、現在の表示が「10:18」の場合では「10:00」に、「10:36」の場合では「11:00」に調節されます。

4 「OFF」（または「ON」）にタッチして、表示の有無を設定する

タッチするごとに、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。

ONにすると、時計が表示されます。（ソースをOFFにしても表示されます。）
時計の表示を消したいときはOFFにします。

リアモニターの表示を設定する

リアモニター接続時に、リアモニターに、ソース画面を表示させるか、ナビゲーション画面を表示させるかを設定します。



・この設定は、パイオニア製ナビゲーションシステムを接続したときだけ操作できます。

1 基本設定メニューを表示する (→P108)

2 「R.DISP」にタッチする

タッチするごとに、「SOURCE」 ↔ 「NAVI」が切り換わります。



「SOURCE」 : リアモニターにフロントで選択中のソース画面を表示する

「NAVI」 : リアモニターにフロントと同じ映像を表示する



・「SOURCE」に設定すると、DVDビデオなどのソースを再生中に、フロントモニターを【V.ADJ】ボタンで一時的にナビ画面にしたときでも、リアモニターではソースの画面を表示することができます。

リアモニターの表示設定を「NAVI」にすると、リアモニターにナビゲーションの映像が表示される設定となりますが、ナビゲーションユニット(例:「AVIC-H990」)がCD(CD録音時を除く)またはDVDビデオのときは、リアモニターにはナビゲーションの映像は表示されません。また、リアモニターの表示の設定を「SOURCE」にしている場合でも、ナビゲーションユニット(例:「AVIC-H990」)がミュージックサーバー(CD録音時を含む)で且つフロント画面でナビゲーションの映像を表示している場合は、リアモニターにはナビゲーションの映像が表示されます。

具体的には次のような表示となります。

「NAVI」に設定されている場合

- ・ナビゲーションユニット(例:「AVIC-H990」)がCD(CD録音時を除く)のとき
→リアモニターにはブルーの画面が表示されます。
- ・ナビゲーションユニット(例:「AVIC-H990」)がDVDビデオのとき
→リアモニターにはDVDビデオの映像が表示されます。

「SOURCE」に設定されている場合

- ・ナビゲーションユニット(例:「AVIC-H990」)がミュージックサーバー(CD録音時を含む)でフロントがナビゲーションの映像のとき
→リアモニターにはナビゲーションの映像が表示されます。

DVDの機能設定

音声や字幕、視聴制限などの内蔵プレーヤーの設定を行います。

DVDセットアップメニュー を表示する

- 1 ソースをDVDにする (→P22)
- 2 タッチキーを表示 (→P28) して、**[■]** にタッチする
「MENU」が「SETUP」に切り換わります。
- 3 **[SETUP]** にタッチする
DVDセットアップメニューが表示されます。



4 「LANGUAGE」/「VISUAL」 にタッチする

それぞれに関する設定メニューが表示されます。

[LANGUAGE] : 文字や言語に関する言語設定メニュー

[VISUAL] : 映像に関する映像設定メニュー

- **[NEXT]** にタッチすると、2ページ目の設定項目が表示されます。「PREV」にタッチすると、前のページが表示されます。
- **[ESC]** にタッチするか **[BAND]** ボタン、**[BD/ESC]** ボタンを押すと、ソース画面に戻ります。
- **[BACK]** にタッチするか、**[BACK]** ボタンを押すと、前の画面に戻ります。
- 約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。

字幕言語を設定する

字幕として優先したい言語を設定します。

- 1 DVDセットアップメニューを表示する (→前項)
- 2 **[LANGUAGE]** にタッチする
言語設定メニューが表示されます。



- 3 **[SUB.T LANG]** にタッチする
字幕の言語リストが表示されます。



- **[NEXT]** にタッチすると、言語リストの2ページ目に切り換わります。言語リストの1ページ目に戻るには、「PREV」にタッチします。

4 言語を選んでタッチする

- 設定した言語がディスクに収録されていないときは、ディスクで指定されている言語が表示されます。

「OTHERS」を選択した場合

「OTHERS」を選択すると、言語コード入力画面が表示されます。『言語コード表』(→P136)をご覧ください。言語コードを入力してください。

1 数字キーにタッチして、言語コードを入力する



2 「ENTER」にタッチする

入力した言語コードの言語が設定されます。

メモ • 「C」(クリア)にタッチすると、入力した数字を消すことができます。

音声言語を設定する

音声として優先したい言語を設定します。

1 DVDセットアップメニューを表示する (→P112)

2 「LANGUAGE」にタッチする

言語設定メニューが表示されます。

3 「AUDIO LANG」にタッチする

音声の言語リストが表示されます。



• 「NEXT」にタッチすると、言語リストの2ページ目に切り換わります。言語リストの1ページ目に戻るには、「PREV」にタッチします。

4 言語を選んでタッチする



• 設定した言語がディスクに収録されていないときは、ディスクで指定されている音声で再生されます。
• 言語の選択で「OTHERS」を選ぶと、言語コードの入力による言語の選択ができます。操作については、字幕言語と同様になります。『字幕言語を設定する』の「「OTHERS」を選択した場合」(→前項)をご覧ください。

メニュー言語を設定する

メニュー表示として優先したい言語を設定します。

1 DVDセットアップメニューを表示する (→P112)

2 「LANGUAGE」にタッチする

言語設定メニューが表示されます。

3 「MENU LANG」にタッチする

メニューの言語リストが表示されます。



• 「NEXT」にタッチすると、言語リストの2ページ目に切り換わります。言語リストの1ページ目に戻るには、「PREV」にタッチします。

4 言語を選んでタッチする



- ・設定した言語がディスクに収録されていないときは、ディスクで指定されている音声で再生されます。
- ・言語の選択で「OTHERS」を選ぶと、言語コードの入力による言語の選択ができます。操作については、字幕言語と同様になります。『字幕言語を設定する』の「OTHERS」を選択した場合（→P113）をご覧ください。

アシスト字幕を設定する

アシスト字幕の表示のON/OFFを設定します。

アシスト字幕について

アシスト字幕とは、場面の状況を説明する字幕です。ただしアシスト字幕は、ディスクに収録されている場合のみ表示することができます。

1 DVDセットアップメニューを表示する（→P112）

2 「LANGUAGE」にタッチする

言語設定メニューが表示されます。

3 「NEXT」にタッチする

言語設定メニューの2ページ目が表示されます。



4 「A SUB TITL」にタッチする

タッチするごとに、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると、アシスト字幕を表示することができます。

アシスト字幕表示を消すには、「OFF」に設定します。

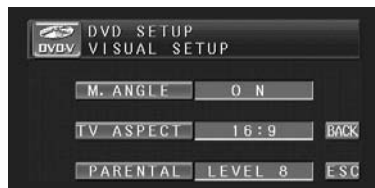
マルチアングルマークの表示/非表示を設定する

マルチアングルで収録されたディスクで、アングル切り換えができる場面を再生している間、マルチアングルマークを表示することができます。

1 DVDセットアップメニューを表示する（→P112）

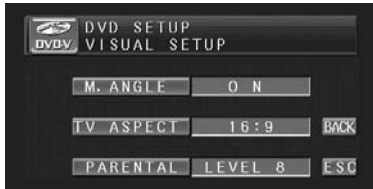
2 「VISUAL」にタッチする

映像設定メニューが表示されます。



3 「M.ANGLE」にタッチする

タッチすることにより、「ON」 ↔ 「OFF」が切り換わります。



ONにすると、マルチアングルマークを表示することができます。マルチアングルマークの表示を止めるには、「OFF」に設定します。

TVアスペクトを設定する

画面の表示比率を設定します。画面比率の違う別売のモニターなどを接続したときや、ディスクに収録された映像（画像）の比率に合わせて設定します。

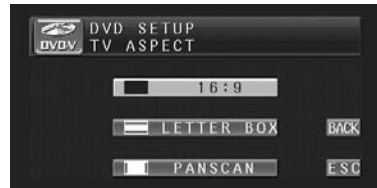
1 DVDセットアップメニューを表示する (→P112)

2 「VISUAL」にタッチする

映像設定メニューが表示されます。

3 「TV ASPECT」にタッチする

設定できる項目が表示されます。



「16:9」 : ワイドモニター使用時の設定

「LETTER BOX」 : ノーマルモニター(4:3)使用時の設定
16:9で収録された映像(画像)は、レターボックス(上下に黒い帯のある画面)になります。

「PANSCAN」 : ノーマルモニター(4:3)使用時の設定
16:9で収録された映像(画像)は、パンスキャン(左右の切れた画面)になります。

4 TVアスペクトを選んでタッチする




- ・ノーマルモニターをお使いのときは、「LETTER BOX」または「PANSCAN」のどちらかに設定してください。「16:9」に設定すると、映像が不自然になることがあります。
- ・パンスキャン指定されていないディスクを再生したときは、「パンスキャン」に設定しても「レターボックス」での再生となります。ディスクのパッケージなどで「16:9 LB」マーク(→P128)を確認してください。
- ・ディスクによっては、テレビアスペクトの変更ができないものもあります。詳しくは、ディスクの説明書をご覧ください。

視聴制限を設定する (パレンタルロック)

ディスクによっては、成人向けの内容や暴力シーンなど、子供に見せたくない場面の視聴を制限できるものがあります。視聴制限は、レベルによって段階的に設定することができます。

レベル視聴制限の内容について

LEVEL8	: すべてのディスクを再生します
LEVEL7~2	: 成人向けのディスクの再生を制限します(子供向けや一般向けのディスクを再生します)
LEVEL1	: 子供向けディスクのみ再生します

-  ・初めて視聴制限を設定するときは、まず最初に暗証番号を設定します。視聴制限は、暗証番号がないと設定できません。
- ・視聴制限レベルは、ディスクに記録されています。ディスクのパッケージなどでご確認ください。なお、視聴制限レベルが記録されていないディスクでは、レベル設定しても視聴制限はかけられません。
- ・ディスクによっては、視聴制限された場面だけ飛ばして再生するものもあります。詳しくは、ディスクの説明書をご覧ください。

■暗証番号とレベルの設定

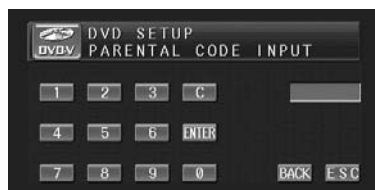
1 DVDセットアップメニューを表示する(→P112)

2 「VISUAL」にタッチする


映像設定メニューが表示されます。

3 「PARENTAL」にタッチする

暗証番号入力画面が表示されます。



4 数字キーにタッチして、4桁の暗証番号を入力する

-  ・登録した暗証番号は、忘れないようにメモしておくことをお勧めします。

5 「ENTER」にタッチする

暗証番号が設定され、レベル設定画面が表示されます。



6 数字キーにタッチして、レベルを設定する

視聴制限レベルが設定されます。

■レベルを変更する

1 DVDセットアップメニューを表示する(→P112)

2 「VISUAL」にタッチする

映像設定メニューが表示されます。


3 「PARENTAL」にタッチする

暗証番号入力画面が表示されます。

4 暗証番号を入力して、「ENTER」にタッチする

レベル設定画面が表示されます。



- 間違った暗証番号を入力すると、 (禁止マーク) が表示されます。「C」(クリア) にタッチしてから、正しい暗証番号を入力し直してください。
- 暗証番号を忘れてしまったときは、『暗証番号を忘れたときは』(下記) をご覧ください。

5 数字キーにタッチして、レベルを変更する

変更した視聴制限レベルが設定されます。

視聴制限されたディスクを再生するとき

視聴制限されたディスクを再生しようとしたとき、暗証番号の入力画面が表示されることがあります。この場合、暗証番号を入力しないと再生が始まりません。

暗証番号を忘れたときは

『暗証番号とレベルの設定』の手順4で、「C」(クリア) に10回タッチします。登録した暗証番号が解除されるので、新しい暗証番号を入力します。

その他の機能

瞬時に音量を小さくする (ATT)

1 【ATT】 ボタンを押す

アッテネーター機能が働き、音量が小さくなります。

情報プレートに、“ATT” が点滅します。



- もう一度【ATT】ボタンを押すと、アッテネーター機能が解除され、元の音量に戻ります。

画面背景を設定する

ソースON時に、モニターの表示をエンタテインメント表示に切り換えることができます。車内で、いろいろな表示を楽しむことができます。

エンタテインメント表示について

エンタテインメント表示は、DVD再生時や音楽ディスク再生時に、モニター表示をいろいろに切り換える機能です。

1 【ENT】ボタン、 ボタンを押す

ボタンを押すごとに、エンタテインメントの表示は以下のように切り換わります。

映像系ソースの場合：

→ ソースの映像 → ブルーバック →
動画 → AV背景


音楽系ソースの場合：

→ ブルーバック → 動画 → AV背景




- 『AV入力を設定する』(→P109)で「VIDEO」が選択されていないときは、AV背景(ビデオの映像)には切り換わりません。
- タッチキーやリスト表示中は、動画は表示されません。
- ナビゲーションユニットのソース(DVDやミュージックサーバーなど)を選んでいる場合、エンタテインメント表示に切り換えることはできません。

よく使う機能を直接操作する

リモコンのDFボタン () を押しと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。内蔵プレーヤー、ソースDVD (別売)、マルチCD (別売) でポーズ機能、ラジオでBSM機能、テレビでBSSM機能を操作することができます。


リモコンの操作モードがAVHモードの場合

リモコンの操作モードがAVHモードの場合は、DFボタン () の機能を使うことができます。操作モードがDVDモードの場合は、  ボタンの機能になります。

■内蔵プレーヤー、S-DVD、マルチCDのとき

1 DFボタン () を押して、再生を一時停止する



ボタンを押すごとに、ON↔OFFが切り換わります。

 ・内蔵プレーヤーのポーズ機能については (→P33, P41, P47, P54)、マルチCDのポーズ機能については (→P69)、S-DVDのポーズ機能については (→P77)。

■ラジオのとき

1 DFボタン () を長く (約2秒以上) 押す



BSMが始まります。

 ・BSM中にDFボタン () を押すことで、BSMを途中解除することもできます。
・ラジオのBSMについては (→P62)。

■テレビのとき

1 DFボタン () を長く (約2秒以上) 押す

BSSMが始まります。

 ・BSSM中にDFボタン () を押すことで、BSSMを途中解除することもできます。
・テレビのBSSMについては (→P67)。

外部機器の名称を入力する

接続した外部機器の名称を入力することができます。

1 ソースをAUXに切り換える (→P22)

2 [A.MENU] ボタンを押す

メインメニューが表示されます。

3 [FUNC] にタッチする

FUNCTIONメニューが表示されます。

4 [NAME EDIT] にタッチする

タイトル入力画面が表示されます。

5 外部機器の名称を入力し、記憶させる

外部機器の名称は、10文字まで入力することができます。

操作方法は、マルチCDと同様です。詳しくはマルチCDの『タイトルを入力する (T.EDIT)』(→P72)をご覧ください。

iPodを使うとき

本機に、エクスターナルユニットとしてiPodを接続した場合は、以下のよう
な操作ができます。



- iPodの接続には、別売のiPodアダプター (CD-IB 10) が必要です。

操作

ソースをiPodにする	ソースメニューで「EXT」に タッチする(→P22)
カテゴリを選ぶ	「BAND」にタッチする
リストを選ぶ	「▲」または「▼」にタッチする
前の曲または 次の曲を再生する*1	「◀」または「▶」にタッチ する
曲の早送りまたは 早戻しをする*2	「◀」または「▶」にタッチ し続ける
ファンクション モードを選ぶ	【A.MENU】ボタンを押し て、【FUNC】にタッチする
曲を一時停止する	ファンクション1モード (FUNC1)で「▲」/「▼」にタッ チする
リピート再生範囲を 選ぶ	ファンクション2モード (FUNC2)で「▲」/「▼」にタッ チする
ランダム再生の 設定を選ぶ	ファンクション2モード (FUNC2)で「▲」/「▼」に2秒 以上タッチする
表示を切り換える	ファンクション3モード (FUNC3)で「▲」/「▼」にタッ チする
タイトルを スクロールする	ファンクション3モード (FUNC3)で「▲」/「▼」に2秒 以上タッチする
AUTOとMANUALを 切り換える	【AUTO/MNL】(オート/ マニュアルモード)にタッチ する

*1 オート/マニュアルモードで「AUTO」を選ん
でいるときだけ操作できます。

*2 オート/マニュアルモードで「MANUAL」を選
んでいるときだけ操作できます。

ワイド画面の拡大方法を 切り換える

テレビ、ビデオCDおよびDVDなどの
映像は、通常の映像をワイド映像に拡
大する方法を選択することができます。



- 通常映像は表示比率4：3、ワイド映像は
表示比率16：9です。
- ワイドモードの設定内容は、映像ごとに
記憶されます。
- ナavigーションの映像は、ワイドモード
の切り換えはできません。

1 【WIDE】 ボタンを押す

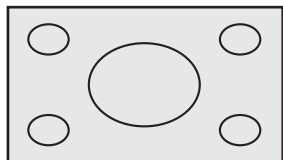
ボタンを押すごとに以下のように切り
換わります。

→フル(FULL)→ジャスト(JUST)→
シネマ(CINEMA)→ズーム(ZOOM)→
ノーマル(NORMAL) _____



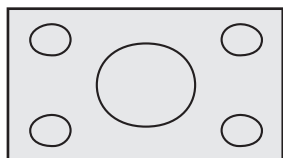
- ナavigーションユニットを組み合わせ
ている場合、【WIDE】 ボタンを長く(約2
秒)押すごとに、ワイドモードが切り換
わります。
- 通常のテレビ放送の番組でズーム、ノーマ
ル以外の、映像の表示比率が異なるモード
を選ぶと、本来の映像と見えかたに差がで
ます。
- シネマ、ズームで映像を見るときは、画
質が粗くなります。
- 営利目的、または公衆に視聴させること
を目的として、本機のワイドモード切り
換え機能を利用すると(フル、ズームなど
で画面の圧縮や引き伸ばしなどを行う
と)、著作権法上で保護されている著作
者の権利を侵害する恐れがありますので、
ご注意ください。
- ワイド設定は映像ソース(テレビ、ビデオ、
内蔵プレーヤーなど)でのみ可能です。

ワイドモードの種類



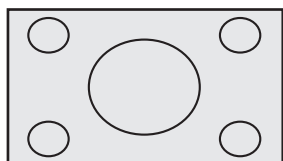
フル (FULL)

4：3の映像の左右だけを拡大します。映像が欠けることなくワイド画面で楽しめます。



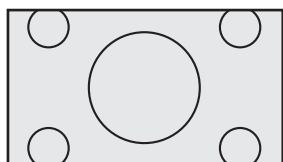
ジャスト (JUST)

画面の両端に近づくほど、横に伸びる比率が高くなります。画面の中央付近は通常の映像とほとんど同じ大きさで表示されるため、ワイド画面を違和感なく楽しめます。



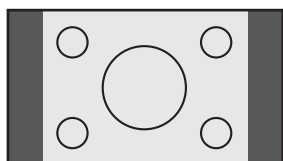
シネマ (CINEMA)

フルとズームの中間の比率で、上下を拡大します。字幕が映像の外の黒い部分に表示されるものに適しています。



ズーム (ZOOM)

4：3の映像を上下、左右とも同じ比率で拡大します。映画など横長の映像のうち、字幕が映像の上にかぶって表示されるものに適しています。



ノーマル (NORMAL)

4：3の映像をそのまま表示します。テレビの通常の映像と同じです。

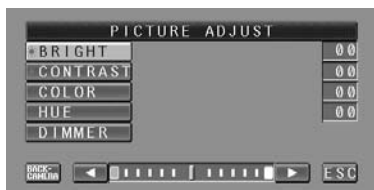
画質の調整

明るさやコントラストなどを調節することができます。

- メモ • DVDやテレビなどで別々に設定内容を記憶します。
- 明るさ (BRIGHT) とコントラスト (CONTRAST) は、外光センサーで周囲の明るさを感じし、明るいとき (※) と、暗いとき (☾) で調整内容を別々に記憶します。
- 走行中は、画質を調整できません。

1 [V.ADJ]ボタンを長く押す(約2秒)

画質調整メニューが表示されます。



2 調整したい項目にタッチする

[BRIGHT] : 明るさ

[CONTRAST] : コントラスト

[COLOR] : 色の濃さ

[HUE] : 色合い (赤・緑)

[DIMMER] : 明るさの自動調整

- メモ • 「BACK-CAMERA」は、バックカメラの設定がされているときに、選択できます。(→P109)
- 「BACK-CAMERA」にタッチすると、バックカメラの画質調整メニューに切り換わります。ソース画面の画質調整メニューに戻るには、「SOURCE」にタッチします。
- 接続したバックカメラによっては、画質調整ができないこともあります。

3 「◀」/「▶」にタッチして、設定を調整する

BRIGHT、CONTRAST、COLOR、HUEは、+24~-24の間で調節できます。

- メモ • 約30秒間操作をしなかった場合、自動的にソース画面に戻ります。
- 音楽系ソースやナビゲーションの地図の場合、COLOR、HUEは調整できません。

モニターのみぶしさを抑える

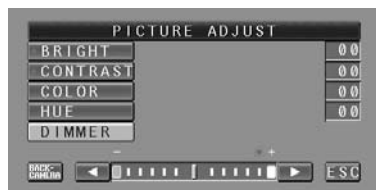
夜間、周囲が暗くなってくると、モニターが、まぶしく感じられることがあります。本機は、周囲の明るさに応じて、モニターの明るさを自動的に調整します。その自動的に調整される明るさを、お好みに合わせて、設定しておくことができます。

1 [V.ADJ]ボタンを長く押す(約2秒)

画質調整メニューが表示されます。

2 「DIMMER」にタッチする

外光センサーが感知した周囲の明るさ(外光レベル)を以下のように表示します。



赤い太陽 (※) : 明るいとき(昼間)

白い太陽 (※) : 中間の明るさ(夕方)

青い月 (☾) : 暗いとき(夜間)

3 「◀」/「▶」にタッチして、明るさを調整する

- メモ • 現在の外光レベルに設定されている画面の明るさが調整されます。
- 暗い、中間、明るい、のそれぞれの外光レベルで調整でき、別々に記憶されます。

リアモニターを使うとき

リアモニターを接続すると、選んでいるソースに関わらず、後部座席でDVDやビデオCDの映像を楽しむことができます。

リアモニターでDVDやビデオCDを見る

操作方法は、リアモニターの設定時と同様です。詳しくは『基本設定』「リアモニターの表示を設定する」(→P111)をご覧ください。

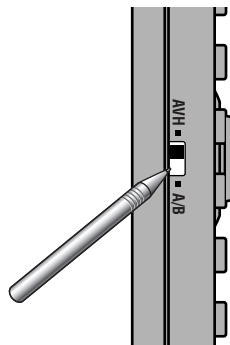
リモコンコードの設定

付属のリモコンには、コードAVH、コードAおよびコードBの3種類のリモコンコードがあります。本機を操作するときは、AVHに設定してください。

コードAVH	： 本機を操作する場合
コードA	： ソースDVDが接続されているときに、ソースDVDを操作する場合
コードB	： ナビゲーションユニットを接続しているときに、ナビゲーションユニットを操作する場合

通常はAVHに設定してください。

1 リモコンの左側面にある、リモコンコード切り換えスイッチを、ペン先などで切り換える



2 コードA/Bに設定したときは、リモコンの数字ボタン⑦と⑩を同時に押す

数字ボタン⑦と⑩を同時に押すごとに、コードAとコードBが順に切り換わります。(初期設定はコードAです。)



- リモコンの操作モード切り換えスイッチをDVDモードに切り換える(→P19)と、パイオニア製DVDプレーヤーを操作することもできます。
- S-DVD(例:「SDV-P7」)を接続して操作する場合は、コードAに切り換えてください。
- HDDナビゲーションオートサーバー(例:「AVIC-H990」)を操作する場合は、コードBに切り換えてください。

本機のリセット

本機を初期状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

エンジンスイッチOFFでリセットボタンを押すと、DVDプレーヤーの設定内容を保持したまま本機のマイコンを初期化することができます。

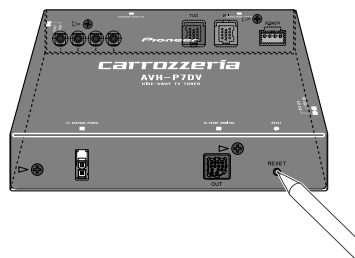
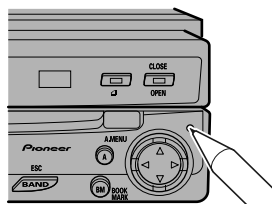
次のようなときに、リセットボタンを押してください。

- 本機が正しく動作しないとき。
- モニターが正しく表示されないとき。

リセットボタンを押すと、本機の記憶(時計やテレビのプリセットなど)が消去されます。もう一度、セットし直してください。

1 ペン先などでリセットボタンを押す

本機のマイコンが初期状態に戻ります。




2 エンジンスイッチをONにする




エンジンスイッチがONやACCの場合、一度OFFにしてから、再度ONにしてください。



- パイオニア製ナビゲーションシステムと組み合わせた場合、本機から先にリセットしてください。
- 接続が終わった後や、すべてのメモリー内容を消去し、本機を初期状態（ご購入直後の状態）に戻したいときなどは、エンジンスイッチをONまたはACCの状態のリセットボタンを押します。（この場合、リセットボタンを押すと、約5秒後に自動的にモニターの立ち上げ／収納動作をします。動作に支障がないことを確かめてから、リセットボタンを押してください。）

再生できるディスクの種類

- 下記マークはディスクのタイトル面、パッケージ、またはジャケットに付いています。
- 本機はNTSC（日本のテレビ方式）に適合していますので、ディスクやパッケージに「NTSC」と表示されているディスクをご使用ください。
-  はDVDフォーマットロゴライセンシング（株）の商標です。

再生できるディスクの種類とマーク	大きさ/再生面	最大再生時間
DVDビデオ 	DVDビデオ	(MPEG 2方式)
	12cm/片面 1層	133分
	2層	242分
	12cm/両面 1層	266分
	2層	484分
	DVDビデオ	(MPEG 2方式)
8cm/片面 1層	41分	
2層	75分	
8cm/両面 1層	82分	
2層	150分	
ビデオCD 	ビデオCD	(MPEG 1方式)
	12cm/片面	74分
CD 	ビデオCDシングル	(MPEG 1方式)
	8cm/片面	20分
CD 	CD	74分
	12cm/片面	
CD 	CDシングル	20分
	8cm/片面	

ディスクの操作について

DVDによっては、ディスク制作者の意図により、特定の操作を禁止しているものがあります。また、メニュー操作や、再生中に対話式の操作が可能なディスクでは、タイトル/チャプターの構成上、リピートなど一部の操作ができないことがあります。

このような場合、本機では画面に「禁止マーク」が表示されます。

ディスクによっては、表示されないこともあります。

禁止マーク








ご注意

- ・ DVDビデオディスクによっては、一部の機能がご使用になれない場合があります。
- ・ DVDビデオディスクによっては、再生できない場合があります。
- ・ DVDオーディオディスクは再生できません。
- ・ DVDビデオディスクでも、リージョン番号 (→P128) が異なるディスクは再生できません。
- ・ DVD-R/DVD-RWディスクは、ビデオフォーマット (ビデオモード) で記録されたものに限り、再生することができます。ビデオレコーディングフォーマット (VRモード) で記録されたDVD-RWディスクは再生できません。
- ・ ビデオフォーマット (ビデオモード) で記録されたDVD-R/DVD-RWディスクでも、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- ・ 本機は音楽CD規格に準拠して設計されています。コピーコントロールCDなどのCD規格外ディスクの動作保証および性能保証は致しかねます。
- ・ 音楽用CDレコーダーまたはパソコンで記録したCD-R/CD-RWディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- ・ パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。(詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。)
- ・ 直射日光や高温等、車内での保管状況により、CD-R/CD-RWディスクは再生できなくなる場合があります。
- ・ CD-R/CD-RWディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。(音楽データ (CD-DA) 再生時)
- ・ 本機はCD-R/CD-RWディスクのトラックスキップ機能に対応しています。スキップ指定された曲を飛ばして再生します。(音楽データ (CD-DA) 再生時)
- ・ ファイナライズされていないCD-R/RW、DVD-R/RWディスクには対応しておりません。
- ・ CD-RWディスクは、ディスクを挿入してから再生が始まるまで、通常のCDやCD-Rディスクより時間がかかります。
- ・ CD-R/CD-RWディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

■DVDに表示されているマークの意味

DVDディスクのタイトル面やパッケージには、以下のようなマークが表示されています。それぞれのマークは、そのディスクに記録されている映像または音声のタイプ、使える機能を表しています。

マーク	意味
	音声の数を表します。
	字幕の数を表します。
	アングルの数を表します。
	画面サイズ（アスペクト比：横と縦の比率）の種類を表します。
	再生可能な地域番号（リージョン番号）を表します。本機のリージョン番号は、「2」です。リージョン番号が「2」や「ALL」など「2」を含んでいるディスクを再生することができます。

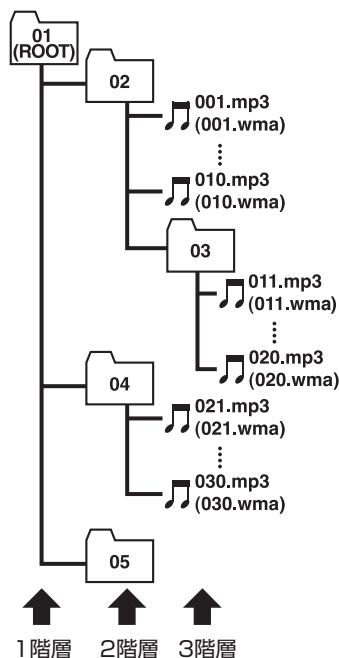
著作権について

本機は、マクロビジョンコーポレーションおよび他の権利保有者が所有する合衆国特許および知的所有権によって保護された、著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許可が必要であり、同社の許可がない限りは一般家庭及びそれに類似する限定した場所での視聴に制限されています。解析や改造は禁止されていますので行わないでください。

WMA/MP3について

フォルダーとWMAおよびMP3ファイルについて

- WMAおよびMP3ファイルを収録したCD-R/CD-RW/CD-ROMのイメージは下図のようになります。



- 本機は、WMAおよびMP3ファイルが記録されたCD-R/CD-RW/CD-ROMの再生に対応しています。ディスクは、ISO9660のレベル1、レベル2および拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(→P138)
- 本機はマルチセッション (→P138) 方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライト(→P137)には対応していません。

- m3u (→P138) のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、およびMP3 PROフォーマットには対応していません。
- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (.mp3, .wma) を含めて64文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数は64文字までです。
- 拡張フォーマット (Romeo) (→P138) に準拠して記録されたファイルの場合、先頭から64文字までの表示に対応しています。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがないCDを、WMA/MP3ファイルとしてCD-R/CD-RW/CD-ROMに記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。



- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CDディスクにWMAおよびMP3ファイルと、音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMAおよびMP3ファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えることができます。WMAおよびMP3ファイルと音楽データ (CD-DA) を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMAおよびMP3ファイルを含まないフォルダーは認識しません。(フォルダー番号の表示をせずスキップします。)
- 8階層までのWMAおよびMP3ファイルの再生に対応していますが、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を2つ以下にすることをおすすめします。
- ディスクに含まれるフォルダーの合計が253個まで再生可能です。

WMAとは？

・「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。



- ・WMAファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- ・WMAファイルをエンコードしたWindows Media Playerのバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。

再生できるWMAファイルについて



- ・WMAファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.wma)を付けてください。
- ・本機は、拡張子(.wma)が付いているファイルをWMAファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、**WMAファイル以外には拡張子(.wma)を付けしないでください。**
- ・本機では、Windows Media Player Ver.7/7.1/8を使用してエンコードしたWMAファイルを再生することができます。

- ・再生可能なWMAファイルのサンプリング周波数は32/44.1/48 kHzです。
- ・一般的にWMAファイルは、ビットレート(→P137)が高いほど音質は良くなります。本機は、CBR(固定ビットレート)48 kbps~320 kbpsのWMAファイルの再生に対応しています。
- ・デジタル著作権保護(DRM)で保護されたファイルを再生したときは、“TRK SKIPPED”と表示され、そのファイルの再生がスキップされます。
- ・ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護(DRM)で保護されている場合は、“PROTECT”と表示され、そのディスクの再生はできません。
- ・Windows Media Audio 9 Professional(5.1ch)、Windows Media Audio 9 Loss less、およびWindows Media Audio 9 Voiceには対応していません。

MP3とは？

・MPEG Audio Layer 3の略称で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。(→P139)

再生できるMP3ファイルについて



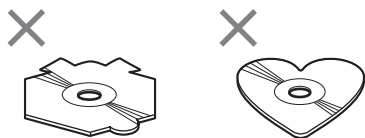
- ・MP3ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子(.mp3)を付けてください。
- ・本機は、拡張子(.mp3)が付いているファイルをMP3ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3ファイル以外には拡張子(.mp3)を付けしないでください。

- ・ID3 Tag(→P138)のVer 1.0、Ver 1.1、Ver 2.2、Ver 2.3およびVer 2.4のアルバム名(Album)、曲名(T.Title)、アーティスト名(Artist)の表示に対応しています。なお、ID3 TagのVer 1.XとVer 2.Xが混在している場合は、Ver 2.Xが優先されます。
- ・32/44.1/48 kHzのMP3ファイルを再生している場合のみエンファシスに対応しています。(なお、再生可能なサンプリング周波数は16/22.05/24/32/44.1/48 kHzです。)
- ・一般的にMP3ファイルは、ビットレート(→P137)が高いほど音質は良くなります。本機は、8 kbps~320 kbpsのMP3ファイルの再生に対応していますが、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128 kbps以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

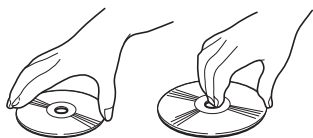
使用上の注意

取り扱い上のご注意

- ひび、キズ、そりのあるディスクは使用しないでください。
- 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



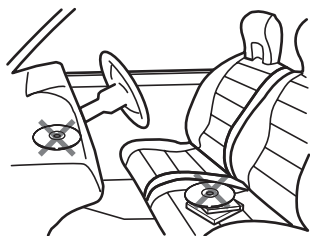
- ディスクは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



- ディスクにキズを付けないでください。
- ディスクにシールなどを貼り付けしないでください。

保管上のご注意

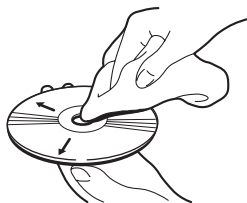
- 直射日光の当たるところや高温になるところには、ディスクを保管しないでください。



- ディスクがそらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- ディスクが汚れたときは、柔らかいきれいな布でディスクの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

ディスク再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後に再生を始めると、本機内部の光学系レンズやディスクに露が生じて、正常な再生ができないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。ディスクに付いた露は柔らかい布でふいてください。



- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

モニターの正しい使いかた

取り扱い上のご注意

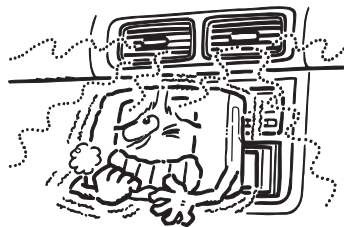
- 温度が-10度以下または+50度以上になるところでは、お使いにならないください。
- 直射日光の当たる状態で長時間使用すると、高温になり、モニターの液晶画面が故障するおそれがあります。できる限りモニターに直射日光が当たらないようにしてください。また、本機を使用していないときは、本体にモニターを収納してください。



- モニターの液晶画面は、車内での視認性向上のためにむき出しになっています。故障するおそれがありますので、液晶画面を強く押さないでください。
- モニターを立ち上げたときに、モニターの上に物を置いたり、モニターの角度調節や立ち上げ、収納を手動で行ったりしないでください。モニターに強い力が加わると故障することがあります。



- モニターを立ち上げたときに、モニターがエアコンの吹き出し口の近くに来る場合は、エアコンの風がモニターに当たらないようにしてください。ヒーターの熱で液晶が壊れたり、クーラーの冷気でモニター内部に水滴がついて故障するおそれがあります。



- モニターの立ち上げや収納のときに、物をはさまないように注意してください。物がはさまると、モニターが動かなくなることがあります。モニターが動かなくなった場合は、はさまった物を取り除いてもう一度【OPEN/CLOSE】ボタンを押してください。



- エアバックなどの安全装置装着車の場合は、安全装置の作動に支障のないようにご注意ください。

液晶画面について

- ・モニター画面の中に小さな黒い点や明るく光る点（輝点）がでることがあります。これは液晶モニター特有の現象で故障ではありません。
- ・寒いところでお使いになるときは、電源を入れた後、しばらく画面が暗いことがあります。時間がたつと正常な明るさに戻ります。
- ・モニター画面に直射日光が当たると、光が反射し画面が見づらくなりますので、直射日光をさえぎってください。

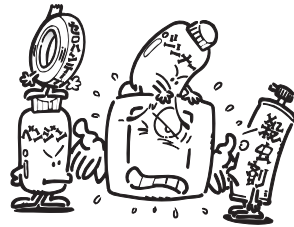
小型蛍光管について

液晶画面を光らせるために、モニター内部に小型蛍光管を使用しています。この蛍光管は消耗品で寿命があります。

- ・蛍光管の寿命は約1万時間ですが、寒いところでお使いになりますと、寿命が短くなることがあります。
- ・蛍光管が寿命になると、画面が暗くなったり、映像が映らなくなったりします。このときはお買い上げの販売店に、蛍光管の交換を依頼してください。

お手入れについて

- ・画面に付いたホコリやモニターの汚れを清掃するときは、電源を切ってから、柔らかい布でから拭きしてください。
- ・画面をふくときは、ツメで引っかかないように注意してください。画面にキズが付くと映像が見づらくなります。
- ・化学ぞうきんをお使いの場合は、化学ぞうきんに添付の注意事項をよくお読みください。
- ・ぬれたぞうきんは使用しないでください。また、ベンジンやアルコールなどの揮発性の薬品は使用しないでください。



地上デジタルテレビジョン放送について

<地上アナログテレビジョン放送から地上デジタルテレビジョン放送への移行スケジュールについて>

地上デジタルテレビジョン放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。地上アナログテレビジョン放送は2011年7月に終了することが、国の方針として決定されています。

<地上デジタルテレビジョン放送開始に伴う放送チャンネル変更について>

地上デジタルテレビジョン放送開始に伴い、一部の地域では地上アナログテレビジョン放送のチャンネルが順次変更されております。

当変更の詳細につきましては、総務省関連サイト等（下記）、各地域受信対策センターからの広報等をご参照願います。

<総務省関連サイト>

地上デジタルテレビジョン放送	http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/whatsnew/digital-broad/index.html
関東総合通信局（放送部放送課）	http://www.kanto-bt.go.jp/
東海総合通信局（放送部放送課）	http://www.tokai-bt.soumu.go.jp/
近畿総合通信局（放送部放送課）	http://www.ktab.go.jp/
報道資料 アナログ周波数変更の受信対策の開始について	http://www.soumu.go.jp/s-news/2003/030130_1.html
ARIB（電波産業会）サイト	http://www.arib.or.jp/
JEITA（電子情報技術産業協会）サイト	http://home.jeita.or.jp/dha/tdb/tdb_top.htm

<地上アナログテレビジョン放送のチャンネル変更についてのお問い合わせ先>

対象となる各地域の受信対策センターにご確認ください（→P135）。

<地上アナログテレビジョン放送のチャンネル変更に伴い、発生が予想される現象>

地上アナログテレビジョン放送チャンネルの変更は順次行われるため、プリセットされたチャンネルが受信できなくなる場合があります。この場合は、もう一度、お手持ちの取扱説明書に従い、プリセットの再設定をお願いいたします。

放送局名を表示する機能がある機種においては、ディスクまたは本体に収録されている放送局名の情報をもとに表示するため、放送局名が正しく表示されなくなる場合があります。また、音声操作により選局する機能がある機種においても、ディスクまたは本体に収録されている放送局名の情報をもとに音声認識するため、放送局名を発話して選局しても正しく受信できない場合があります。

地上デジタルテレビジョン放送が開始されても、本機で受信することはできません。

アナログテレビチャンネル変更対策 各地域受信対策センター (2004年12月現在)

受付時間：平日9：00～21：00/土日祝：9：00～18：00

名称	フリーダイヤル	携帯電話/PHS/公衆電話
北海道地域受信対策センター	TEL：0120-567-621 FAX：0120-567-623	011-756-2002
東北地域受信対策センター	TEL：0120-662-548 FAX：0120-661-875	022-217-1153
茨城地域受信対策センター	TEL：0120-130-890 FAX：0120-038-268	029-835-8267
栃木地域受信対策センター	TEL：0120-401-293 FAX：0120-401-014	044-829-2713
群馬地域受信対策センター	TEL：0120-357-488 FAX：0120-357-886	027-210-9381
埼玉地域受信対策センター	TEL：0120-401-035 FAX：0120-401-014	044-829-2713
千葉地域受信対策センター	TEL：0120-401-398 FAX：0120-401-014	044-829-2713
東京・神奈川地域受信対策センター	TEL：0120-401-350 FAX：0120-401-014	044-829-2713
信越地域受信対策センター	TEL：0120-640-262 FAX：0120-670-265	026-238-2150
北陸地域受信対策センター	TEL：0120-076-774 FAX：0120-076-097	076-257-2400
岐阜地域受信対策センター	TEL：0120-124-820 FAX：0120-124-821	058-254-8601
静岡地域受信対策センター	TEL：0120-575-054 FAX：0120-325-054	03-3568-6574
愛知・三重地域受信対策センター	TEL：0120-124-826 FAX：0120-124-851	052-968-7370
滋賀・京都地域受信対策センター	TEL：0120-252-639 FAX：0120-252-682	075-672-0213
大阪・奈良地域受信対策センター	TEL：0120-623-522 FAX：0120-807-404	06-6966-7182
兵庫地域受信対策センター	TEL：0120-540-700 FAX：0120-807-804	06-6966-7180
和歌山地域受信対策センター	TEL：0120-815-108 FAX：0120-548-070	06-6966-7184
鳥取・島根地域受信対策センター	TEL：0120-312-665 FAX：0120-312-062	0852-60-9157
岡山地域受信対策センター	TEL：0120-302-522 FAX：0120-302-584	086-270-3176
広島地域受信対策センター	TEL：0120-017-183 FAX：0120-017-746	082-222-0086
山口地域受信対策センター	TEL：0120-880-496 FAX：0120-880-531	083-928-2286
徳島・香川地域受信対策センター	TEL：0120-203-242 FAX：0120-203-037	087-851-7921
愛媛地域受信対策センター	TEL：0120-171-546 FAX：0120-191-546	089-986-8300
福岡地域受信対策センター	TEL：0120-200-164 FAX：0120-200-914	092-725-2270
佐賀地域受信対策センター	TEL：0120-770-349 FAX：0120-770-356	0952-23-5750
長崎地域受信対策センター	TEL：0120-600-617 FAX：0120-600-929	095-823-5810
熊本地域受信対策センター	TEL：0120-400-198 FAX：0120-400-361	096-311-2640
大分地域受信対策センター	TEL：0120-660-934 FAX：0120-660-938	097-532-2244
宮崎・鹿児島地域受信対策センター	TEL：0120-550-142 FAX：0120-550-219	099-206-8634

言語コード表

言語名 (言語コード)	入カコード
日本語 (ja)	1001
英語 (en)	0514
フランス語 (fr)	0618
スペイン語 (es)	0519
ドイツ語 (de)	0405
イタリア語 (it)	0920
中国語 (zh)	2608
オランダ語 (nl)	1412
ポルトガル語 (pt)	1620
スウェーデン語 (sv)	1922
ロシア語 (ru)	1821
韓国語 (ko)	1115
ギリシャ語 (el)	0512
アファル語 (aa)	0101
アブバジア語 (ab)	0102
アフリカーンス語 (af)	0106
アムハラ語 (am)	0113
アラビア語 (ar)	0118
アッサム語 (as)	0119
アイマラ語 (ay)	0125
アゼルバイジャン語 (az)	0126
バシキール語 (ba)	0201
ベラルーシ語 (be)	0205
ブルガリア語 (bg)	0207
ビハーリー語 (bh)	0208
ビスラマ語 (bi)	0209
ベンガル語 (bn)	0214
チベット語 (bo)	0215
ブルトン語 (br)	0218
カタロニア語 (ca)	0301
コルシカ語 (co)	0315
チェコ語 (cs)	0319
ウェールズ語 (cy)	0325
デンマーク語 (da)	0401
ブータン語 (dz)	0426
エスペラント語 (eo)	0515
エストニア語 (et)	0520
バスク語 (eu)	0521
ペルシア語 (fa)	0601
フィンランド語 (fi)	0609
フィジー語 (fi)	0610
フェロー語 (fo)	0615
フリジア語 (fy)	0625
アイルランド語 (ga)	0701
スコットランドゲール語 (gd)	0704
ガルシア語 (gl)	0712
グアラニ語 (gn)	0714

言語名 (言語コード)	入カコード
グジャラート語 (gu)	0721
ハウサ語 (ha)	0801
ヒンディー語 (hi)	0809
クロアチア語 (hr)	0818
ハンガリー語 (hu)	0821
アルメニア語 (hy)	0825
国際語 (ia)	0901
Interlingue (ie)	0905
イヌピアック語 (ik)	0911
インドネシア語 (in)	0914
アイスランド語 (is)	0919
ヘブライ語 (iw)	0923
イディッシュ語 (ji)	1009
ジャワ語 (jw)	1023
グルジア語 (ka)	1101
カザフ語 (kk)	1111
グリーンランド語 (kl)	1112
カンボジア語 (km)	1113
カンナダ語 (kn)	1114
カシミール語 (ks)	1119
クルド語 (ku)	1121
キルギス語 (ky)	1125
ラテン語 (la)	1201
リンガラ語 (ln)	1214
ラオス語 (lo)	1215
リトアニア語 (lt)	1220
ラトビア語 (lv)	1222
マダガスカル語 (mg)	1307
マオリ語 (mi)	1309
マケドニア語 (mk)	1311
マラヤーラム語 (ml)	1312
モンゴル語 (mn)	1314
モルダビア語 (mo)	1315
マラータ語 (mr)	1318
マライ語 (ms)	1319
マルタ語 (mt)	1320
ビルマ語 (my)	1325
ナウル語 (na)	1401
ネパール語 (ne)	1405
ノルウェー語 (no)	1415
プロバンス語 (oc)	1503
オロモ語 (om)	1513
オリヤー語 (or)	1518
パンジャブ語 (pa)	1601
ポーランド語 (pl)	1612
アフガニスタン語 (ps)	1619
ケチュア語 (qu)	1721

言語名 (言語コード)	入カコード
レートロマン語 (rm)	1813
キルンディ語 (rn)	1814
ローマ語 (ro)	1815
キニヤルワンダ語 (rw)	1823
サンスクリット語 (sa)	1901
シンド語 (sd)	1904
サンド語 (sg)	1907
セルボクロアチア語 (sh)	1908
セイロン語 (si)	1909
スロバック語 (sk)	1911
スロベニア語 (sl)	1912
サモア語 (sm)	1913
ショナ語 (sn)	1914
ソマリ語 (so)	1915
アルバニア語 (sq)	1917
セルビア語 (sr)	1918
シスワティ語 (ss)	1919
セストゥ語 (st)	1920
スンダ語 (su)	1921
スワヒリ語 (sw)	1923
タミル語 (ta)	2001
テルグ語 (te)	2005
タジル語 (tg)	2007
タイ語 (th)	2008
チグリス語 (ti)	2009
ツルキ語 (tk)	2011
タガログ語 (tl)	2012
セツワナ語 (tn)	2014
トンガ語 (to)	2015
トルコ語 (tr)	2018
ツォンガ語 (ts)	2019
タタール語 (tt)	2020
トウィ語 (tw)	2023
ウクライナ語 (uk)	2111
ウルドゥー語 (ur)	2118
ウズベク語 (uz)	2126
ベトナム語 (vi)	2209
ボラピュク語 (vo)	2215
ウォルフ語 (wo)	2315
コーサ語 (xh)	2408
ユルバ語 (yo)	2515
ズールー語 (zu)	2621

* 言語表記はISO639:1988 (E/F)に準拠 (1999年9月現在)

用語解説

アスペクト比

テレビ画面の横と縦の比率をいいます。ノーマルモニターは4：3ですが、ワイドモニターは16：9の比率となっており、臨場感あふれる映像が楽しめるようになっていきます。

視聴制限（パレンタルロック）

成人向けの内容や暴力シーンなどを含むDVDの中には、視聴制限が記録されているものがあります。このようなディスクでは、本機の視聴制限レベルを設定することで、再生できなくなったり、過激なシーンを飛ばして再生したりすることができます。

ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは最大5.1チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。このシステムは、映画館にサラウンドシステムとして装備されているドルビーデジタルと同一のシステムです。

パケットライト

フロッピーやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-Rなどに書き込む方式の総称です。

ビットレート

1秒当たりの情報量を表し、単位はbps (bit per second) です。この数字が大きいほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3など) での比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。(MP3とATRAC3のように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。)

プレイバックコントロール (PBC)

ビデオCD (バージョン2.0) に記録されている、再生をコントロールするための信号です。PBC付きビデオCDに記録されているメニュー画面を使って、簡単な対話形式のソフトや検索機能のあるソフトの再生が楽しめます。また、高/標準解像度の静止画も楽しむことができます。

マルチアングル

通常のテレビ番組などはテレビカメラからの映像を見ていますので、画像は撮影しているカメラの位置の視点になります。テレビ番組などでは、数台のカメラで同時に撮影した映像のうち1つを各家庭のテレビに送っています。もし、すべてのカメラの映像が同時に送られてくれば、見たい視点の映像を見ることも可能になります。DVDには、同時に複数のカメラで撮影した映像をすべて収録しているものがあり、視点を自由に選ぶことができます。

マルチ音声

DVDの中には、1枚のディスクの中に複数の音声を収録しているものがあります。DVDでは、音声を最大8言語 (8ストリーム) まで記録することができ、その中からお好みの言語を選ぶことができます。

マルチ字幕 (サブタイトル)

映画などでおなじみの字幕です。DVDでは、字幕の言語を最大32カ国語まで記録することができ、その中からお好みの言語を選ぶことができます。

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROMやCD-R、CD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リージョン番号

DVDプレーヤーとDVDディスクは発売地域ごとに再生可能な地域番号（リージョン番号）が設けられており、再生するディスクに記載されている番号にプレーヤーの地域番号が含まれていない場合は再生できません。本機のリージョン番号は「2」です。（本体底面に表記されています。）

リニアPCM (LPCM)

音楽CDに用いられている信号記録方式で、Linear Pulse Code Modulationの略です。

音楽CDでは、44.1 kHz/16 bitで記録されているのに対し、DVDでは、48 kHz/16 bit～96 kHz/24 bitで記録されているため、音楽CDよりも高音質の再生が可能です。

DTS

「Digital Theater Systems」の略です。DTSは、サラウンドシステムで、最大6チャンネルの独立したマルチチャンネルオーディオを提供します。

ID3 Tag

曲の関連情報をMP3ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報は、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容はID3 Tag編集機能のあるソフトを利用して自由に編集ができます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660フォーマット

CD-ROMのファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。

ISO9660フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル1： ファイル名は、8.3形式（名前は半角英大文字と半角数字、“_”で8文字以下、拡張子は3文字）で、各フォルダーの階層は8つ以下

レベル2： ファイル名は、最大31文字（区切り文字、“.”と拡張子を含む）で、各フォルダーの階層は8つ以下

拡張フォーマット

Joliet： ファイル名は、最大で64文字

Romeo： ファイル名は、最大で128文字

m3u

プレイリストファイルの拡張子（.m3u）で、「WINAMP」というソフトで作成したプレイリストに付きます。

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO (国際標準化機構)のワーキンググループ (MPEG) の定めた音声圧縮の規格です。MP3は、音声データを元のデータの約1/10のサイズに圧縮することができます。

MPEG

「Moving Picture Experts Group」の略で、「エムペグ」と読みます。これは動画圧縮の国際標準です。DVDでは、この方式でデジタル音声を圧縮して記録しているものもあります。

VBR (ブイビーアール)

「Variable Bit Rate (可変ビットレート)」の略です。一般的にはCBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変することで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WMA

「Windows Media™ Audio」の略で、米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。WMAデータは、Windows Media Player Ver.7以降を使用してエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

故障かな？と思ったら

故障かな？と思ったら修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。



チェックしても直らないときは本機をリセットしてください。(→P124)





それでも直らないときは「保証書とアフターサービス」(→P145)をお読みになり、修理を依頼してください。

共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(→『取付説明書』)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズを同じ容量のヒューズと交換してください。(→『取付説明書』)
	ノイズなどが原因で内蔵のマイコンが誤動作している。	リセットボタンを押してください。(→P124)
リモコンで操作できない。 操作にあった正しい動作をしない。	リモコンの操作モードが間違っている。	リモコンの操作モードを正しく切り換えてください。(→P19)
	リモコンコードが異なっている。	リモコンコード切り換えスイッチを正しく切り換えてください。(→P123)
	電池が弱っている。	新しい電池に交換してください。(→P18)
	ディスクによっては、禁止している操作があります。	別のディスクで確認してください。
ディスクを再生できない	ディスクが汚れている。	汚れをふき取ってください。(→P131)
	本機で再生できない種類のディスクが入っている。	ディスクを確認してください。

共通項目 (つづき)

症状	原因	処置
音が出ない。	接続が間違っている。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。(→『取付説明書』)
	静止画、スロー、コマ送り再生中である。	静止画、スロー、コマ送り再生中に、音声を聞くことはできません。
映像が出ない。	パーキングブレーキコードが接続されていない。 パーキングブレーキをかけていない。	パーキングブレーキコードを接続し、パーキングブレーキをかけてください。(→『取付説明書』)
 (禁止マーク) が画面に出て操作できない。	ディスクが禁止している操作です。 ディスクの構成上対応できない操作をしている。	この操作はできません。
画面が止まり、操作を受け付けられない。	ディスク再生中にデータを読みとれなくなった。	一度、リモコンの停止 () ボタンを押してから、もう一度再生してください。
音や映像が飛ぶ。	本機がしっかり固定されていない。	本機をしっかり固定してください。
画面が伸びる、アスペクトが合わない。	モニターに対しての設定が正しくない。	ご使用のモニターに合った設定にしてください。
エンジンスイッチをONまたはACCにすると、モーター音がする。	本機がディスクの有無を確認しています。	正常な動作です。
何も表示されない。	バックカメラが接続されていない。	バックカメラを接続してください。(→『取付説明書』)
	バックカメラの設定が間違っている。	正しく設定してください。(→P109)

内蔵プレーヤー：DVD

症状	原因	処置
ディスクを再生できない。	PAL方式のディスクを挿入している。	NTSC方式のディスクに交換してください。
	本機のリージョン番号と異なるディスクを挿入した。	本機と同じリージョン番号のディスクに交換してください
視聴制限のメッセージが表示され、再生ができない。	視聴制限がかかっている。	視聴制限を解除またはレベルを変更してください。
視聴制限を解除できない。	暗証番号が間違っている。	正しい暗証番号を入力してください。
	暗証番号を忘れてしまった。	クリア (C) ボタンを10回押して、暗証番号を解除してください。(→P117)
音声(または字幕)言語が切り換えられない。	ディスクのメニューでしか切り換えできないように制限されている。	ディスクのメニューで切り換えてください。
字幕が出ない。	字幕が収録されていないDVDを再生している。	字幕が収録されていないDVDでは、字幕を表示できません。
	ディスクのメニューでしか切り換えできないように制限されている。	ディスクのメニューで切り換えてください。
DVDセットアップメニューで選んだ音声言語、字幕言語にならない。	DVDセットアップメニューで選んだ言語が収録されていないDVDを再生している。	DVDセットアップメニューで選んだ言語が収録されていないDVDでは、選んだ言語には切り換わりません。
アングルを切り換えて見ることができない。	複数のアングルが収録されていないDVDを再生している。	複数のアングルが収録されていないDVDでは、切り換えできません。
	複数のアングルが収録されていない場面で操作している。	複数のアングルが収録されている場面で、操作してください。
ディスク再生中に映像が乱れる。映像が暗い。	ディスクコピー禁止信号が入っている。(ディスクによって入っている場合があります。)	本製品はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しているため、コピー禁止信号が入っているディスクを再生した場合は、一部のモニターでは横縞が入るなどの症状が出るものもあります。これは、正常な動作です。

内蔵プレーヤー：ビデオCD

症状	原因	処置
PBCのメニュー画面を呼び出せない。	PBCの付いていないビデオCDを再生している。	PBCの付いていないビデオCDでは操作できません。
リピート再生、トラック/タイムサーチができない。	PBCの付いているビデオCDを再生している。	PBCの付いているビデオCDでは操作できません。

内蔵プレーヤー：CD

症状	原因	処置
CD再生中、大きな雑音が出る。	CDに大きなキズやそりがある。	他のCDと交換してください。良くなればCDの不良です。
CDの再生が途中で止まる。CDが自動的に出てくる。	CDが極端に汚れている。	CDの汚れをふき取ってください。 (→P131)
	CDに曇りや水滴がついている。	CDの曇りや水滴をふき取ってください。 (→P131)

テレビ

症状	原因	処置
テレビの映りが悪い。 “ジージー、ザーザー” という雑音が多い。	チャンネルが合っていない。	チャンネルを正しく合わせてください。(→P65)
	放送局の電波が弱い。	他のチャンネルを選局してみてください。(→P65)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、映りが良くなり、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	強い電波の放送局がない。	手動で選局してください。 (→P66)

ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジージー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。 (→P60)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。(→P60)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音も少なくなります。
自動選局できない。	強い電波の放送局がない。	手動で選局してください。 (→P60)

5.1 ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」接続時

症状	原因	処置
音が出ないスピーカーがある。	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(→P93)
	スピーカーレベルの設定が極端に小さくなっている。	他のスピーカーのレベルとバランスを取ってください。(→P95)
	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズをSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(→P94)
スピーカーを調節できない。	スピーカーのサイズ設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(→P93)
タイムアライメントを調節できない。	リスニングポジションの設定が間違っている。	リスニングポジションを正しく設定してください。(→P89)
	スピーカーサイズの設定がOFFになっている。	接続しているスピーカーのサイズを正しく設定してください。(→P93)
サブウーファアの位相が切り換えられない。	サブウーファアの設定がOFFになっている。	サブウーファアの設定をONにしてください。(→P94)
低音域が聞こえない。	サブウーファアの設定がOFFで、それ以外のスピーカーのサイズ設定もSMALLやOFFになっている。	正しく調節してください。(サブウーファアを接続していないときは、フロントまたはリアスピーカーのサイズ設定はLARGEにしてください。)(→P94)
ドルビープロロジックIIをONにすると、音が出ないことがある。	センタースピーカーを接続していない状態で、センタースピーカーのサイズをSMALLやLARGEにしている。	センタースピーカーのサイズ設定をOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックIIをONにすると、センタースピーカーだけから音が出力されます。)(→P94)
センタースピーカー以外のスピーカーから音が出ないことがある。	ドルビープロロジックIIがONになっている。	ドルビープロロジックIIをOFFにしてください。(モノラル音声の場合、ドルビープロロジックIIをONにすると、センタースピーカーだけから音が出力されます。)(→P94)
ダイナミックレンジコントロールをONにしても効果がない。	再生しているソースがドルビーデジタル音声でない。	ドルビーデジタル音声にだけ有効な機能です。(→P91)
DVDの音声だけ出ない。	光デジタルラインが外れている。	「DEQ-P9」に、光デジタルラインを正しく接続してください。(→『取付説明書』)

こんなメッセージが表示されたら

内蔵プレーヤーのエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-02」	ディスクが汚れているとき。	ディスクの汚れをふき取ってください。(→P131)
	ディスクにキズやひびがあるとき。	ディスクを交換してください。
「ERROR-05」	電気系、機構系の故障が考えられるとき。	リセットボタンを押してください。(→P124)
「DIFFERENT REGION DISC」	リージョン番号が異なるディスクを使用しているとき。	リージョン番号「2」を含むDVDに交換してください。
「NON PLAYABLE DISC」	本機では再生できないディスクを使用しているとき。	本機で再生できるディスクに交換してください。(→P126)
「TEMP」	本機の内部温度に異常があるとき。	本機が正常に動作する温度になるまでお待ちください。
「PROTECT」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されているとき。	ディスクを交換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたWMAファイルを再生したとき。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。



・マルチCD再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチCDの取扱説明書をご覧ください。

オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「Error check MIC」	マイクが接続されていない。	「DEQ-P9」付属のマイクをきちんと差し込んでください。(→P102)
「Error check front SP」, 「Error check FL SP」, 「Error check FR SP」, 「Error check center SP」, 「Error check RL SP」, 「Error check RR SP」, 「Error check subwoofer」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。(→「取付説明書」)
		「DEQ-P9」付属のマイクを正しくセットしてください。 なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。
「Error check noise」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	なるべく静かな所に車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 「DEQ-P9」付属のマイクを正しくセットしてください。

その他の注意表示

メッセージ	意味
「Please source unit off Hold EQ button 2 sec, Set Auto EQ&TA」	ソースをオフにし、【EQ】 ボタンを約2秒以上押してから、「オートイコライジング&タイムアライメント」を設定してください。
「Can't adjust Time Alignment. Set Position FL or FR」	タイムアライメントが調節できません。「リスニングポジション」を「FL」または「FR」に設定してください。
「YOU CANNOT USE THIS FUNCTION WHILE DRIVING」	走行中は、この機能を使用することはできません。
「VIDEO VIEWING IS NOT AVAILABLE WHILE DRIVING」	走行中は、映像(DVD、ビデオCD、テレビ、ビデオ)をご覧になれません。
「Press track list to play and title will appear」	再生したいトラックリストにタッチしてください。曲名が表示されます。

保証書とアフターサービス

保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店またはお近くのパイオニアサービスステーションにご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。(性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

仕様

共通部

使用電源：
DC 14.4 V (10.8~15.1 V 使用可能)

アース方式：
マイナスアース方式

最大消費電流：
本体：1.0 A
ハイダウェイ部：4.0 A

外形寸法：
(本体取付寸法)
178 (W) × 50 (H) × 165 (D)
mm

(本体ノーズ寸法)：
170 (W) × 46 (H) × 25 (D)
mm

(ハイダウェイ部寸法)
173 (W) × 30 (H) × 151 (D)
mm

質量：
本体：2.3 kg (コードユニット含まず)
ハイダウェイ部：0.8 kg (コードユニット含まず)

モニター部

画面サイズ：
7.0 インチワイドモニター

アスペクト比：
16 : 9

有効表示面積：
154 × 87 mm

有効画素数：
336,960 画素 (1,440 × 234)

方式：
TFTアクティブマトリクス方式
NTSC方式

使用温度範囲：
-10 ~ +50 °C

保存温度範囲：
-20 ~ +80 °C

スライド角度調整範囲：
50° ~ 110° (初期設定角度：110°)

アンプ・オーディオ部

最大出力：
50W × 4
for SUB-WOOFER (70w × 1ch/2 Ω)

定格出力：

22W × 4 (50 ~ 15 KHz, 5% THD,
4 Ω LOAD, BOTH Channels Driven)

負荷インピーダンス：

4 Ω (4 ~ 8 Ω (2 Ω for 1ch) 使用
可能)

プリアウト：

最大出力レベル： 2.2 V
インピーダンス： 1 k Ω

イコライザー：

3バンドパラメトリックイコライザー：

(LOW)：
周波数 40,80,100,160 Hz
Qファクター 0.35/0.59/0.95/1.15
(+6 dBブースト時)

調整幅 ±12 dB

(MID)：

周波数 200,500,1 k,2 k Hz
Qファクター 0.35/0.59/0.95/1.15
(+6 dBブースト時)

調整幅 ±12 dB

(HIGH)：

周波数 3.15 k,8 k,10 k,12.5 k Hz
Qファクター 0.35/0.59/0.95/1.15
(+6 dBブースト時)

調整幅 ±12 dB

ラウドネスコンター：

(LOW) 3.5 dB (100 Hz)
3 dB (10 kHz)

(MID) 10 dB (100 Hz)
6.5 dB (10 kHz)

(HIGH) 11 dB (100 Hz)
11 dB (10 kHz)
(ボリューム：-30 dB)

トーンコントロール：

(BASS)：
周波数 40/63/100/160Hz
調整幅 ±12 dB

(TREBLE)：
周波数 2.5 k/4 k/6.3 k/10 kHz
調整幅 ±12 dB

ハイパスフィルター：

周波数 50/80/125 Hz
スロープ -12 dB/oct

サブウーファーアウトプット：

周波数 50/80/125 Hz
スロープ -18 dB/oct

調整幅 ±12 dB
位相 NORMAL/REVERSE

DVDプレーヤー部

形式：
DVDビデオ、ビデオCD、CDシステム

リージョン番号：
2

使用ディスク：
DVDビデオ、ビデオCD、CD

信号フォーマット：
サンプリング周波数：
44.1/48/96 kHz
量子化ビット数：
16/20/24ビット直線

周波数特性：
5 ~ 44,000 Hz (DVD、サンプリング
周波数96 kHz時)

S/N比：
97 dB (IHF-A ネットワーク)
96 dB (IHF-A ネットワーク) : CD

ダイナミックレンジ：
95 dB (1 kHz)
94 dB (1 kHz) : CD

高調波歪率：
0.008 % (1 kHz)

出力レベル：
映像
1.0 Vp-p/75 Ω
音声
1.0 V (1 kHz, 0 dB)

チャンネル数：

2 (ステレオ)

MP3デコーディングフォーマット：
MPEG-1 & 2 Audio Layer-3

WMAデコーディングフォーマット：
Ver. 7 & 8

FM チューナー部

受信周波数帯域：
76.1 ~ 89.9 MHz

実用感度：
8 dBf (0.7 μV/75 Ω、モノラル、
S/N : 30 dB)

50 dB感度：
10 dBf (0.9 μV/75 Ω、モノラル)

S/N：
75 dB (IHF-A ネットワーク)

高調波歪率：
0.3% (65 dBf入力、1 kHz、ステレオ)
0.1% (65 dBf入力、1 kHz、モノラル)

周波数特性：
30 ~ 15,000 Hz (±3 dB)

ステレオセパレーション：
54 dB (65 dBf入力、1 kHz)

AMチューナー部

受信周波数帯域：
522 ~ 1,629 kHz

実用感度：
18 μV (S/N : 20 dB)

S/N：
65 dB (IHF-A ネットワーク)

TVチューナー部

受信チャンネル：
VHF1 ~ 12 ch, UHF13 ~ 62 ch

映像信号方式：
NTSC

実用感度：
6 dBμ (75 Ω、モノラル音声)

映像 S/N：
40 dB以上 (59 dBμ入力、白100 %)

映像雑音制限感度：
40 dBμ

アンテナ入力：
4 chダイバシティ (φ3.5ミニプラグ)

アンテナケーブル長：
左：4.0 m
右：5.5 m

付属品

リモコン	: 1
リチウム電池 (CR2025)	: 1
コードユニット	: 1式
取付ネジ類	: 1式
ダイバシティフィルムアンテナ	: 1式
取扱説明書	: 1
取付説明書	: 1
安全上のご注意	: 1
保証書	: 1
ご相談窓口・修理窓口のご案内	: 1



・上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

索引

メニュー索引

C D	SEARCH	→P48
	■ (停止)	→P47
	⏮ (早戻し)	→P47
	▶⏸ (再生/一時停止)	→P47
	▶▶ (早送り)	→P47

WMA/MP3	LIST	→P55
	■ (停止)	→P54
	⏮ (早戻し)	→P54
	▶⏸ (再生/一時停止)	→P54
	▶▶ (早送り)	→P54
	☰ (詳細)	→P55
	DISP	→P53
📁 (フォルダー)	→P55	

V-CD	◀⏸ (スロー再生)	→P41
	■ (停止)	→P41
	⏸▶ (スロー再生)	→P41
	⏮ (早戻し)	→P42
	▶⏸ (再生/一時停止)	→P41
	▶▶ (早送り)	→P42
	10key	→P43

DVD-V	MENU (SETUP)	→P35.P112
	◀⏸ (スロー再生)	→P34
	■ (停止)	→P33
	⏸▶ (スロー再生)	→P34
	TOP.M	→P35
	⏮ (早戻し)	→P34
	▶⏸ (再生/一時停止)	→P33
	▶▶ (早送り)	→P34
	▲/▼	→P35
	AUDIO	→P36
	SUB.T	→P36
	ANGLE	→P36
	RETURN	→P37
	SEARCH	→P37
	10key	→P38
	A.PLAY	→P38
	⏪	→P35

Tuner	LIST	→P60
	BAND	→P59
	▲/▼/◀/▶	→P60

T V	LIST	→P65
	▲/▼/◀/▶	→P66
	BAND	→P65

M-CD	LIST	→P69
	▲/▼/◀/▶	→P70
	▶⏸ (再生/一時停止)	→P69
	DISP	→P73

S-DVD	▲/▼/◀/▶	→P77
	▶⏸ (再生/一時停止)	→P77

FUNC	REPEAT	→P48
	RANDOM	→P49
	SCAN	→P49
	T.LIST	→P49
	T.EDIT	→P50

FUNC	REPEAT	→P56
	RANDOM	→P57
	SCAN	→P57

FUNC	REPEAT	→P44
	L/R SELECT	→P45

FUNC	REPEAT	→P39
	L/R SELECT	→P39

FUNC	BSM	→P62
	STNAME	→P62

FUNC	BSSM	→P67
	MPX	→P67

FUNC	REPEAT	→P70
	RANDOM	→P71
	SCAN	→P71
	T.EDIT	→P72
	COMP	→P72
	ITS PLAY	→P74
	ITS MEMO	→P75

FUNC	REPEAT	→P78
	RANDOM	→P78
	SCAN	→P79

AUDIO	FAD/BAL	→P80
	EQ MENU	→P81
	BASS	→P82
	TREBLE	→P83
	LOUD	→P83
	SUB WOOFER	→P83
	HPF	→P85
	SLA	→P85
SFE/H.SPC	→P86	

DSP	POSI	→P89
	FAD/BAL	→P90
	SLA	→P90
	D.R.C	→P91
	DOWN MIX	→P91
	DIGITL DIRECT	→P92
	DOLBY PL II	→P92
	SP SET	→P93
	SP LEVEL	→P95
	CROSS OVER	→P94
	TEST TONE	→P96
	TIME ALIGN	→P96
	PARA EQ	→P98
	AUTO EQ	→P99

INIT	AUX	→P104
	ILM SW	→P105
	REARSP	→P105
	D.ATT	→P106
	TEL/GUIDE	→P106
	NV SRC	→P107
	RESET	→P107

SET UP	AV IN	→P109
	B-CAM	→P109
	FLP ST	→P110
	CLOCK	→P110
	R.DISP	→P111

DVD SET UP	LANGUAGE	→P112
	SUB.T LANG	→P112
	AUDIO LANG	→P113
	MENU LANG	→P113
	A SUB TITL	→P114
	VISUAL	→P112
	M.ANGLE	→P114
	TV ASPECT	→P115
	PARENTAL	→P116

■用語索引

あ

アシスト字幕	114
アスペクト比	115
イコライザーカーブ	81
一時可倒	26
一時停止	
CD	47
DVD	33
WMA/MP3	54
ビデオCD	41
マルチCD	69
イルミネーション	105
エラー表示	145
エンタテインメント	118
音声言語	36、113

か

外部機器	104
角度調節	25
画質調整	122
基本設定メニュー	108
言語コード表	136
交通情報	63
コマ送り再生	
DVD	34
ビデオCD	41

さ

サブウーファー	83
視聴制限	116
自動開閉	110
字幕言語	36、112
情報プレート	21
初期設定メニュー	104
スキャン再生	
CD	49
WMA/MP3	57
マルチCD	71
スロー再生	
DVD	34
ビデオCD	41
セットバック	110
ソースアイコン	21

た

タイトルサーチ	38
タイトル入力	
CD	50
マルチCD	72
タイムサーチ	
DVDビデオ	37
ビデオCD	43
タイムアライメント	96、97
ダイレクトサーチ	38、43
タッチキー	28
チャプターサーチ	37
停止	
CD	47
DVD	33
WMA/MP3	54
ビデオCD	41
ディスクの自動再生	38
ディスクメニュー	35
テストトーン	96
時計	110
トラックサーチ	
CD	48
WMA/MP3	54
ビデオCD	43
ドルビーデジタル	10
ドルビープロロジックII	92

は

パケットライト	137
バックカメラ	109
早戻し/早送り	
CD	42
DVD	34
WMA/MP3	54
ビデオCD	42
マルチCD	70
パレンタルロック	116、137
バンド	59、65
ビットレート	137
ブックマーク	34
プリセットチャンネル	60、61、65、66
ファイル名	55
フォルダー	55

ま

マニュアル選局 60、65
 マルチアングル 36、114、137
 マルチ音声 137
 マルチ字幕 137
 マルチセッション 138
 メニュー言語 113
 ミュート/アッテネート(TEL/GUIDE) 106

ら

ランダム再生
 CD 49
 WMA/MP3 57
 マルチCD 71
 リージョン番号 128、138
 リセット 107、124
 リニアPCM 138
 リピート再生
 CD 48
 DVD 39
 WMA/MP3 56
 ビデオCD 44
 マルチCD 70
 リモコンコード 123
 リモコンの操作モード 19

わ

ワイド画面 120
 ワイドモード 121

アルファベット・数字

2カ国語放送 67
 Auto TA&EQ 100、102
 AV入力 109
 AVHモード 19
 BSM 62
 BSSM 67
 CD TEXT 51、73
 COMP 72
 DBE 72
 DIGITAL ATT 106
 DSPメニュー 88
 DTS 10、138
 DVD自動再生 38
 DVDセットアップメニュー 112
 DVDモード 19
 FUNCTIONメニュー
 CD 48
 DVD 39
 WMA/MP3 56
 テレビ 66
 ビデオCD 44
 マルチCD 70
 ID3 Tag 138
 iPod 120
 ISO 9660フォーマット 138
 ITS再生 74
 ITSリスト 74
 m3u 138
 MP3 11、52、129、139
 MPEG 139
 PBC 42、137
 Qファクター 82
 SFC 88
 SFE 86
 SLA 85
 TVアスペクト 115
 TVモード 19
 VBR 139
 WMA 11、52、129、139



この説明書の印刷には、植物性大豆インキを使用しています。

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。なお、修理をご依頼される場合は、取扱説明書の『故障かな？と思ったら』を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

●パイオニアホームページ：お客様サポート <http://www.pioneer.co.jp/support/index.html>
（商品についてよくあるお問い合わせ・カタログの請求・メールマガジン登録のご案内など）

<下記窓口へのお問い合わせ時のご注意>

市外局番「0070」で始まる ☎ フリーフォン、および「0120」で始まる ☎ フリーダイヤルは、PHS、携帯電話などからはご使用になれません。また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

商品のご購入や取り扱いについてのご相談窓口

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーフォン）

受付 月曜～金曜 9:30～17:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

- カーオーディオ／カーナビゲーション商品のご相談窓口およびカタログのご請求窓口
☎ **0070-800-8181-11**
☎ 【一般電話】 **03-5496-8016**
- ファックス受付
☎ **03-3490-5718**

部品のご購入についてのご相談窓口

●部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入については、部品受付センターへお問い合わせください。

部品受付センター

受付 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

- ☎ **0120-5-81095**
- ☎ 【一般電話】 **0538-43-1161**
- ☎ **0120-5-81096**

修理についてのご相談窓口

●お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合は、修理受付センターへ（沖縄の方は、沖縄サービスステーションへ）

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付 月曜～金曜 9:30～19:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～18:00（弊社休業日は除く）

- ☎ **0120-5-81028**
- ☎ 【一般電話】 **03-5496-2023**
- ☎ **0120-5-81029**

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付 月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

- ☎ 【一般電話】 **098-879-1910**
- ☎ **098-879-1352**

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

©パイオニア株式会社 2005

< KNNFF > < 05B00000 > < CRA3722-A >